

上ノ原平原遺跡

主要地方道円座中津線(相原工区)道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2000

大分県教育委員会

上ノ原平原遺跡

主要地方道円座中津線(相原工区)道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



上ノ原平原遺跡全景（南東より）

序

本書は大分県教育委員会が大分県土木建築部の依頼を受けて、平成7年10月から平成11年3月に実施した県道円座中津線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の記録です。

中津市・三光村は、周防灘に面した自然豊かな地域であり、人々は原始古代からこの自然を利用して高度な文化を育んできました。その証として中津平野周辺には数多くの遺跡が存在しています。中でも昭和55年から昭和60年にかけて発掘調査を実施した上ノ原横穴墓群は、日本最古の横穴墓群の一つで5世紀後半の親族・祭祀形態を解明する貴重な事例となりました。

今回、調査した上ノ原平原遺跡は、この上ノ原横穴墓群よりさらに古い時代である弥生時代前期から中期にかけてのもので、この遺跡の発見は当地域の未だ知られざる歴史を解明するうえで重要な資料となりました。

今後、本書が文化財の保護・啓発並びに学術研究に役立てば幸いに存じます。

最後に、この発掘調査に多大なる御協力を頂いた関係各位に対して、衷心より感謝を申し上げます。

平成12年3月31日

大分県教育委員会教育長

田 中 恒 治

例 言

1. 本書は、大分県中津市・三光村に所在する上ノ原平原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、県道円座中津線(相原工区)道路改良事業に伴うもので、大分県教育委員会・三光村教育委員会が実施した。
3. 出土遺物及び関係資料は大分県教育庁文化課文化財資料室・三光村教育委員会でそれぞれ保管している。
4. 本書の編集・執筆は栗原 眞(大分県教育庁文化課)、平田由美(三光村教育委員会)が行った。

本文目次

序

例言

本文目次

第Ⅰ章 調査の概要	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	1
3. 調査の経過	1
第Ⅱ章 地理的歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の成果	7
第1節 A区の調査	7
1. 調査の概要	7
2. 遺構と遺物	7
第2節 B区の調査	35
1. 調査の概要	35
2. 遺構と遺物	35
第3節 C区の調査	38
1. 調査の概要	38
2. 遺構と遺物	38
第4節 D区の調査	73
1. 調査の概要	73
2. 遺構と遺物	73
第5節 E区の調査	82
1. 調査の概要	82
2. 遺構と遺物	82
第Ⅳ章 まとめ	85

插图目次

第1图	上ノ原平原遺跡位置図	2
第2图	上ノ原平原遺跡周辺遺跡分布図	3~4
第3图	上ノ原平原遺跡周辺地形図	5~6
第4图	A区遺構配置図	8
第5图	A区1号溝実測図	11
第6图	A区1号溝土層図	11
第7图	A区1号土器溜実測図	11
第8图	A区1号竪穴遺構実測図	12
第9图	A区4号溝・33号土坑実測図	12
第10图	A区8号土坑実測図	12
第11图	A区10号土坑実測図	12
第12图	A区11号土坑実測図	12
第13图	A区13号土坑実測図	13
第14图	A区14号土坑実測図	13
第15图	A区18号土坑実測図	13
第16图	A区19号土坑実測図	13
第17图	A区20号土坑実測図	13
第18图	A区21号土坑実測図	13
第19图	A区22号土坑実測図	13
第20图	A区25号土坑実測図	13
第21图	A区23号土坑実測図	14
第22图	A区26号土坑実測図	14
第23图	A区27号土坑実測図	14
第24图	A区28号土坑実測図	14
第25图	A区30号土坑実測図	14
第26图	A区31号土坑実測図	14
第27图	A区34号土坑実測図	15
第28图	A区37号土坑実測図	15
第29图	A区39号土坑実測図	15
第30图	A区43号土坑実測図	15
第31图	A区45号土坑実測図	15
第32图	A区47号土坑実測図	15
第33图	A区42号土坑実測図	16
第34图	A区46号土坑実測図	16
第35图	A区48号土坑実測図	16

第36图	A区50号土坑实测图	16
第37图	A区出土遺物实测图(1)	16
第38图	A区出土遺物实测图(2)	17
第39图	A区出土遺物实测图(3)	18
第40图	A区出土遺物实测图(4)	18
第41图	A区出土遺物实测图(5)	19
第42图	A区出土遺物实测图(6)	20
第43图	A区出土遺物实测图(7)	21
第44图	A区出土遺物实测图(8)	22
第45图	A区出土遺物实测图(9)	23
第46图	A区出土遺物实测图(10)	24
第47图	A区出土遺物实测图(11)	25
第48图	A区出土遺物实测图(12)	26
第49图	A区出土遺物实测图(13)	27
第50图	A区出土遺物实测图(14)	28
第51图	A区出土遺物实测图(15)	29
第52图	B·C·D区遺構配置图	33~34
第53图	B区1号竖穴住居跡实测图	35
第54图	B区1号土坑实测图	36
第55图	B区2号土坑实测图	36
第56图	B区1号溝状遺構实测图	37
第57图	C区1号竖穴住居跡实测图	38
第58图	C区1号竖穴住居跡出土遺物实测图	38
第59图	C区2号竖穴住居跡实测图	39
第60图	C区3号竖穴住居跡实测图	39
第61图	C区1号竖穴遺構实测图	40
第62图	C区1号竖穴遺構出土遺物实测图	40
第63图	C区2号竖穴遺構·4号土坑实测图	41
第64图	C区2号竖穴遺構出土遺物实测图	41
第65图	C区3号竖穴遺構实测图	42
第66图	C区3号竖穴遺構出土遺物实测图	42
第67图	C区4号竖穴遺構实测图	43
第68图	C区4号竖穴遺構出土遺物实测图	43
第69图	C区5号竖穴遺構实测图	44
第70图	C区6号竖穴遺構实测图	45
第71图	C区6号竖穴遺構出土遺物实测图	45
第72图	C区7号竖穴遺構实测图	46

第73图	C区7号竖穴遺構出土遺物実測図	46
第74图	C区8号竖穴遺構実測図	47
第75图	C区1号土坑実測図	47
第76图	C区1号土坑出土遺物実測図	48
第77图	C区2号土坑実測図	48
第78图	C区2～4号土坑出土遺物実測図	48
第79图	C区3号土坑実測図	49
第80图	C区5号土坑実測図	49
第81图	C区5号土坑出土遺物実測図	51
第82图	C区6号土坑実測図	52
第83图	C区6号土坑出土遺物実測図	52
第84图	C区7号土坑実測図	53
第85图	C区8号土坑実測図	53
第86图	C区9号土坑実測図	54
第87图	C区9号土坑出土遺物実測図	54
第88图	C区10号・11号土坑実測図	55
第89图	C区12～14号土坑実測図	56
第90图	C区10号土坑出土遺物実測図	57
第91图	C区11号土坑出土遺物実測図	57
第92图	C区12号・13号土坑出土遺物実測図	57
第93图	C区13号土坑出土遺物実測図	57
第94图	C区15号土坑実測図	58
第95图	C区15号土坑出土遺物実測図	58
第96图	C区16号土坑実測図	58
第97图	C区17号土坑実測図	58
第98图	C区18号・19号土坑実測図	59
第99图	C区18号土坑出土遺物実測図	59
第100图	C区19号土坑出土遺物実測図	60
第101图	C区20号土坑実測図	62
第102图	C区21号土坑実測図	62
第103图	C区22号土坑実測図	62
第104图	C区22号土坑出土遺物実測図	64
第105图	C区23号土坑実測図	65
第106图	C区23号土坑出土遺物実測図	65
第107图	C区24号土坑実測図	66
第108图	C区24号土坑出土遺物実測図	67
第109图	C区24号土坑出土遺物実測図	67

第110图	C区25号土坑实测图	67
第111图	C区25号土坑出土遺物实测图	68
第112图	C区26号土坑实测图	68
第113图	C区27号土坑实测图	69
第114图	C区28号土坑实测图	69
第115图	C区29号·30号土坑实测图	70
第116图	C区29号土坑出土遺物实测图	70
第117图	C区1号方形周溝墓实测图	71
第118图	C区1号方形周溝墓出土遺物实测图	72
第119图	C区1号·2号溝状遺構实测图	72
第120图	C区3号溝状遺構实测图	73
第121图	D区1号豎穴住居跡实测图	74
第122图	D区1号豎穴住居跡出土遺物实测图	74
第123图	D区1号土坑实测图	75
第124图	D区2号土坑实测图	75
第125图	D区3号·4号土坑实测图	76
第126图	D区5号土坑实测图	77
第127图	D区6号土坑实测图	77
第128图	D区7号土坑实测图	78
第129图	D区8号土坑实测图	79
第130图	D区9号土坑实测图	79
第131图	D区9号土坑出土遺物实测图	80
第132图	D区10号土坑实测图	80
第133图	D区10号土坑出土遺物实测图	80
第134图	D区11号土坑实测图	80
第135图	D区道状遺構实测图	81
第136图	D区表採遺物实测图	81
第137图	E区1号溝实测图	83~84

表 目 次

第1表	A区出土土器觀察表(1)	30
第2表	A区出土土器觀察表(2)	31
第3表	A区出土土器觀察表(3)	32
第4表	A区出土石器觀察表	32
第5表	D区表採遺物觀察表	82

写真図版目次

- 図版1 A区全景 1号溝全景 1号溝土層
- 図版2 上ノ原平原遺跡調査区C区・D区全景
- 図版3 B区1号竪穴住居跡 B区2号土坑
- 図版4 B区1号溝状遺構 C区南西部端遠景
- 図版5 C区北西部端遠景 C区3号竪穴遺構
- 図版6 C区4号竪穴遺構 C区5号竪穴遺構
- 図版7 C区北西部遠景 C区6号竪穴遺構
- 図版8 C区北東部遠景 C区23号土坑
- 図版9 C区18号・19号土坑 C区25号土坑
- 図版10 C区5号土坑 C区作業風景
- 図版11 C区方形周溝墓 D区1号・2号土坑
- 図版12 D区5号土坑 D区6号土坑
- 図版13 D区7号~10号土坑 D区道状遺構・11号土坑
- 図版14 E区遠景 1号溝全景 1号溝土層
- 図版15 A区出土遺物
- 図版16 A区出土遺物
- 図版17 C区5号土坑出土遺物
- 図版18 C区19号土坑出土遺物 C区22号土坑出土遺物
- 図版19 C区23号土坑出土遺物 C区25号土坑出土遺物 方形周溝墓出土遺物
D区表採遺物
- 図版20 D区表採遺物 C区1号竪穴遺構出土遺物 C区2号竪穴遺構出土遺物
C区6号土坑出土遺物 C区13号土坑出土遺物 C区18号土坑出土遺物
C区24号土坑出土遺物

第 I 章 調査の概要

1. 調査に至る経過

平成7年5月26日、大分県土木建築部より県道円座中津線(相原工区)道路改良事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査を依頼された。これを受けて平成7年8月1日より三光村教育委員会の協力を得て試掘調査を実施し、その結果、弥生時代の遺構・遺物を確認したので本調査を決定した。

2. 調査の組織

平成7年度	調査主体	三光村教育委員会
	教育長	花崎貞雄
	調査員	植田由美(同教育委員会文化財係)
平成8年度	調査主体	大分県教育委員会
	教育長	田中恒治
	文化課長	後藤一郎
	調査主任	渋谷忠章(大分県教育庁文化課主幹兼埋蔵文化財第2係長)
	調査員	栗原 眞(同文化課主査) 豊田徹士(同文化課嘱託)
平成10年度	調査主体	三光村教育委員会
	教育長	花崎貞雄
	調査員	平田由美(同教育委員会文化財係)

3. 調査の経過

平成7年度調査

調査は平成7年10月2日から平成8年3月2日まで行った。調査区はA区で面積は約2000m²であった。調査は重機を用いて表土を除去後、人力による遺構検出を行った。調査の結果、溝状遺構5条、竪穴遺構1基、土坑51基を確認した。

平成8年度調査

調査は平成8年9月2日から平成9年2月20日まで行った。調査区は3箇所(B～D区)で約2000m²である。調査は重機を用い表土を除去した後、人力による遺構検出を行った。精査の結果、B区では住居跡1基、溝状遺構1条、土坑2基を、C区では住居跡3基、竪穴遺構8基、溝3条、土坑30基を、D区では住居跡1基、道状遺構1条、土坑11基をそれぞれ確認した。

平成10年度調査

調査は平成10年7月1日～平成11年3月31日まで行った。調査面積は1260m²で、幅員約6m、全長約210mのトレンチ状の調査区(E区)であった。住居跡等は検出されなかったが、平成7年度に行ったA区で確認された1号溝の続きを確認出来た。しかし遺構にともなう出土遺物はほとんど無い。

第Ⅱ章 地理的歴史的環境

1. 地理的環境

上ノ原平原遺跡は、県境を流れている山国川を西に望む海拔30m余りの洪積台地上（下毛原丘陵）の中津市及び三光村との境界に位置している。

2. 歴史的環境

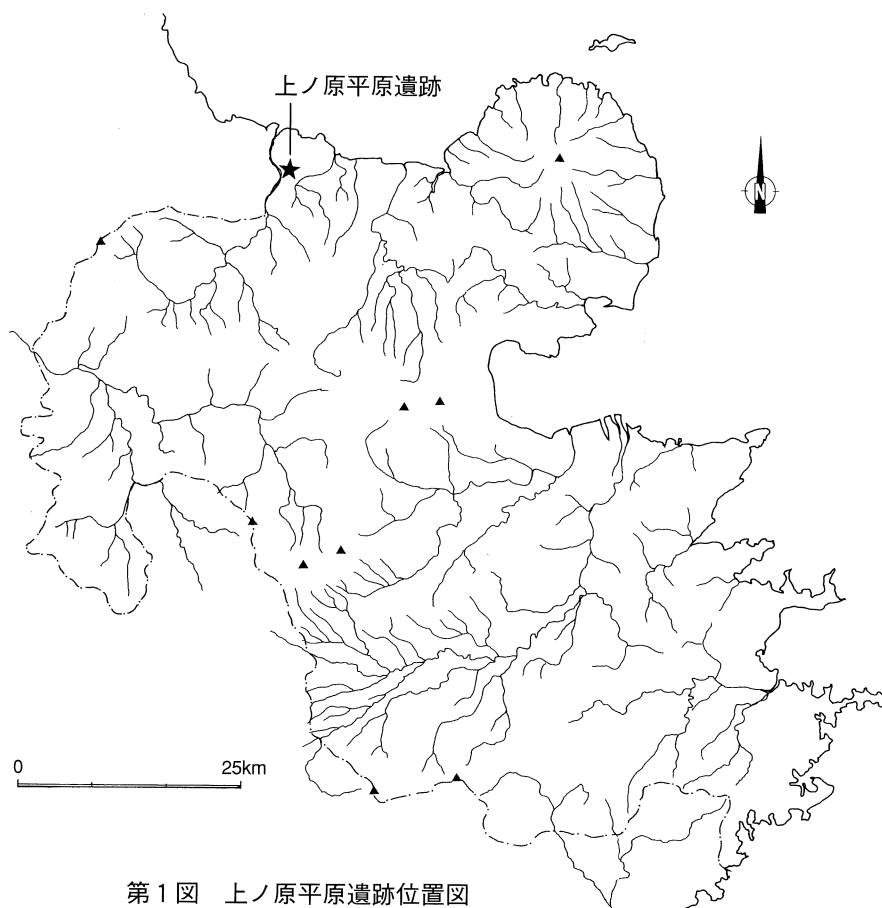
上ノ原平原遺跡には、縄文時代から古墳時代を中心に旧石器時代から近世に至るまで多くの遺跡が所在している。

この周辺の遺跡については、多くの報告書が刊行され、詳細に記されているので、ここでは弥生時代から古墳時代にかけての遺跡のみを概観する。

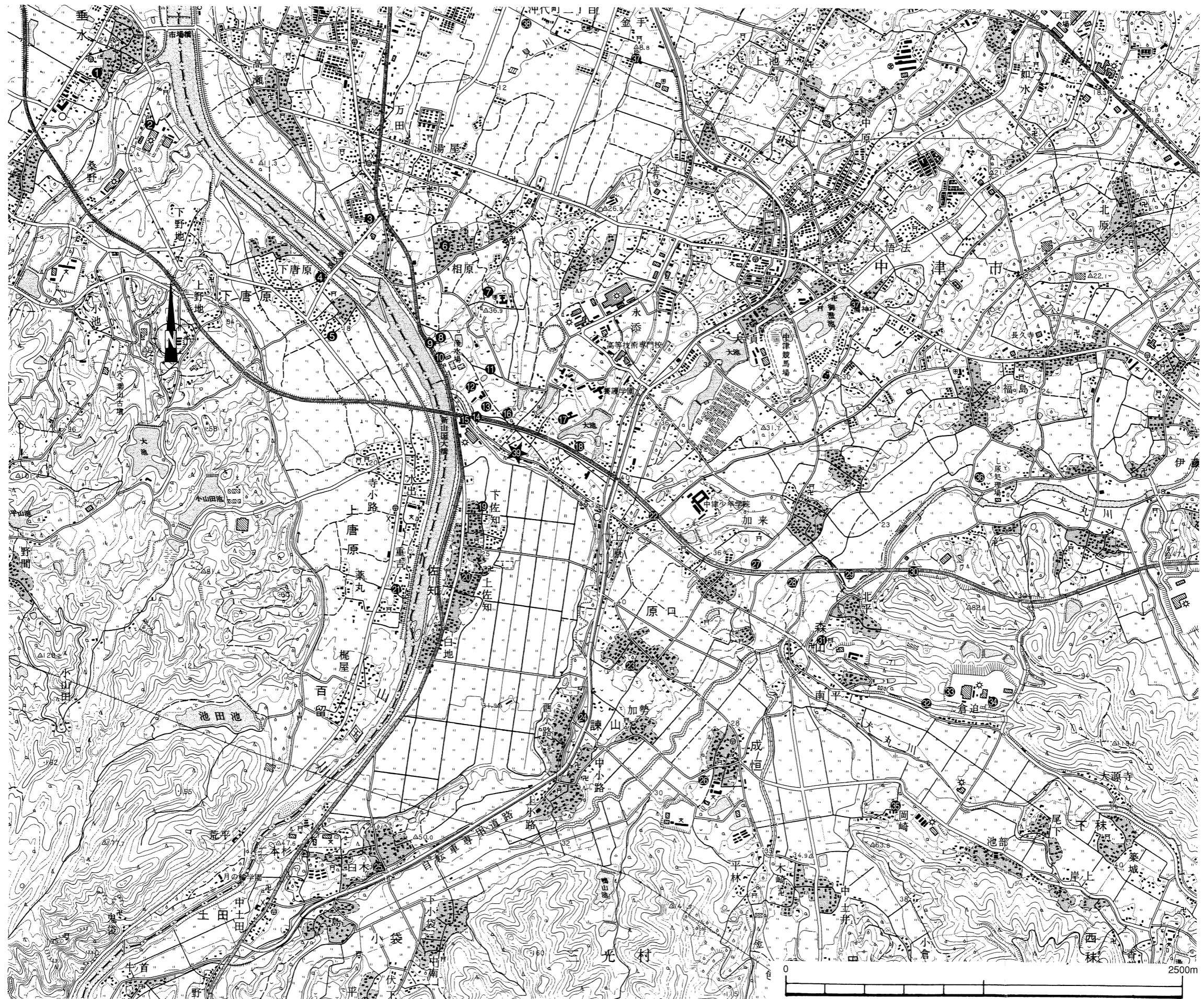
弥生時代は中津市から三光村にかけて、沖積平野の低地部及び微高地部・台地部において多くの遺跡が確認されている。調査例として三光村の佐知遺跡、森山遺跡、中津市の上ノ原平原A遺跡、福島遺跡などが確認されているが、なかでも森山遺跡は、下毛原丘陵上に広がる弥生時代前期末から後期にかけての集落の全容が確認された遺跡として知られている。

古墳時代の調査例としては、集落跡として三光村の佐知遺跡、中津市の樋多田遺跡などが、墓地群としては三光村の上ノ原横穴墓群、中津市の勘助野地遺跡、幣旗邸古墳などが見られる。特に古墳時代後期の当地域は横穴墓が一般的な葬法と考えられ、周辺に横穴墓が多く見られる。

参考文献 渡邊澄夫編 『角川日本地名大事典』44 大分県編 角川書店 1980

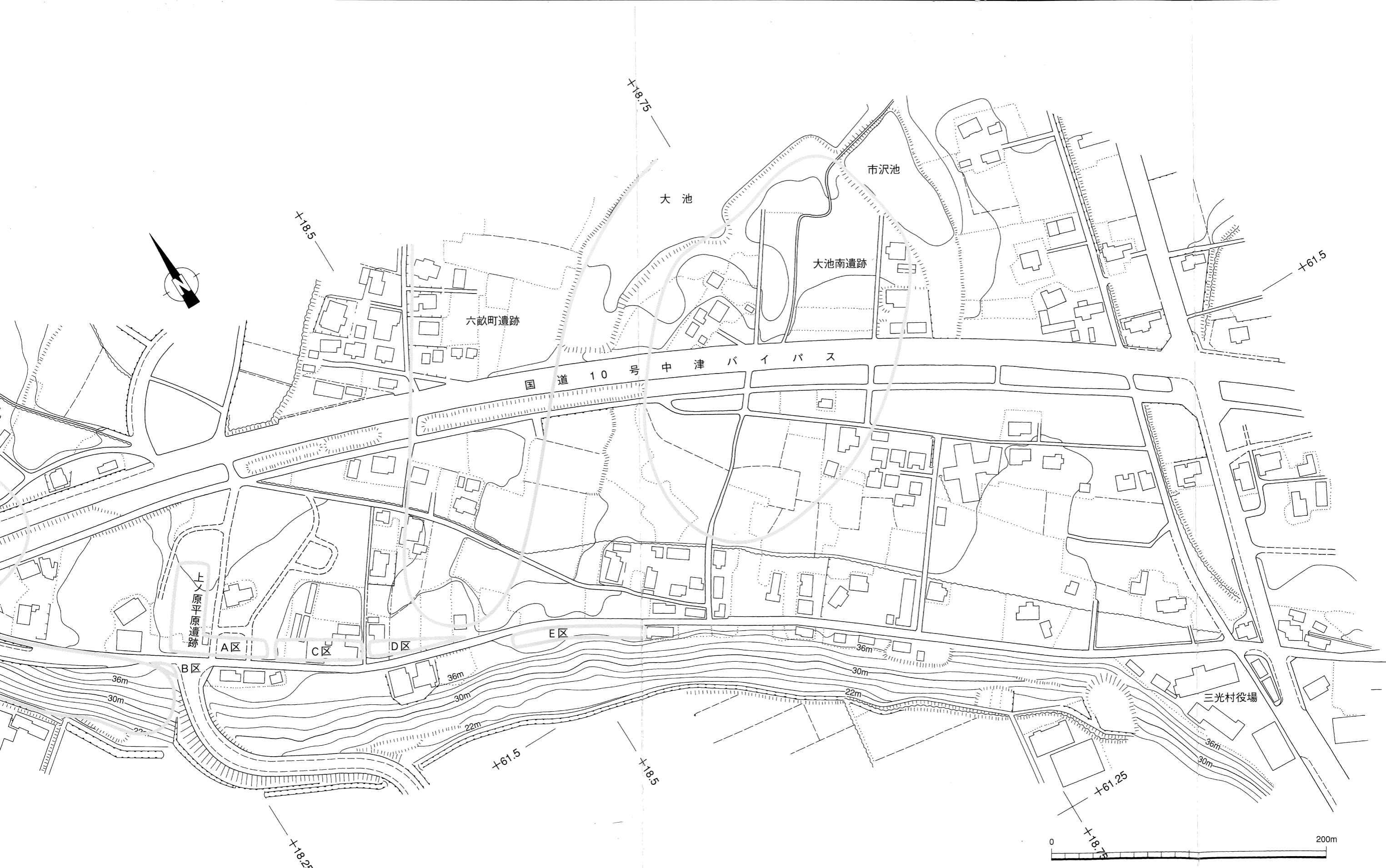


第1図 上ノ原平原遺跡位置図



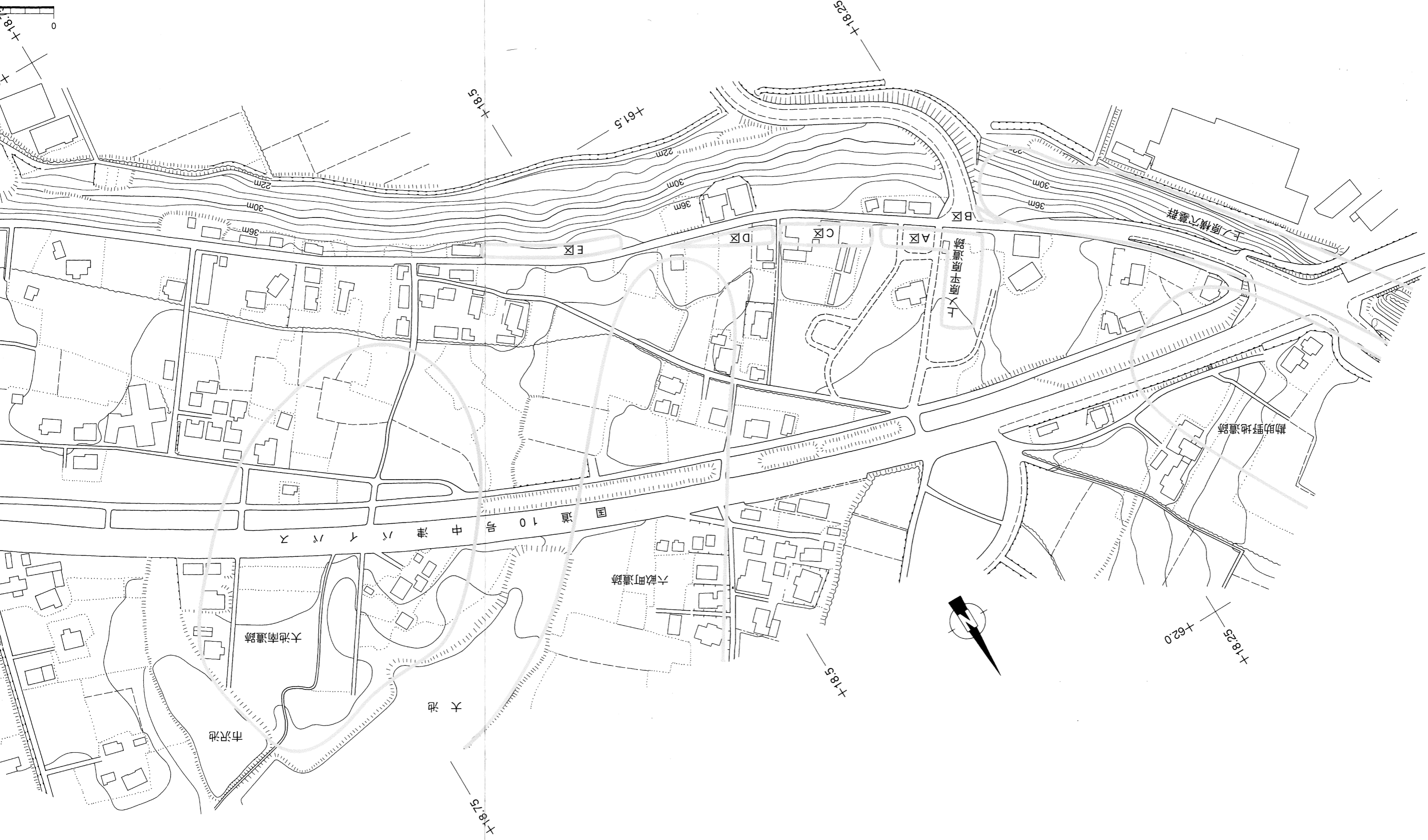
- | 番号 | 遺跡名 |
|----|-----------|
| 1 | 垂水廃寺 |
| 2 | 向山遺跡 |
| 3 | 上万田遺跡 |
| 4 | 川下遺跡 |
| 5 | 下唐原遺跡 |
| 6 | 相原廃寺 |
| 7 | 台遺跡 |
| 8 | 鶴市神社裏山古墳 |
| 9 | 坂手前横穴墓群 |
| 10 | 坂手隈横穴墓群 |
| 11 | 相原古墳群 |
| 12 | 幣旗邸古墳群 |
| 13 | 上人塚古墳 |
| 14 | 勘助野地遺跡 |
| 15 | 上ノ原横穴墓群 |
| 16 | 柳ヶ迫池東遺跡 |
| 17 | 六畝町遺跡 |
| 18 | 大池南遺跡 |
| 19 | 佐知久保畑遺跡 |
| 20 | 佐知遺跡 |
| 21 | 重吉遺跡 |
| 22 | 清水郎西遺跡 |
| 23 | 原口遺跡 |
| 24 | 諫山遺跡 |
| 25 | 白木遺跡 |
| 26 | 成恒遺跡 |
| 27 | 黒水遺跡 |
| 28 | 大坪遺跡 |
| 29 | 樋多田遺跡 |
| 30 | 森山遺跡 |
| 31 | 洗添横穴墓群 |
| 32 | 野辺田横穴墓群 |
| 33 | 倉迫平遺跡 |
| 34 | 倉迫二ツ塚古墳 |
| 35 | 岡崎遺跡 |
| 36 | ボウガキ遺跡 |
| 37 | 上池永遺跡 |
| 38 | 沖代小学校校庭遺跡 |
| 39 | 上ノ原平原遺跡 |

第2図 上ノ原平原遺跡周辺遺跡分布図



第3図 上ノ原平原遺跡周辺地形図

第3図 上ノ原平原遺跡周辺地形図



第三章 調査の成果

第1節 A区の調査

1. 調査の概要

この調査区は後世の攪乱が激しく、遺構の上部はその多くが削平を受けている。しかし溝状遺構・竪穴遺構・土坑などを検出することが出来た。

2. 遺構と遺物

1号溝（第5・6図）

遺構は調査区のほぼ中央、東西に8.5m延びている。溝の規模は幅0.9m、深さ1.4mである。この遺構の断面はY字状を呈しており、遺構の上部については、後世の攪乱をかなり受けていた。しかし遺構下部は良好な状態であった。この溝は平成5年に三光村が調査を行った上ノ原遺跡出土の溝につながるものである。

この溝の土層を観察すると、遺構検出面から0.3mは攪乱を受けているが、その下部は良好な状態で確認できた。9層から上の層では、地山土がブロックで含まれていた。また、5層には多量の川原石が含まれていた。10層より下層では、砂が多く含まれており、水が流れていたと考えられる。

4号溝（第9図）

この遺構は、幅0.9m、深さ0.4mを測り、ほぼ東西に延びている。出土遺物は多くない。この溝の東側と西側にもほぼ同じ大きさの溝が検出されている。

1号竪穴（第8図）

遺構は調査区の西端に位置している。遺構の上部は後世の攪乱によりかなり削平を受けている。確認された遺構の規模は、東西2.5m、南北2.8m、深さ0.18mである。平面プランは角がやや丸みを帯びた方形を呈している。土器は遺構の北側の隅からまとまって検出された。

8号土坑（第10図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置する。遺構の規模は東西0.9m、南北0.9m、深さ0.04mを測る。平面プランはほぼ円形である。出土遺物は弥生前期の土器を中心に約50点検出された。

10号土坑（第11図）

この遺構は調査区の西端に位置している。遺構の規模は長軸1.75m、短軸1.2m、深さ0.08mを測る。平面プランは東西に長い楕円形である。出土遺物は弥生前期から中期初頭にかけての土器を中心に約60点検出された。

11号土坑（第12図）

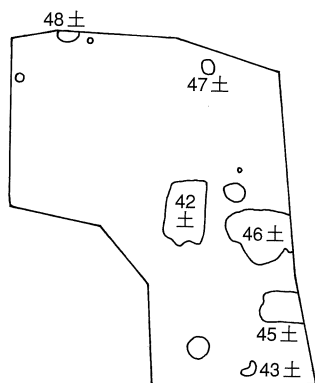
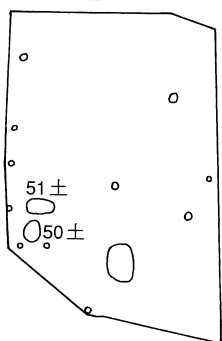
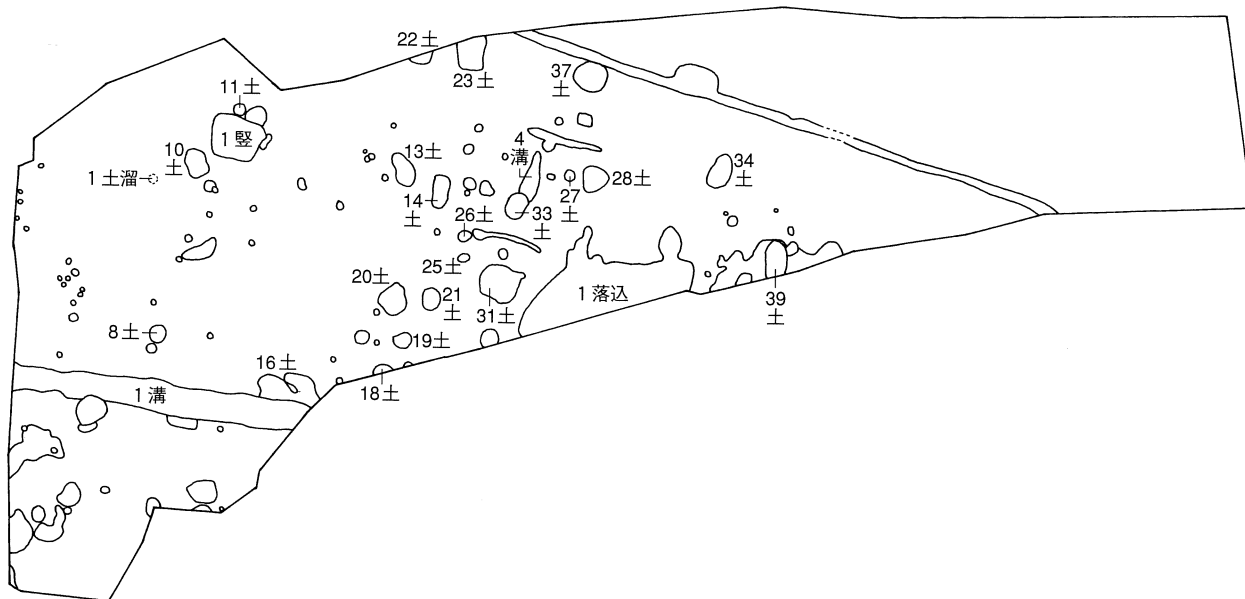
この遺構は調査区の西端に位置している。遺構の規模は東西0.7m、南北0.7m、深さ0.14mを測る。平面プランはほぼ円形である。出土遺物は弥生中期初頭の土器を中心に約20点検出された。土器は、遺構の東側と西側にかたまって検出された。

13号土坑（第13図）

この遺構は西側調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は長軸2.0m、短軸1.1m、深さ0.2mを測る。平面プランは南北に長い楕円形である。

14号土坑（第14図）

この遺構は13号土坑のほぼ北側2mの位置にある。遺構の規模は長軸1.9m、短軸1.05m、深さ0.12mを測る。平面プランはやや方形の楕円形である。出土遺物はあまり多くなく、土器片約10点ほどである。



第4図 A区遺構配置図 (S=1/350)

18号土坑（第15図）

この遺構は調査区の東端に位置している。遺構の規模は東西1.35m、深さ0.21mである。遺構東側は調査区外に広がるものと推定される。確認できる南北の幅は0.5mである。

19号土坑（第16図）

この遺構は調査区東側に位置している。遺構の規模は長軸1.15m、短軸0.9m、深さ0.06mである。平面プランはやや変形の楕円形である。出土遺物は弥生前期末の土器を中心に約40点検出された。

20号土坑（第17図）

この遺構は調査区東側に位置している。遺構の規模は長軸1.5m、短軸1.4m、深さ0.1mである。平面プランはやや変形の方形である。出土遺物は弥生中期初頭の土器を中心に約70点検出された。

21号土坑（第18図）

この遺構は調査区東側に位置している。遺構の規模は長軸1.35m、短軸1.05m、深さ0.12mである。平面プランはほぼ円形である。

22号土坑（第19図）

この遺構は調査区西側に位置している。遺構の規模は深さ0.16mである。東西、南北幅は調査区外になるため不明である。

23号土坑（第21図）

この遺構は調査区西側に位置している。遺構の規模は南北1.68m、深さ0.32mである。遺構東西側は調査区外に広がると推定される。確認できる東西幅は1.72mである。

25号土坑（第20図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は長軸0.65m、短軸0.45m、深さ0.15mである。平面プランはほぼ円形である。

26号土坑（第22図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は長軸0.78m、短軸0.55m、深さ0.1mである。平面プランは楕円形である。

27号土坑（第23図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は東西0.6m、南北0.6m、深さ0.22mである。平面プランは円形である。

28号土坑（第24図）

この遺構は調査区の北側に位置している。遺構の規模は長軸1.5m、短軸1.45m、深さ0.26mである。平面プランは角が丸い三角である。遺物は床面全体に広がるように感じで検出された。出土遺物は弥生前期の土器を中心に約120点検出された。

30号土坑（第25図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は長軸0.86m、短軸0.65m、深さ0.2mである。平面プランは方形である。出土遺物は弥生前期の土器を中心に約50点検出された。

31号土坑（第26図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は長軸2.32m、短軸1.9m、深さ0.32mである。平面プランはやや方形に近い楕円形である。遺物は中央よりやや西よりに検出された。遺物は弥生前期の土器を中心に約150点検出された。

33号土坑（第9図）

この遺構は調査区のほぼ中央に位置している。遺構の規模は長軸1.6m、短軸1.15m、深さ0.44mである。この遺構は4号溝を切るような形で位置する。平面プランは楕円形である。

34号土坑（第27図）

この遺構は調査区の北側に位置している。遺構の規模は長軸2.0m、短軸1.2m、深さ0.26mである。平面プランは楕円形である。出土遺物は弥生前期末から中期初頭にかけての土器約200点を検出した。また石斧も1点出土している。

37号土坑（第28図）

この遺構は調査区の西側に位置している。遺構の規模は長軸1.8m、短軸1.75m、深さ0.2mである。この遺構は2号溝から切られるように位置している。平面プランは楕円形である。遺物は遺構床面の東側を中心に検出された。

39号土坑（第29図）

この遺構は調査区の北側に位置している。遺構の規模は長軸2.0m、短軸1.35m、深さ0.30mである。平面プランは楕円形である。出土遺物は弥生前期の土器を中心に約350点検出された。

42号土坑（第33図）

この遺構は調査区の東側に位置している。遺構の規模は長軸2.95m、短軸1.75m、深さ0.38mである。平面プランは方形である。遺物は遺構の東側に出土している。

43号土坑（第30図）

この遺構は調査区の東側に位置している。遺構の規模は長軸0.9m、短軸0.4m、深さ0.08mである。平面プランは不定形である。

45号土坑（第31図）

この遺構は調査区の東側に位置している。規模は短軸1.5m、深さ0.16mである。遺構は北東側が調査区外に広がると推定される。確認できる長軸は1.9mである。平面プランは不明である。

46号土坑（第34図）

この遺構は調査区の東側に位置している。遺構の規模は北東側が調査区外になるが長軸3.2m、短軸2.55m、深さ0.22mである。平面プランは不明である。遺物は遺構の北東側にかたまって出土している。

47号土坑（第32図）

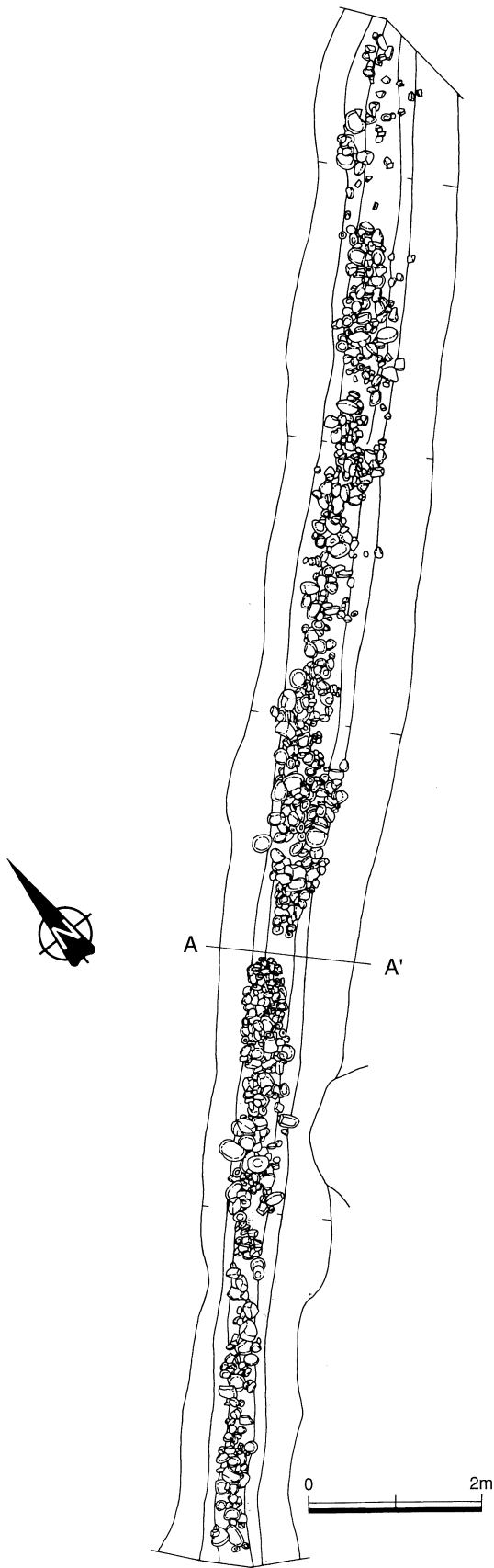
この遺構は調査区の東側に位置している。遺構の規模は長軸0.75m、短軸0.65m、深さ0.15mである。平面プランは円形である。出土遺物は遺構のほぼ全体に広がって検出され、弥生前期の土器を中心に約60点検出された。

48号土坑（第35図）

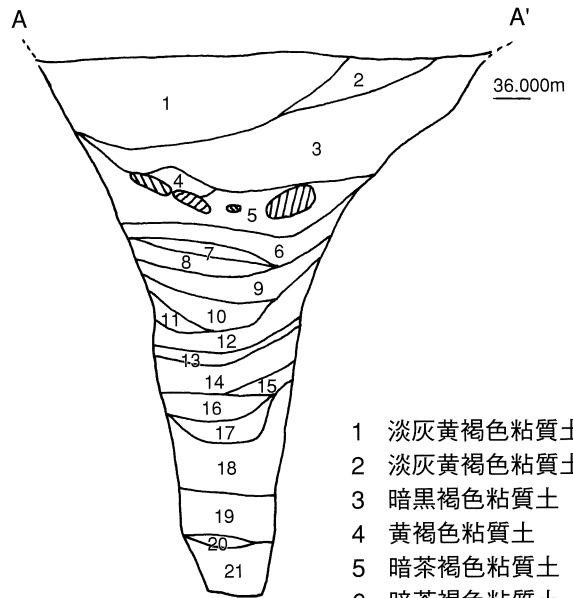
この遺構は調査区の東側に位置している。遺構の規模は長軸1.1m、深さ0.1mである。遺構の西側が調査区外になるため詳細は不明である。

50号土坑（第36図）

この遺構は調査区のほぼ東側に位置している。遺構の規模は長軸1.0m、短軸0.9m、深さ0.1mである。平面プランはやや方形に近い楕円形である。
(平田)

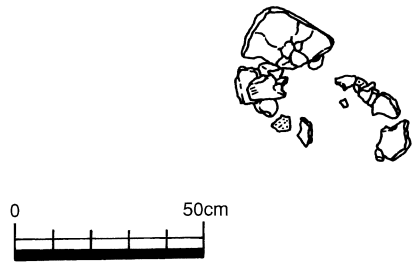


第5图 A区1号沟实测图 (S=1/80)

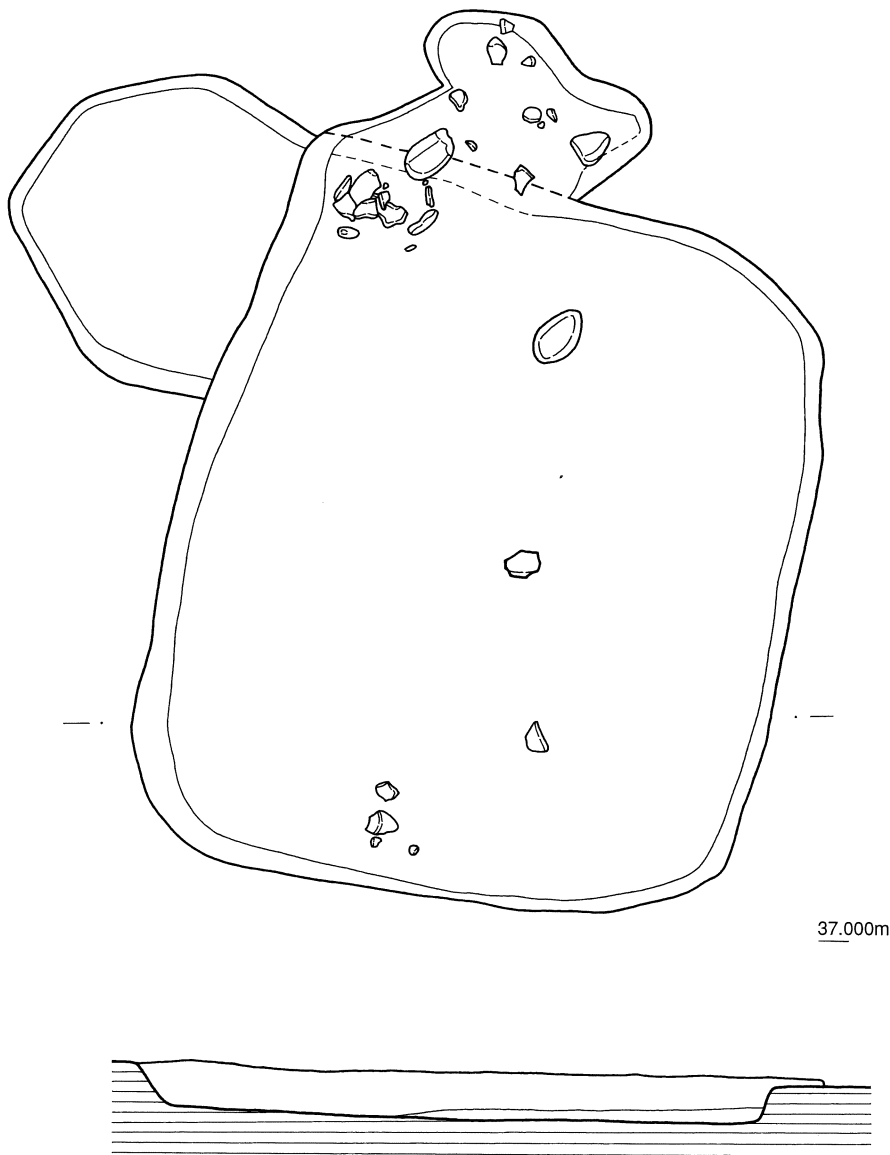


- 1 淡灰黄褐色粘质土
- 2 淡灰黄褐色粘质土
- 3 暗黑褐色粘质土
- 4 黄褐色粘质土
- 5 暗茶褐色粘质土
- 6 暗茶褐色粘质土
- 7 暗茶黄褐色粘质土
- 8 暗黑褐色粘质土
- 9 茶褐色粘质土
- 10 暗茶黄褐色粘质土
- 11 黄茶褐色粘质土
- 12 暗茶褐色粘质土
- 13 黄褐色粘质土
- 14 暗茶黄褐色粘质土
- 15 黄茶褐色粘质土
- 16 茶褐色粘质土
- 17 暗黄黑褐色粘质土
- 18 暗茶黄褐色粘质土
- 19 暗茶褐色粘质土
- 20 暗黑褐色粘质土
- 21 暗黄褐色粘质土

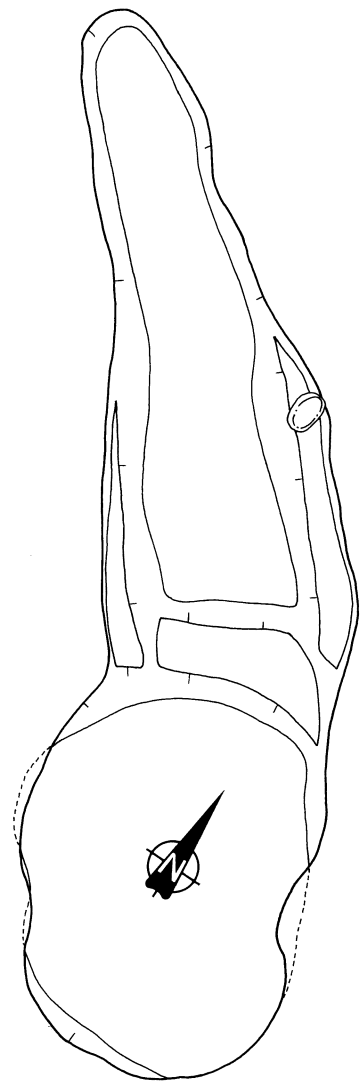
第6图 A区1号沟土层图 (S=1/20)



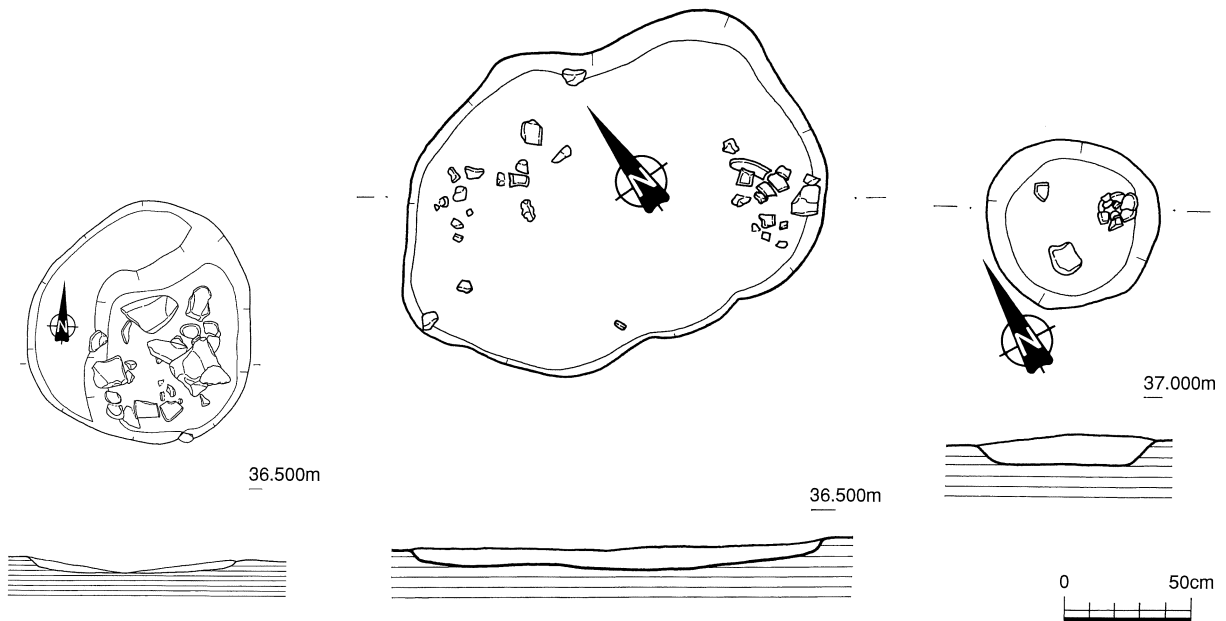
第7图 A区1号沟土器溜实测图 (S=1/20)



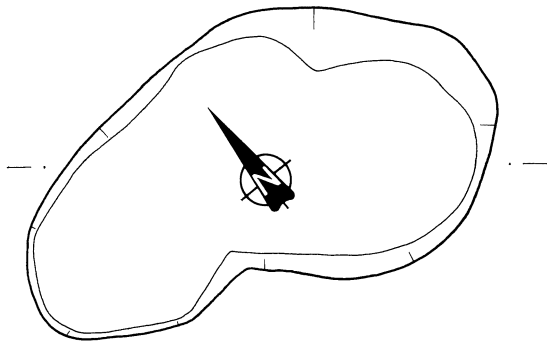
第8图 A区1号竖穴遺構実測図 (S=1/30)



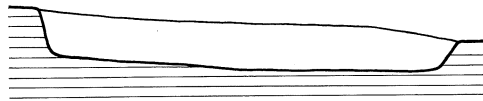
第9图 A区4号溝・33号土坑実測図 (S=1/30)



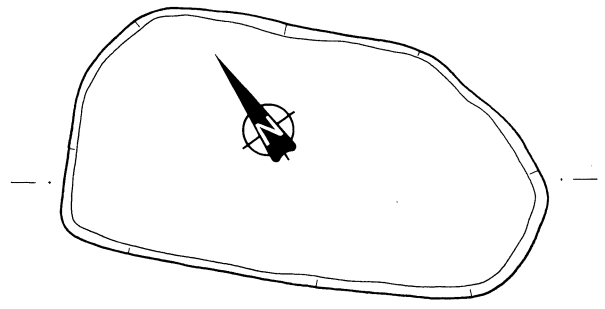
第10图 A区8号土坑実測図 (S=1/30) 第11图 A区10号土坑実測図 (S=1/30) 第12图 A区11号土坑実測図 (S=1/30)



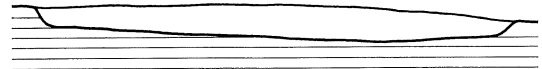
36.500m



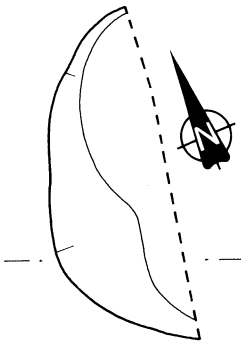
第13图 A区13号土坑实测图 (S=1/30)



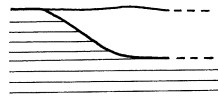
36.500m



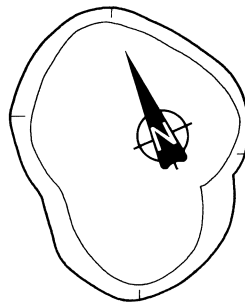
第14图 A区14号土坑实测图 (S=1/30)



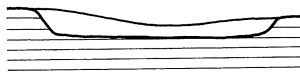
36.500m



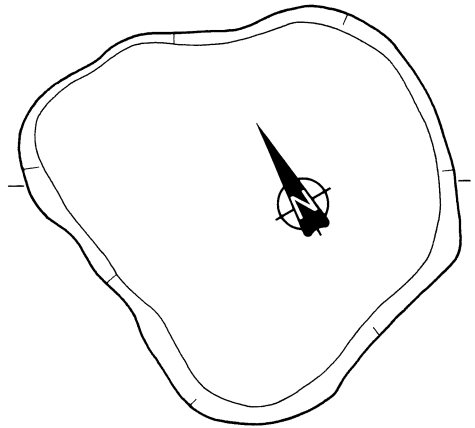
第15图 A区18号土坑实测图 (S=1/30)



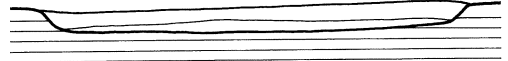
36.500m



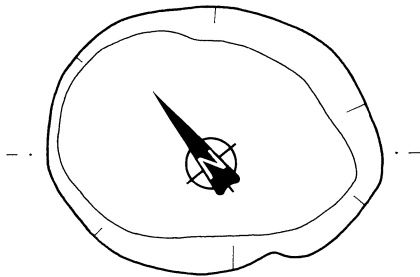
第16图 A区19号土坑实测图 (S=1/30)



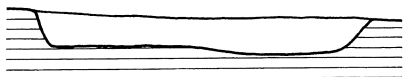
36.500m



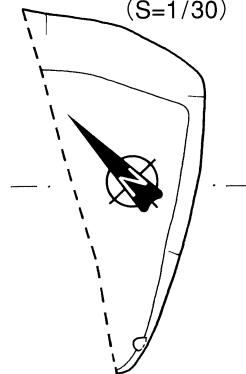
第17图 A区20号土坑实测图 (S=1/30)



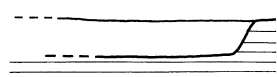
36.500m



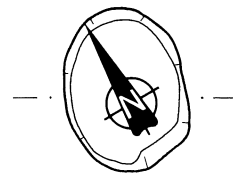
第18图 A区21号土坑实测图 (S=1/30)



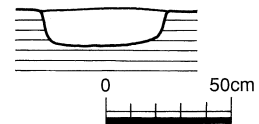
36.000m



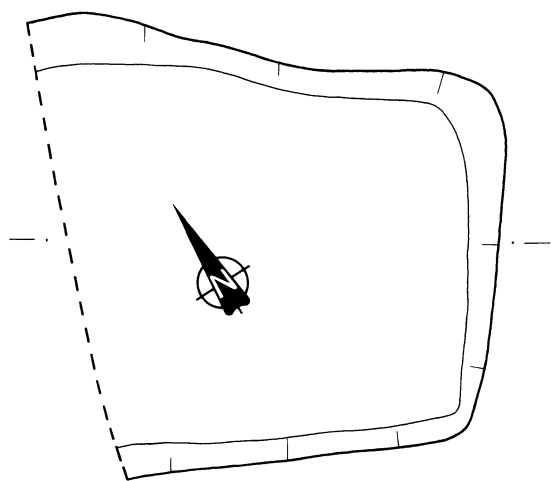
第19图 A区22号土坑实测图 (S=1/30)



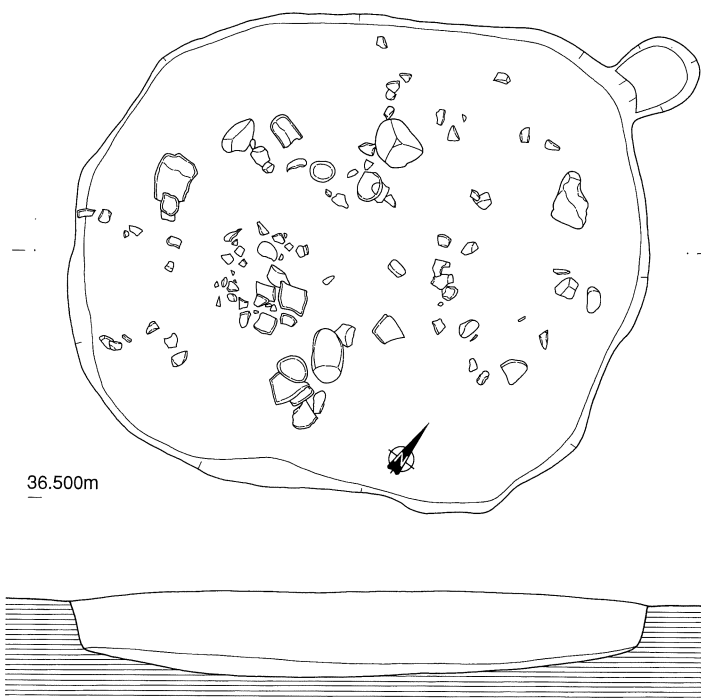
36.000m



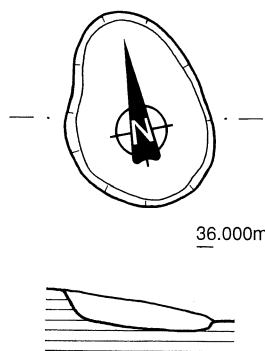
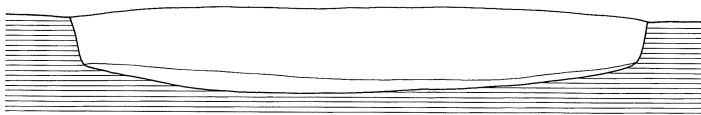
第20图 A区25号土坑实测图 (S=1/30)



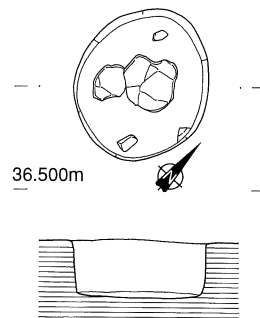
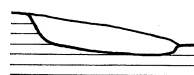
第21图 A区23号土坑实测图 (S=1/30)



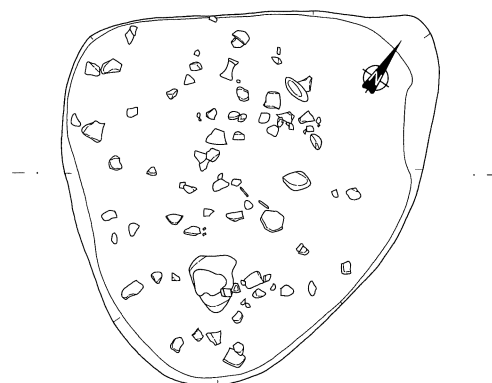
第26图 A区31号土坑实测图 (S=1/30)



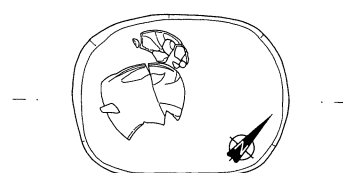
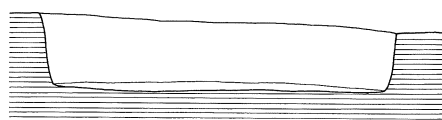
第22图
A区26号土坑实测图
(S=1/30)



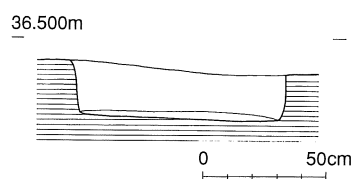
第23图
A区27号土坑实测图
(S=1/30)

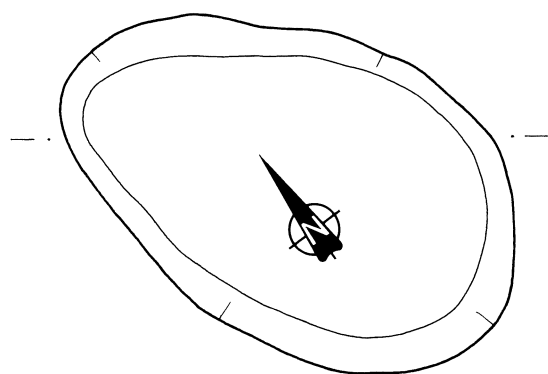


第24图 A区28号土坑实测图 (S=1/30)

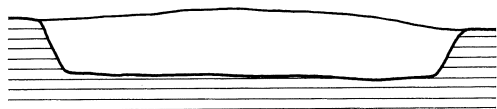


第25图 A区30号土坑实测图 (S=1/30)

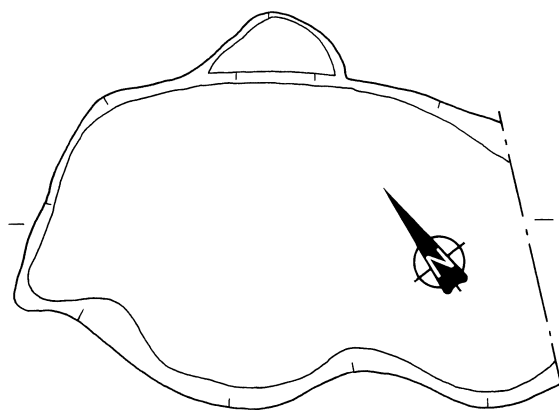




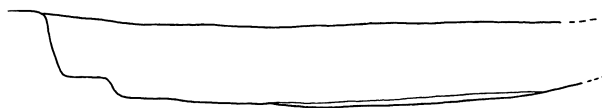
36.000m



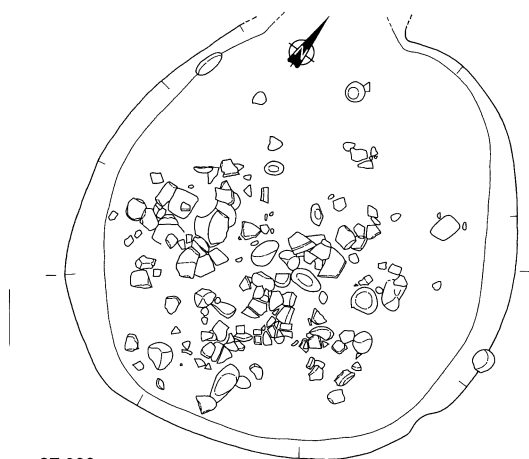
第27图 A区34号土坑实测图 (S=1/30)



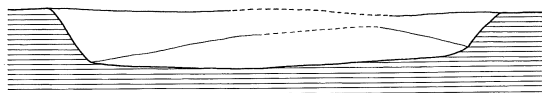
36.500m



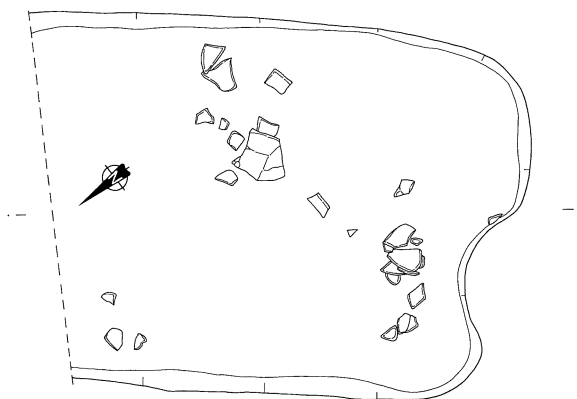
第29图 A区39号土坑实测图 (S=1/30)



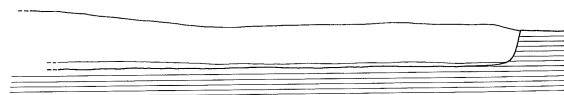
37.000m



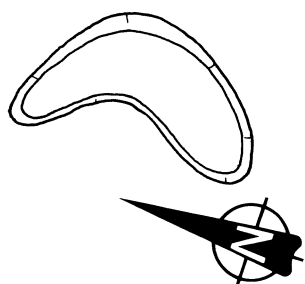
第28图 A区37号土坑实测图 (S=1/30)



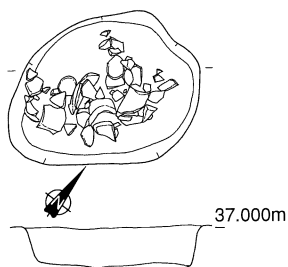
37.000m



第31图 A区45号土坑实测图 (S=1/30)



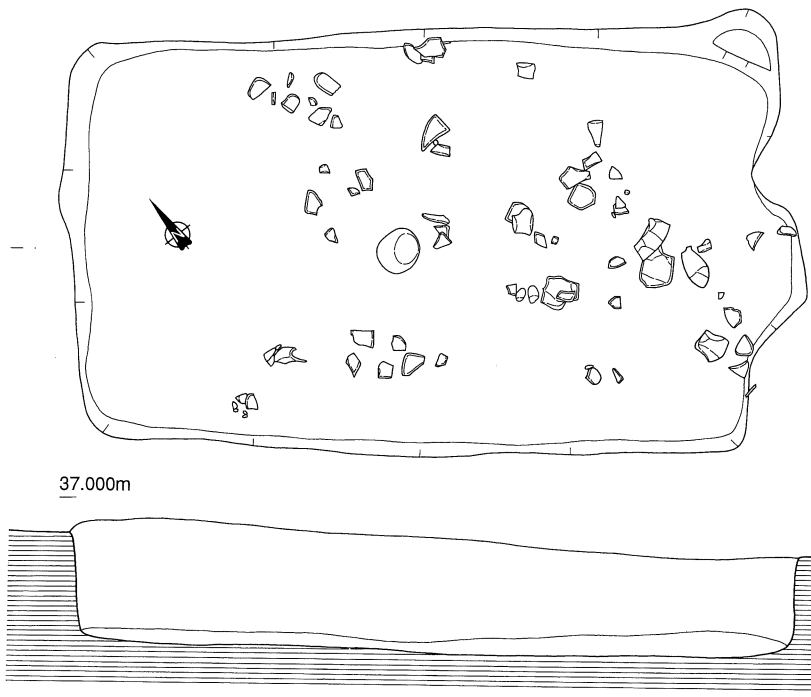
第30图 A区43号土坑实测图 (S=1/30)



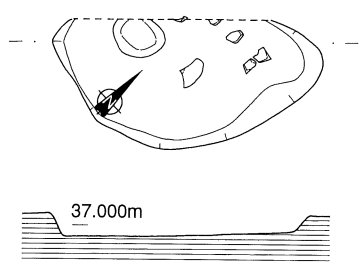
37.000m



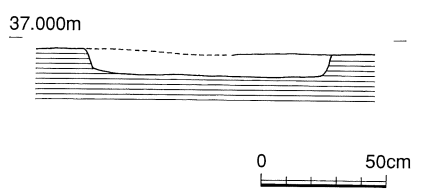
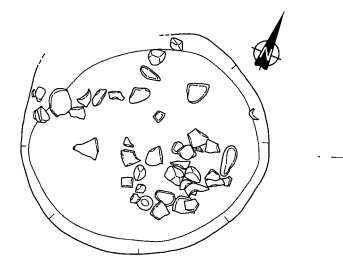
第32图 A区47号土坑实测图 (S=1/30)



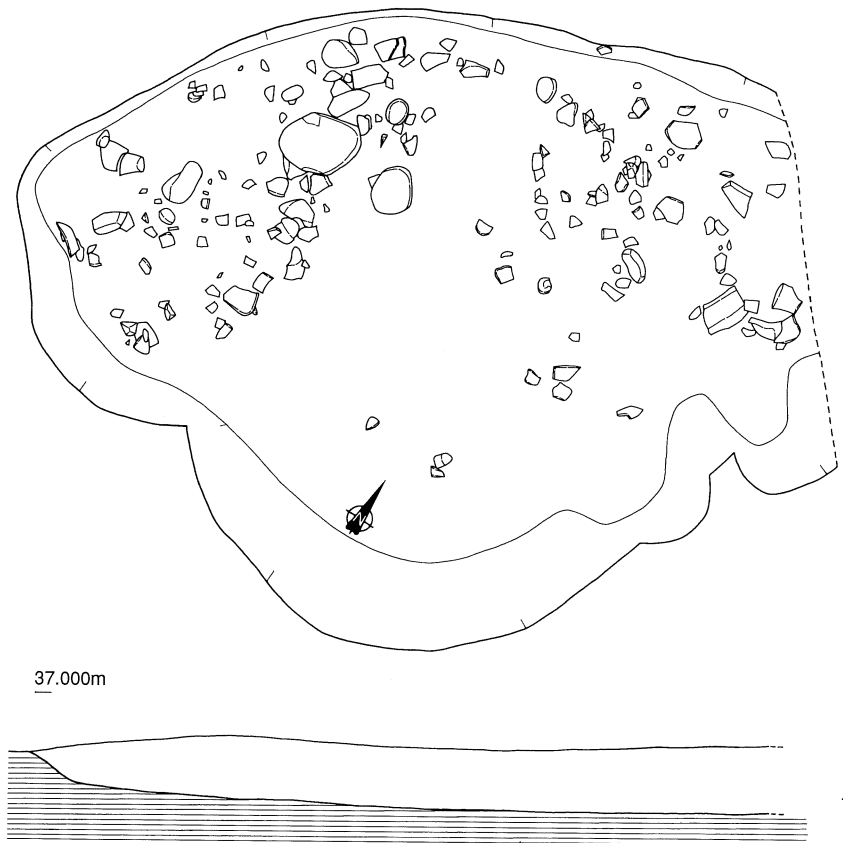
第33图 A区42号土坑实测图 (S=1/30)



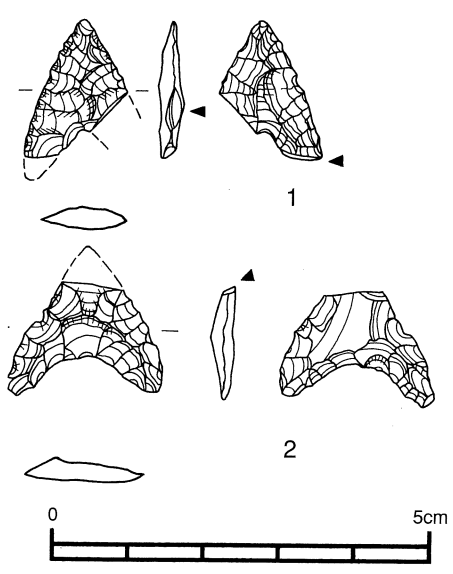
第35图 A区48号土坑实测图 (S=1/30)



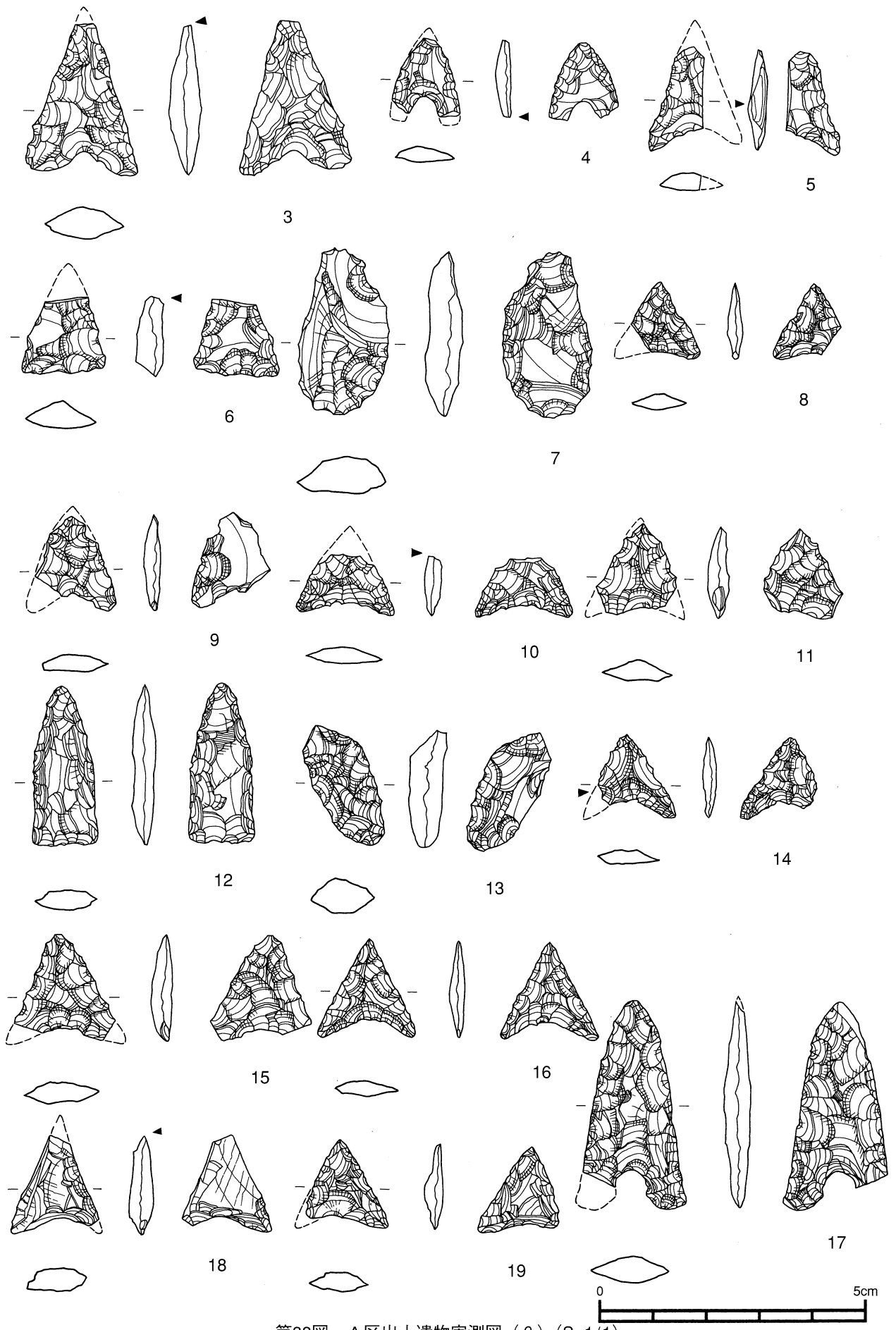
第36图 A区50号土坑实测图 (S=1/30)



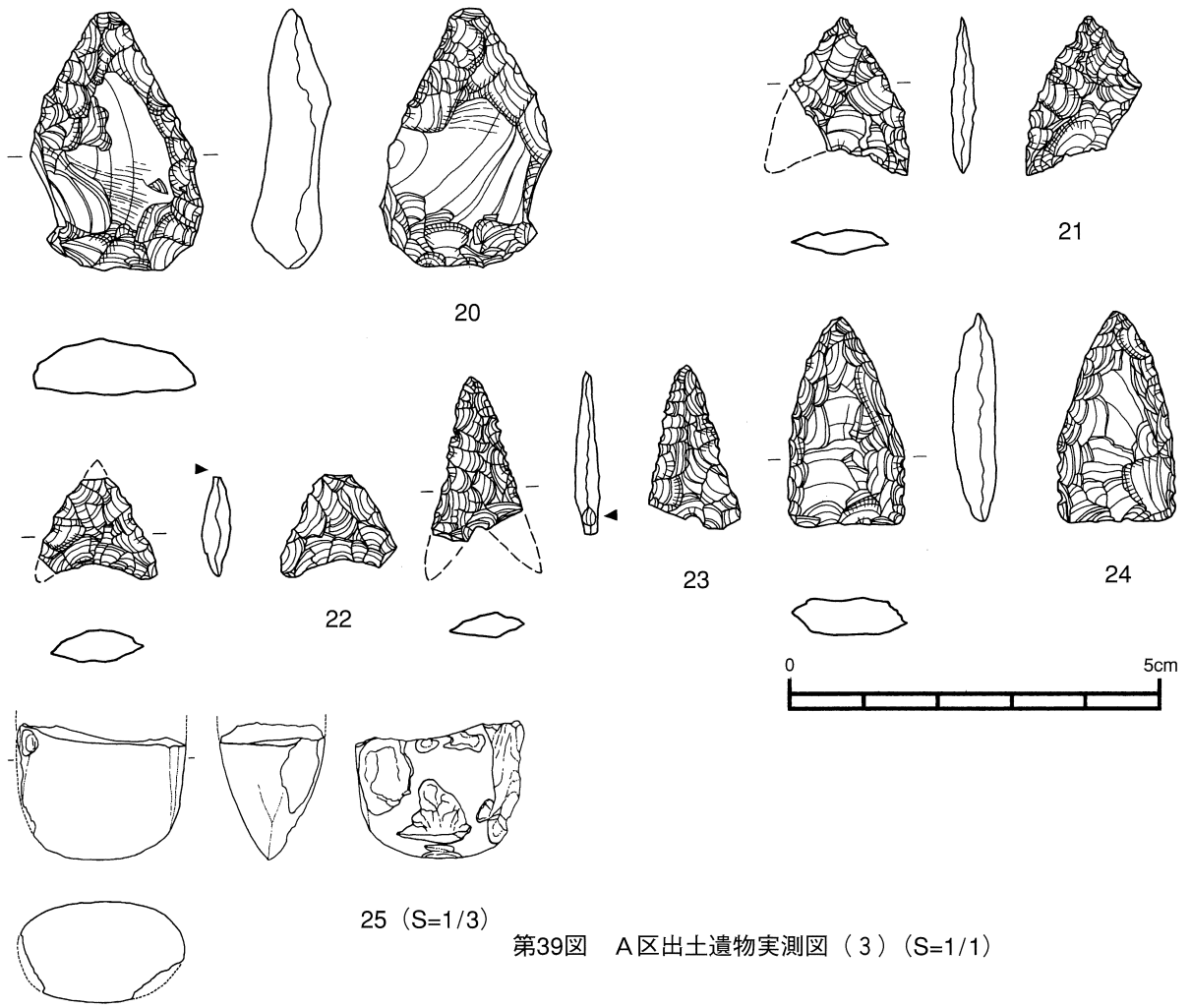
第34图 A区46号土坑实测图 (S=1/30)



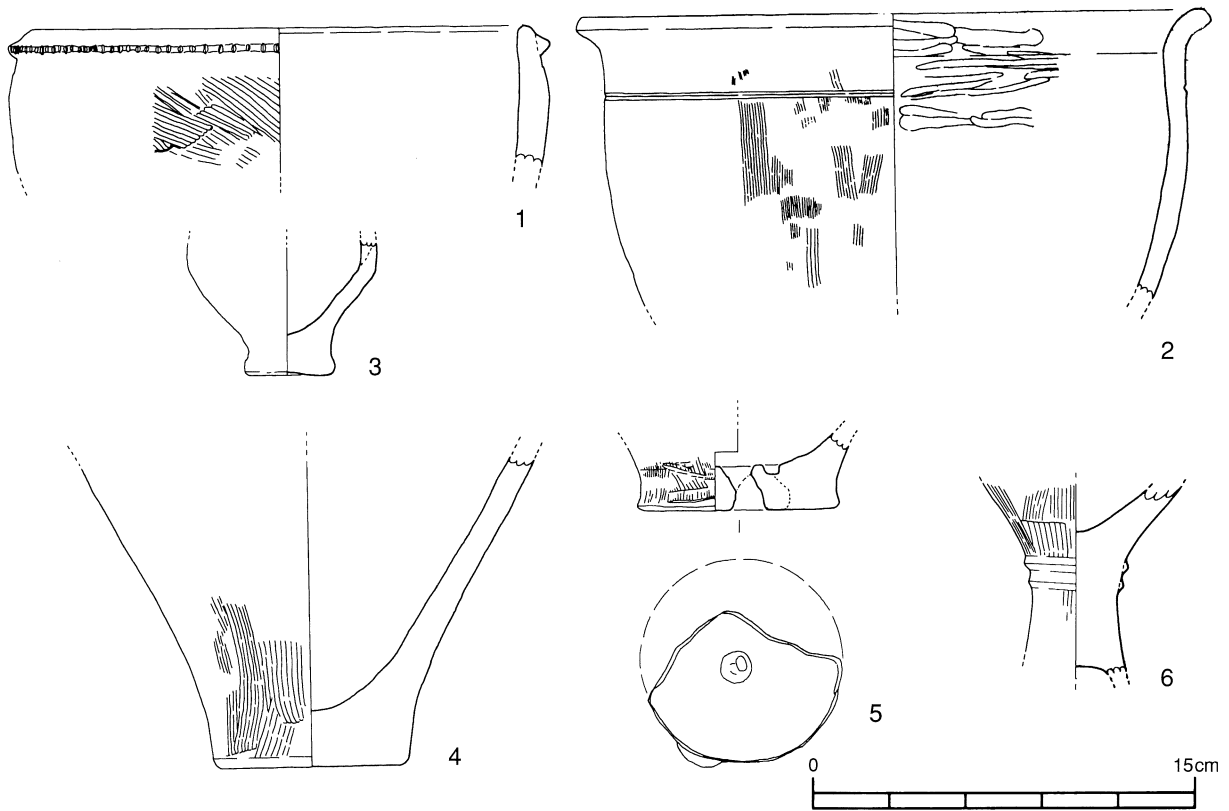
第37图 A区出土遗物实测图 (1) (S=1/1)



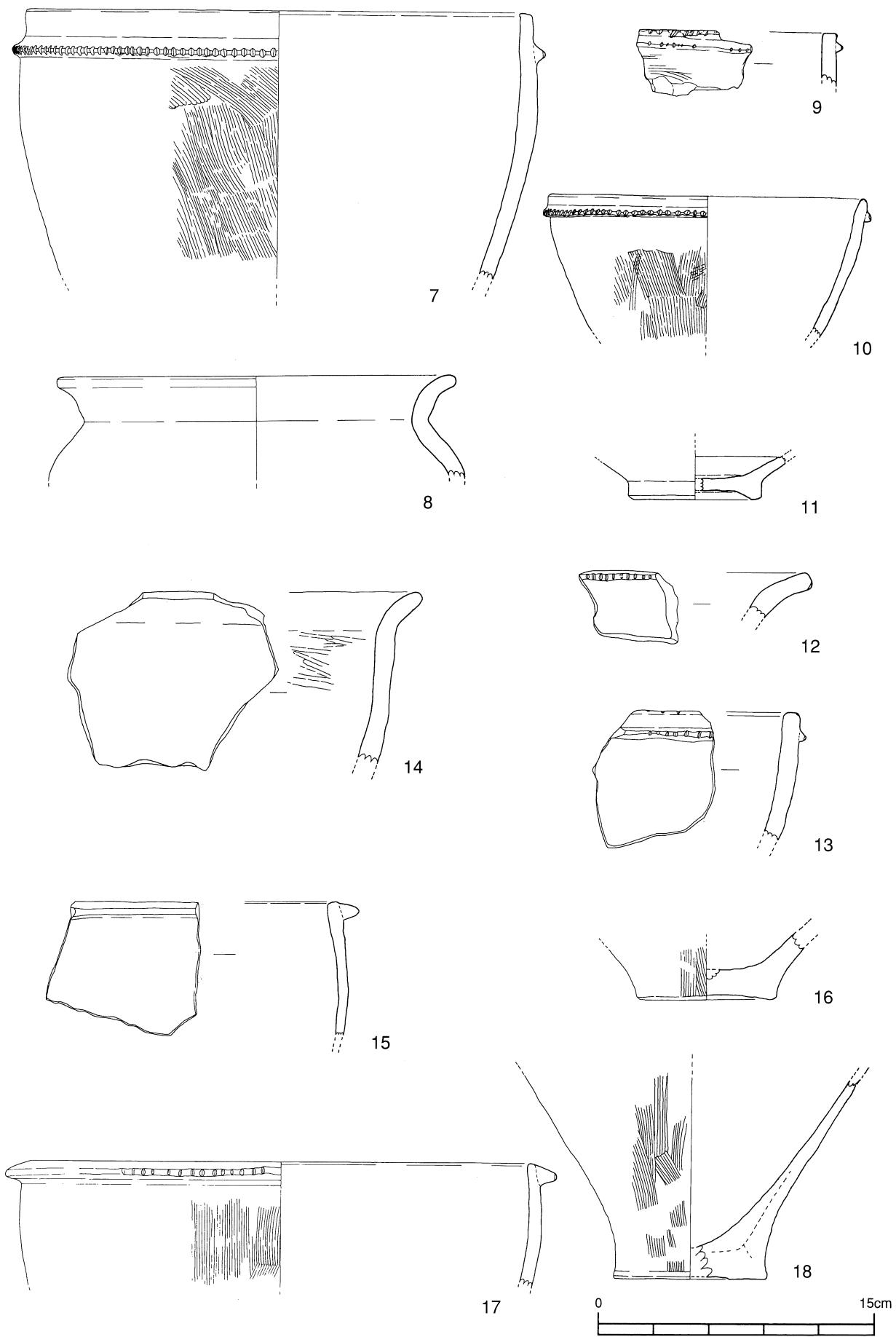
第38图 A区出土遺物実測図(2) (S=1/1)



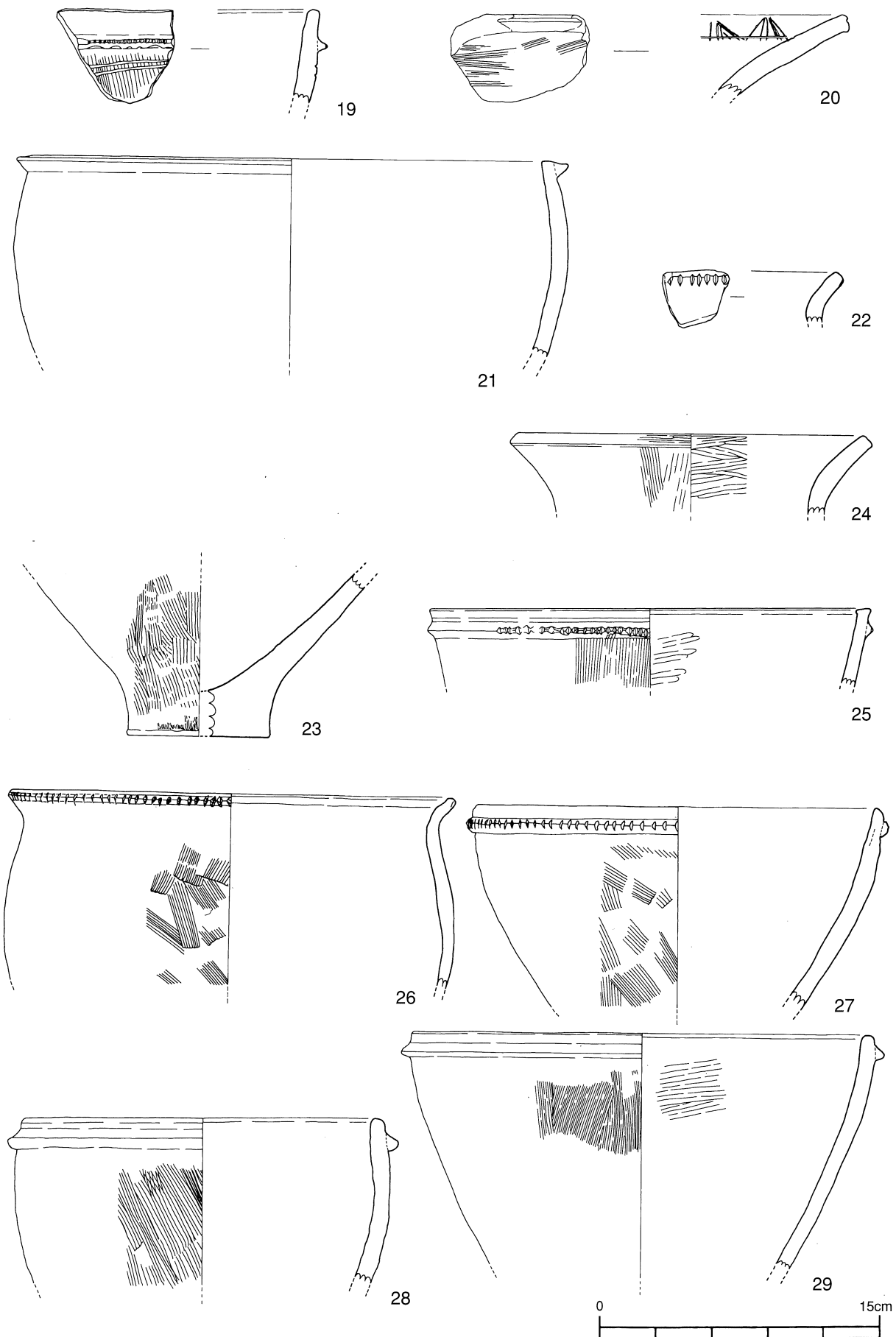
第39图 A区出土遺物実測図(3) (S=1/1)



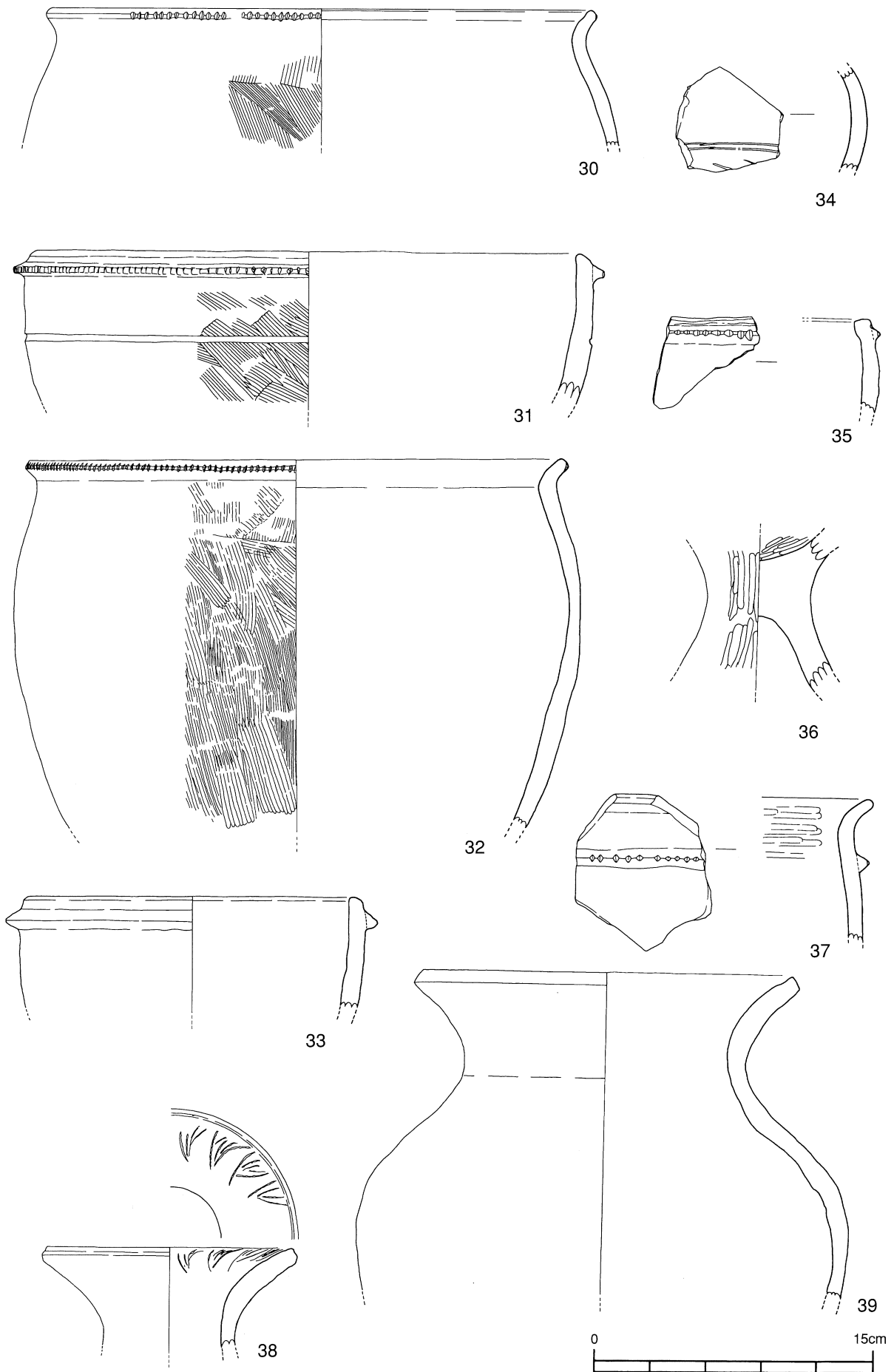
第40图 A区出土遺物実測図(4) (S=1/3)



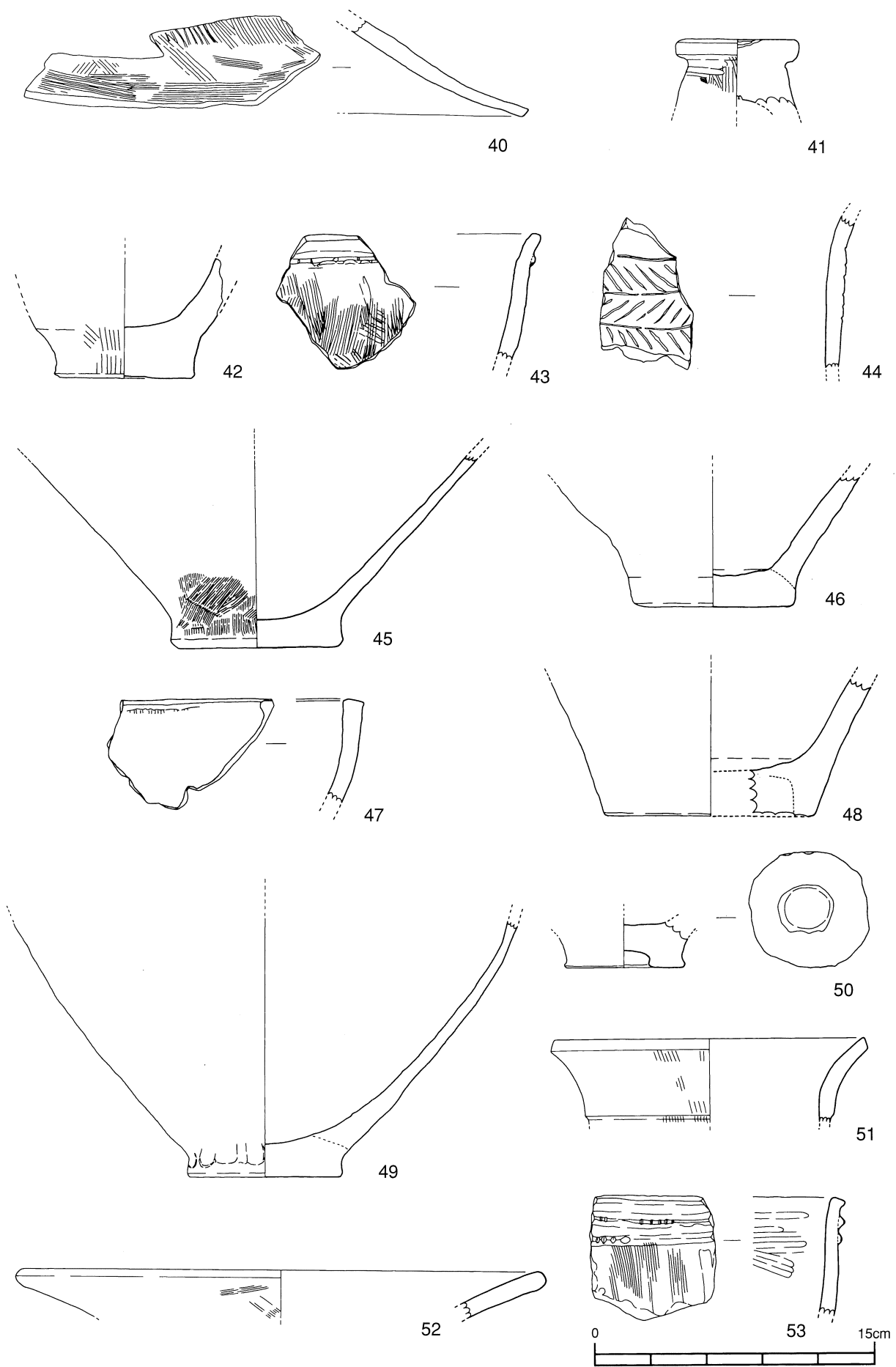
第41图 A区出土遺物実測図(5) (S=1/3)



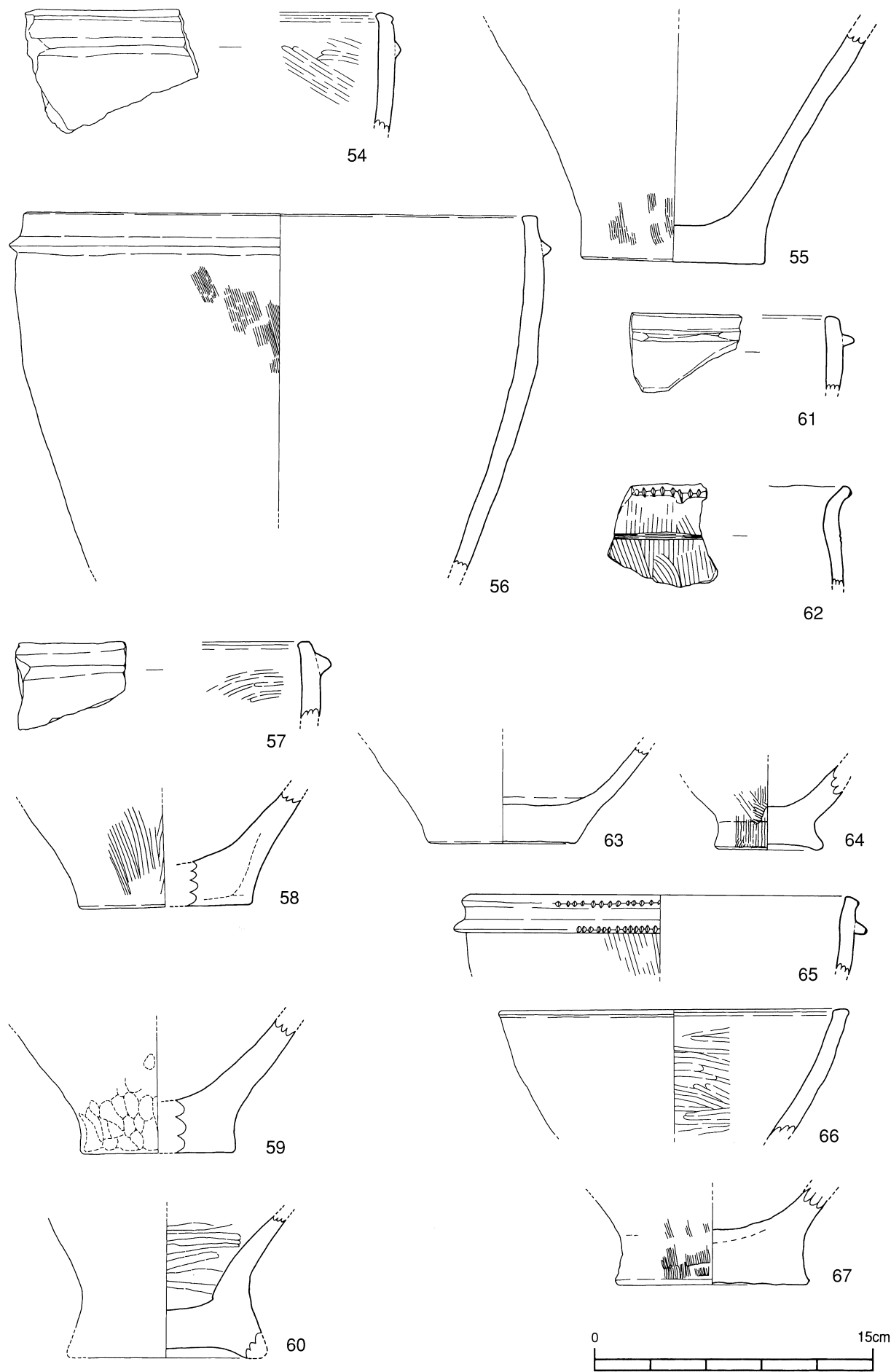
第42图 A区出土遺物実測図(6) (S=1/3)



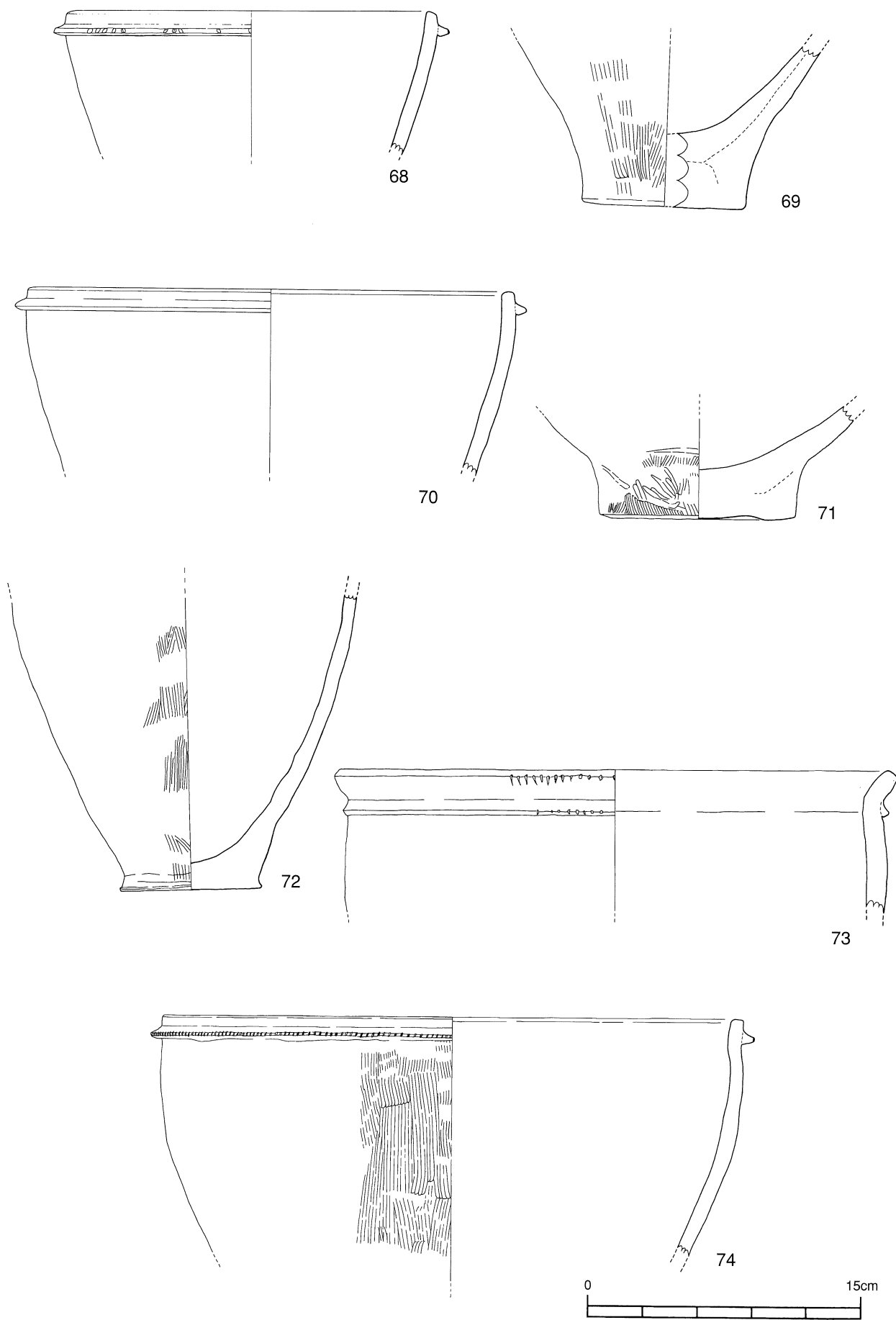
第43图 A区出土遺物実測図(7)(S=1/3)



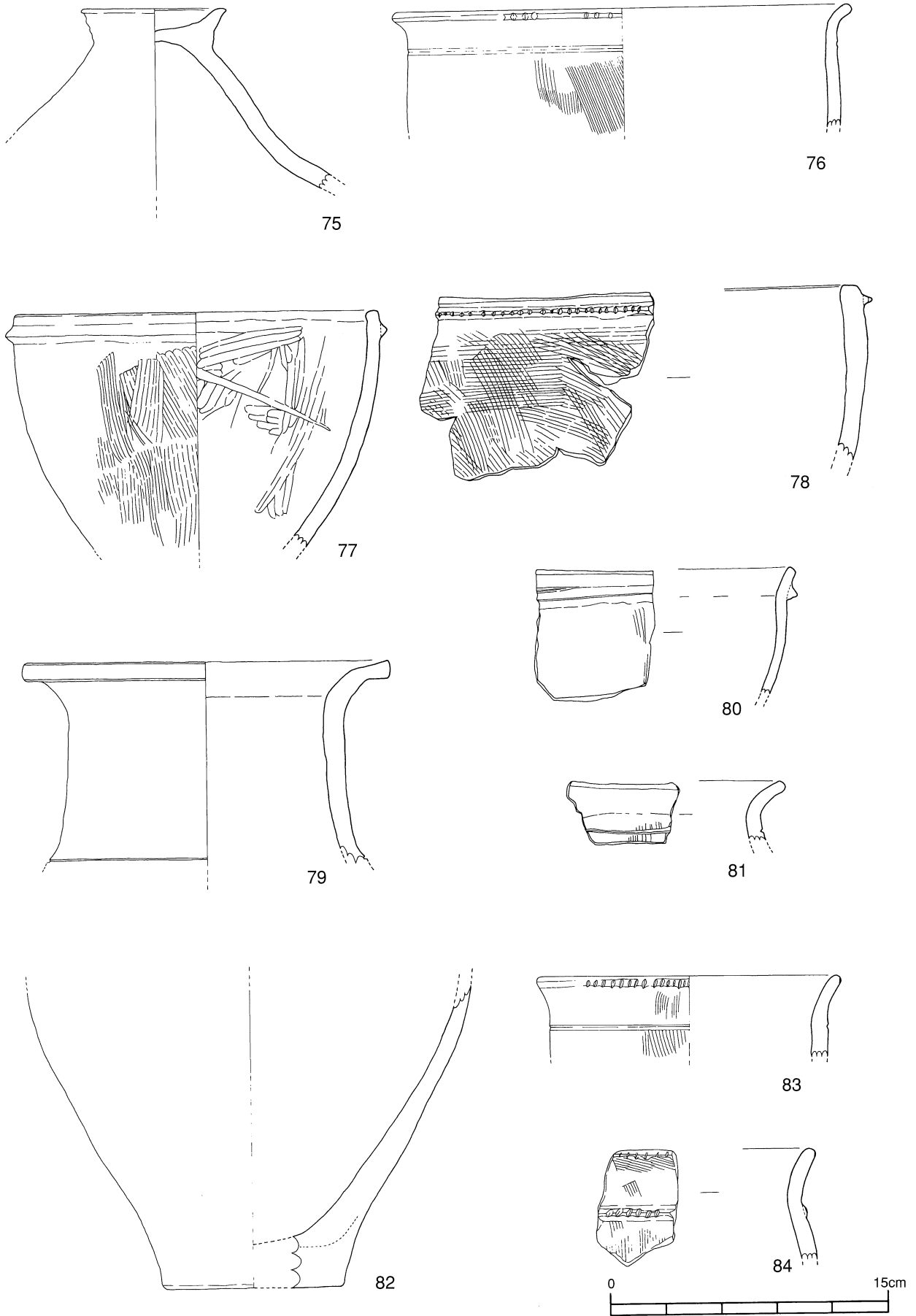
第44图 A区出土遺物実測図(8) (S=1/3)



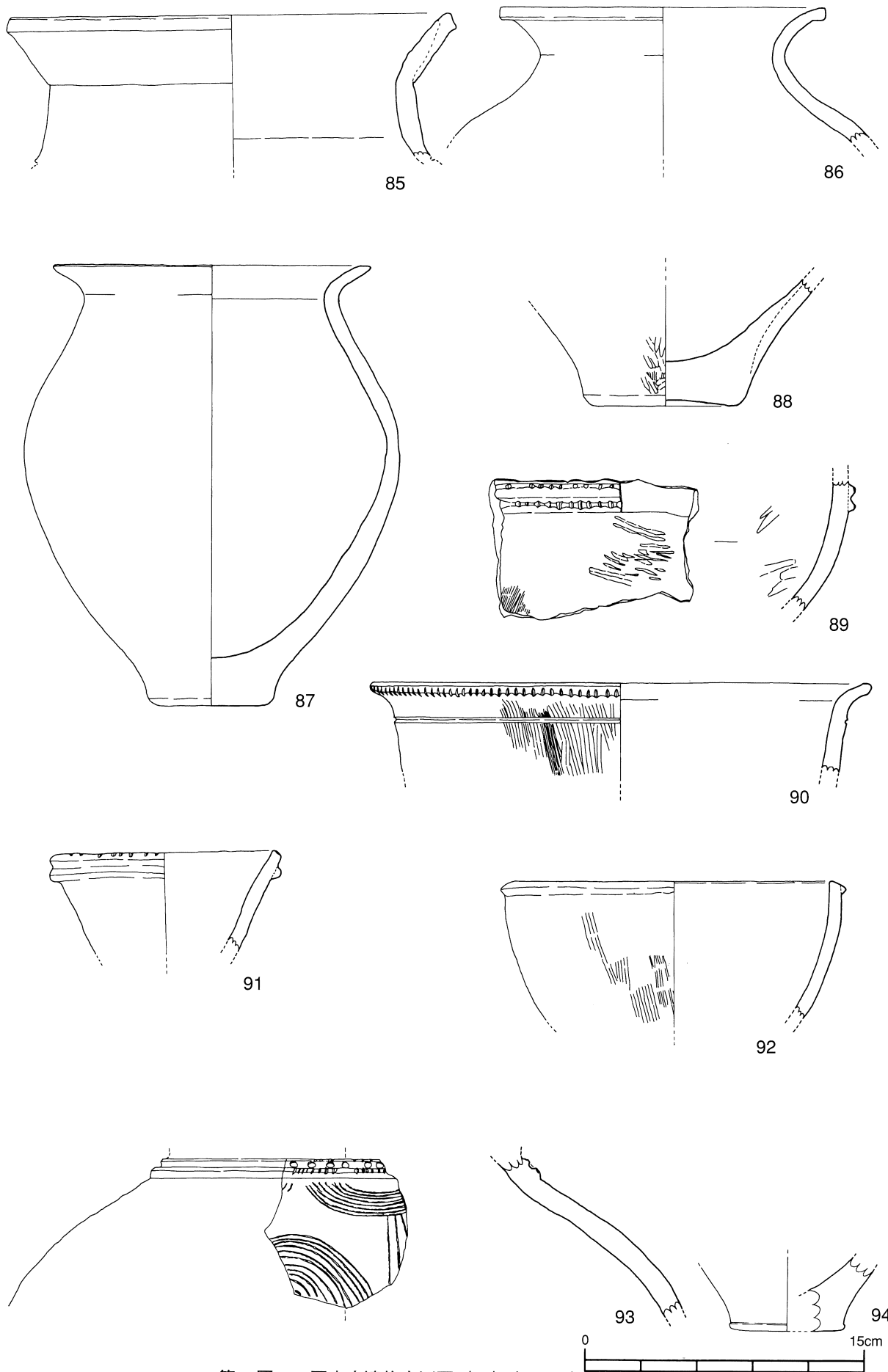
第45图 A区出土遺物実測图(9) (S=1/3)



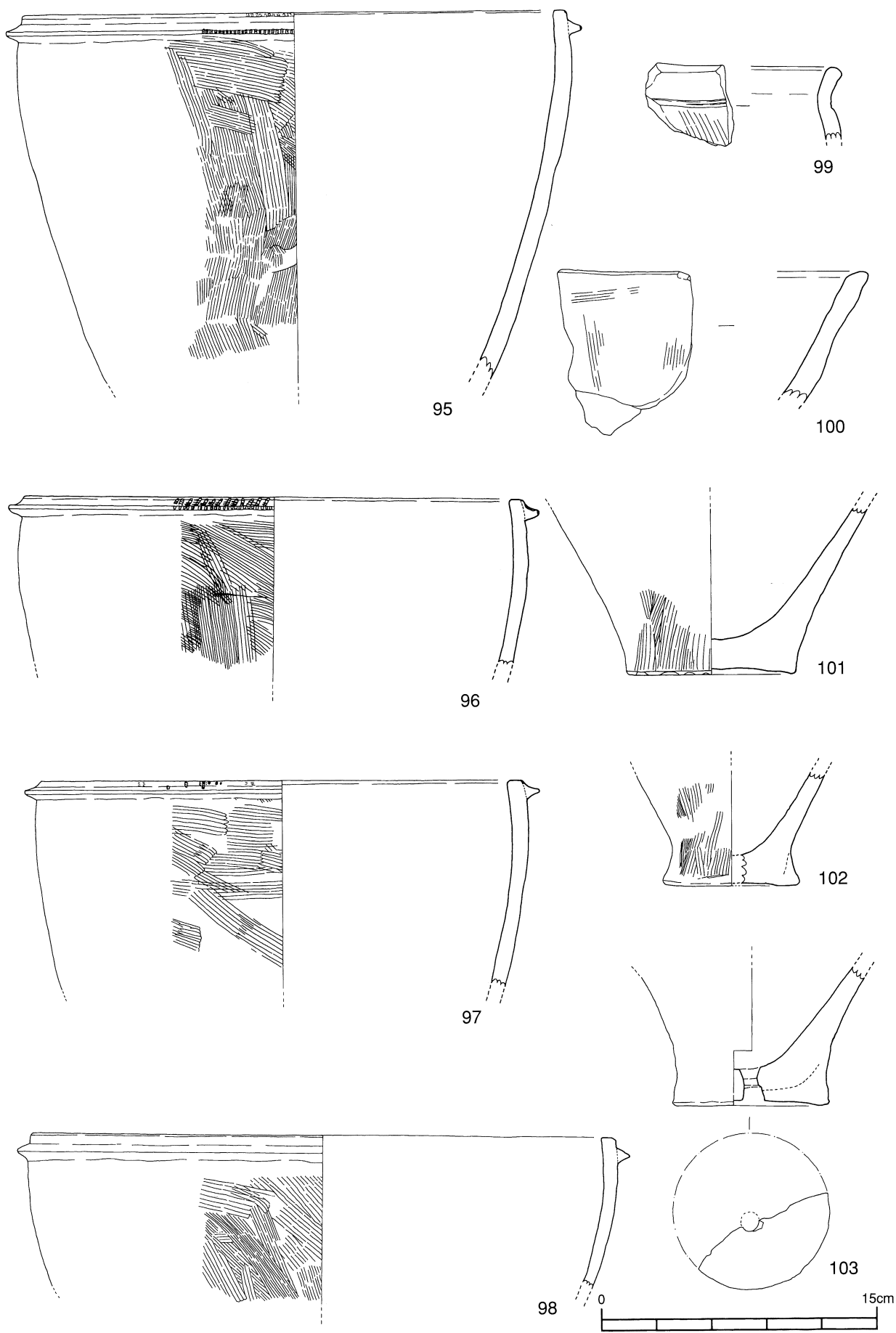
第46图 A区出土遗物实测图(10) (S=1/3)



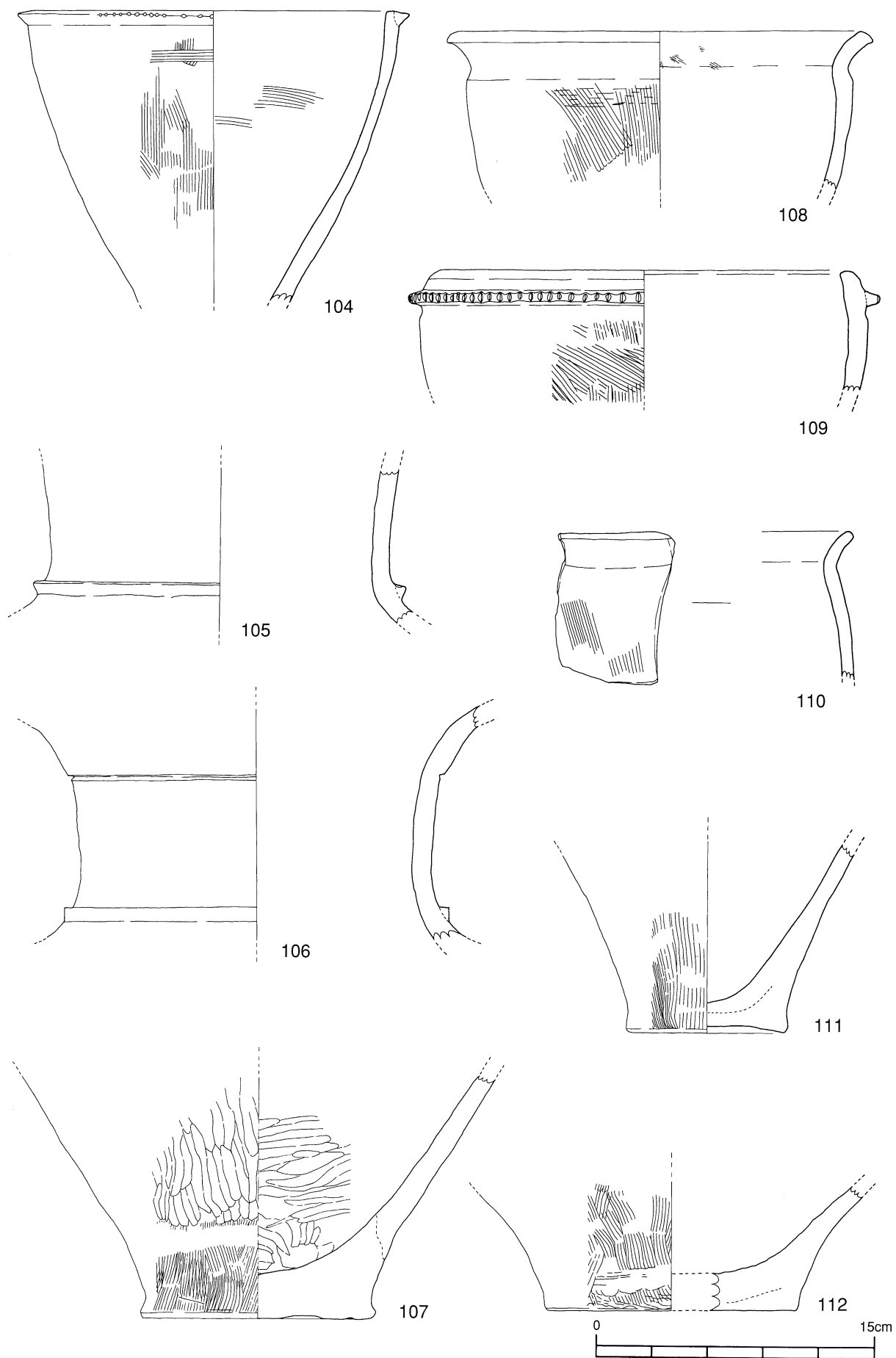
第47图 A区出土遺物実測図(11) (S=1/3)



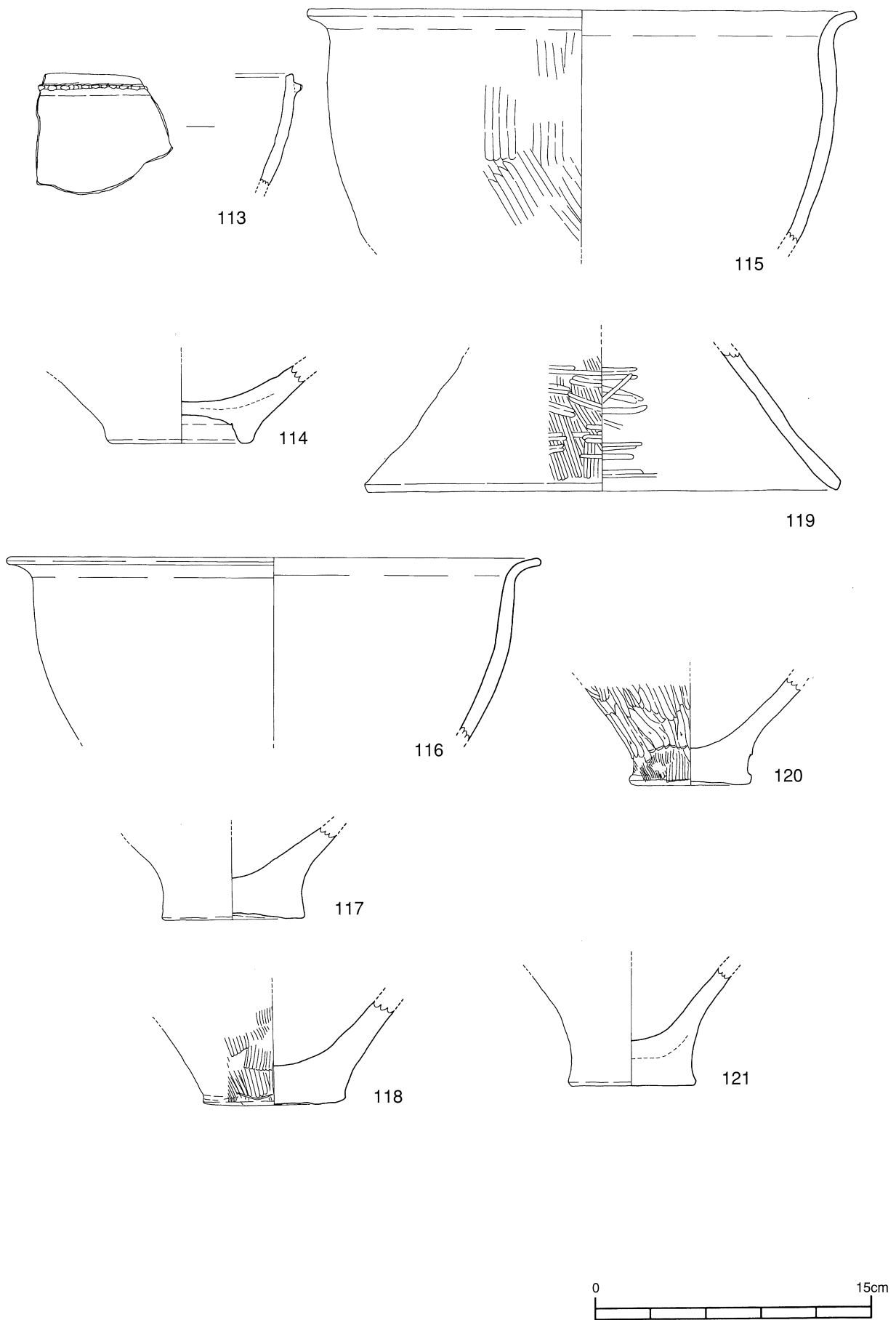
第48图 A区出土遺物実測図(12) (S=1/3)



第49图 A区出土遺物実測図(13) (S=1/3)



第50图 A区出土遺物実測図(14) (S=1/3)



第51图 A区出土遺物実測図(15) (S=1/3)

遺構名	器形	法 量			胎 土	調 整		焼成	色 調		備 考
		口縁部径	底部径	器高		外	内		外	内	
1 一括	甕	20.7	—	5.6	砂粒・微砂粒・角閃石・雲母	ナデ・ハケ目	ナデ	不良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
2 一括	甕	25.0	—	11.3	砂粒・微砂粒・角閃石・雲母・小石粒	ナデ・ハケ目	ナデ ヘラミガキ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
3 一括	甕	—	3.3	5.2	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・石英	ナデ	ナデ	不良	明赤褐	明赤褐	内側に圧痕が見られる
4 一括	甕	—	7.8	11.9	砂粒・微砂粒・角閃石・雲母・小石粒	ハケ目	不明	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
5 一括	甕	—	8.0	3.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石	ハケ目・ナデ	ナデ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	底部に穿孔がある
6 一括	高杯	—	—	7.8	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ハケ目・ナデ	ナデ	良	橙	橙	
7 1号土器溜	甕	27.8	—	14.4	砂粒・微砂粒・雲母・角閃石・小石粒	ハケ目・ナデ	ナデ	不良	橙	橙	外面黒斑あり
8 1号落込	壺	21.8	—	5.6	微砂粒・長石・白色粒・小石粒・角閃石	ナデ	ナデ	良	橙	橙	
9 1号落込	甕	—	—	3.6	雲母・石英・長石・赤褐色粒・微砂粒	ナデ	指押さえ 後ミガキ	良	橙	橙	
10 1号落込	甕	17.4	—	7.5	砂粒・微砂粒・角閃石・白色粒・雲母	ハケ目・ナデ	不明	不良	鈍い橙	鈍い黄橙	二次加熱を受けている
11 1号溝	白磁碗	—	7.3	2.4	微砂粒	回転ケズリ	—	良	灰白	明オリブ灰	
12 4号溝	甕	—	—	2.4	砂粒・角閃石・微砂粒・小石粒・白色粒・長石	ナデ	ナデ	やや不良	橙	橙	口縁部に刻目
13 4号溝	甕	21.6	—	7.8	砂粒・微砂粒・角閃石・雲母・小石粒	ナデ	不明	不良	明赤褐	明赤褐	二次加熱を受けている
14 1号堅穴	甕	—	—	9.3	砂粒・微砂粒・角閃石・長石	ナデ?	ミガキ	不良	明赤褐	明赤褐	外面に指圧痕あり
15 8号土坑	甕	28.6	—	7.2	砂粒・微砂粒・長石・小石粒	不明	不明	不良	鈍い橙	鈍い橙	
16 8号土坑	壺	—	7.2	3.7	砂粒・微砂粒・角閃石・小石粒・石英・長石	ハケ目・ナデ	ナデ	良	鈍い橙	鈍い橙	
17 8号土坑	甕	30.0	—	6.8	砂粒・微砂粒・角閃石・石英・長石	ヨコナデ・ハケ目	ナデ?	良	明黄橙・黒褐	明黄橙	黒斑あり
18 8号土坑	甕	—	8.4	10.9	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・石英・小石粒	ハケ目・ナデ	ナデ	良	橙	橙	
19 10号土坑	甕	—	—	5.0	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ヨコナデ・ハケ目	ナデ?	不良	橙・褐灰	橙	
20 10号土坑	壺	—	—	7.4	砂粒・微砂粒・石英・長石	ナデ・ハケ目	ハケ目 後ミガキ	良	灰黄褐	灰黄褐	
21 10号土坑	甕	29.8	—	12.0	砂粒・微砂粒・白色粒・石英	不明	不明	良	橙	橙	黒斑あり
22 11号土坑	甕	—	—	2.7	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ヨコナデ	ナデ	良	鈍い褐	橙	
23 11号土坑	甕	—	7.6	8.8	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ハケ目・ナデ	不明	良	灰褐	灰黄褐	
24 13号土坑	壺	19.4	—	4.2	石英・長石・角閃石	ハケ目後ナデ	ミガキ	良	褐灰	灰褐	
25 14号土坑	甕	23.8	—	4.2	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・石英	ヨコナデ・ハケ目	ミガキ?	良	橙	鈍い褐	外面黒斑あり
26 18号土坑	甕	23.8	—	10.2	砂粒・微砂粒・角閃石・石英・小石粒・長石	ハケ目・ナデ	ナデ	良	橙	橙	外面黒斑あり
27 18号土坑	甕	22.1	—	11.7	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ハケ目	ナデ	良	橙	橙	
28 18号土坑	甕	20.2	—	9.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石	ナデ・ハケ目	ナデ?	不良	灰黄	鈍い黄橙	
29 18号土坑	甕	24.6	—	12.5	砂粒・微砂粒・角閃石・雲母・小石粒・長石	ハケ目・ナデ	ハケ目?	不良	橙	橙	
30 18号土坑	甕	29.8	—	7.2	石英・長石・角閃石・微砂粒	ヨコナデ・ハケ目	ナデ	良	橙	橙	
31 18号土坑	甕	29.4	—	8.1	砂粒・微砂粒・角閃石	ハケ目	ナデ	良	鈍い橙	鈍い橙	突帯刻目紋
32 18号土坑	甕	29.4	—	19.8	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ハケ目・ナデ	ヘラミガキ・ナデ	良	鈍い橙	橙	二次加熱を受けている
33 18号土坑	甕	18.7	—	6.5	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	不明	不明	不良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
34 19号土坑	壺	—	—	5.5	石英・長石・角閃石・砂粒・赤褐色粒・微砂粒	ナデ	ナデ?	良	鈍い褐	明黄褐	外面黒斑あり
35 19号土坑	甕	—	—	5.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	不明	不明	不良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
36 19号土坑	高杯	くびれ部径	5.6	8.5	砂粒・微砂粒・長石・角閃石	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナデ	良	鈍い黄褐	鈍い黄橙	黒斑有り
37 19号土坑	甕	—	—	7.7	石英・長石・角閃石・赤褐色粒・砂粒	ナデ	ヘラミガキ・ナデ ヘラミガキ	良	鈍い黄橙 鈍い褐	鈍い黄橙	
38 20号土坑	壺	7.8	—	5.4	砂粒・微砂粒・角閃石・長石	ナデ	ナデ	良	淡橙	淡橙	
39 20号土坑	壺	頸部径	15.2	17.3	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	不明	不明	不良	鈍い黄橙・赤	鈍い黄橙	二次加熱を受けている
40 20号土坑	蓋	—	—	12.1	砂粒・微砂粒・長石・角閃石	ハケ目	ナデ	不良	鈍い橙	鈍い橙	二次加熱を受けている
41 21号土坑	蓋	取手部	6.7	3.8	砂粒・微砂粒・角閃石・石英・小石粒・白色粒	ハケ目・ナデ	ナデ	不良	赤褐		
42 23号土坑	壺	—	7.6	6.4	砂粒・微砂粒・小石粒・角閃石	ハケ目	ナデ	良	明赤褐	橙	
43 26号土坑	甕	—	—	6.8	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ハケ目・ナデ	不明	不良	明赤褐	橙	二次加熱を受けている
44 22号土坑	甕	—	—	8.2	砂粒・微砂粒・長石	ナデ	ナデ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
45 25号土坑	鉢	—	9.4	10.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ハケ目	不明	不良	橙	橙	二次加熱を受けている
46 27号土坑	壺	—	8.7	7.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ミガキ	ナデ?	不良	明赤褐	明赤褐	

第1表 A区出土土器観察表(1)

47	27号土坑	鉢	—	—	5.7	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ナデ・ハケ目	ハラミガキ	不良	鈍い赤橙	褐灰	
48	27号土坑	甕	—	11.6	7.5	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ナデ	ナデ	不良	明赤褐	橙	
49	27号土坑	鉢	—	8.5	13.8	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ハケ目	ナデ	不良	浅黄橙	灰褐・黒褐	外面黒斑あり
50	28号土坑	甕?	—	6.4	2.4	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ハケ目後ナデ	不明	良	褐灰	明褐灰	
51	28号土坑	壺	17.0	—	4.5	石英・長石・角閃石・赤褐色粒	ヨコナデ・ハケ目のちナデ	ナデ	良	鈍い褐・明褐	鈍い褐・明褐	
52	28号土坑	壺	28.6	—	2.5	微砂粒・長石・石英・角閃石	ハケ目後ナデ	ミガキ	良	橙	橙・褐灰	
53	28号土坑	甕	—	—	6.4	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・雲母	ヨコナデ・ハケ目	ナデ後ミガキ	良	灰褐	鈍い橙	二次加熱を受けている
54	30号土坑	甕	—	—	6.48	角閃石・石英・砂粒・白色粒	ヨコナデ	ナデ後一部ミガキ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
55	30号土坑	甕	—	10.0	12.2	砂粒・微砂粒・長石・雲母・角閃石・小石粒	ハケ目	丁寧なナデ	良	橙	褐灰	二次加熱を受けている
56	30号土坑	甕	27.8	—	19.1	砂粒・微砂粒・角閃石・石英・小石粒	ハケ目	ナデ	不良	橙・鈍い黄橙	鈍い黄橙	二次加熱を受けている
57	31号土坑	甕	—	—	4.7	白色粒・赤褐色粒・角閃石	ナデ	ミガキ・ナデ	良	鈍い黄橙	鈍い褐	
58	31号土坑	壺	—	9.4	6.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・白色粒・小石粒	ハケ目・ナデ	強いナデ	やや不良	赤褐	赤褐	
59	31号土坑	甕	—	8.4	6.5	砂粒・微砂粒・長石・雲母・角閃石・小石粒	指圧痕・ナデ	丁寧なナデ	不良	橙	鈍い橙	二次加熱を受けている
60	31号土坑	甕	—	9.0	7.7	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・白色粒・小石粒・石英	不明	ナデ・ミガキ	不良	明赤褐	鈍い褐	二次加熱を受けている
61	33号土坑	甕	—	—	4.0	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ナデ	丁寧なナデ	良	鈍い黄橙	灰黄褐	内側に黒斑あり
62	33号土坑	甕	—	—	5.3	微砂粒・石英・長石・角閃石	ナデ・ハケ目	指押・ナデ	良	褐	明褐	二次加熱を受けている
63	33号土坑	壺	—	8.2	5.2	砂粒・微砂粒・角閃石・白色粒・長石・小石粒	ハケ目後ハラミガキ	ナデ	不良	明赤褐	鈍い赤橙	
64	33号土坑	甕	—	5.9	4.6	砂粒・微砂粒・角閃石	ハケ目	ナデ	良	橙	橙	
65	34号土坑	甕	21.6	—	4.2	石英・長石・角閃石・微砂粒	ナデ・ハケ目	ナデ	良	鈍い黄橙・褐灰	橙	外面黒斑あり
66	34号土坑	高杯?	19.0	—	6.7	石英・長石・角閃石・微砂粒	不明	ナデ後ミガキ	良	鈍い橙・橙	鈍い黄橙・褐灰	二次加熱を受けている
67	34号土坑	甕	—	10.5	5.2	長石・石英・角閃石・砂粒・微砂粒・小石粒	ハケ目後ナデ	ナデ	良	橙	橙	
68	37号土坑	甕	20.4	—	7.9	石英・角閃石・砂粒	ハケ目後ナデ・ナデ	ナデ	良	橙	鈍い黄橙	二次加熱を受けている
69	37号土坑	甕	—	9.0	9.1	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・白色粒・小石粒	ハケ目後ナデ	ナデ	やや良	鈍い橙	鈍い黄橙	
70	37号土坑	甕	26.8	—	10.1	長石・角閃石・白色粒	不明	不明	良	明黄褐	鈍い黄橙	
71	37号土坑	壺	—	10.8	6.3	砂粒・微砂粒・白色粒・長石	ハケ目後ハラミガキ・ナデ	ナデ	良	浅黄橙	浅黄橙	黒斑あり
72	37号土坑	甕	—	7.8	16.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ハケ目・ナデ	ナデ	不良	橙	明黄褐	二次加熱を受けている
73	37号土坑	甕	28.6	—	7.5	砂粒・微砂粒・角閃石・小石粒	ナデ	ナデ	良	鈍い橙	橙	
74	37号土坑	甕	32.0	—	13.0	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒	ハケ目	ミガキ	良	鈍い橙	橙	外面黒斑あり
75	39号土坑	蓋	つまみ部径	7.8	9.8	砂粒・微砂粒・角閃石・小石粒・白色粒・長石	ハケ目後ハラミガキ	ハラミガキ	良	鈍い橙	浅黄橙	
76	39号土坑	甕	25.0	—	6.6	石英・長石・角閃石・砂粒・赤褐色粒・微砂粒	ハケ目・ナデ	ナデ・ミガキ	良	鈍い黄褐	灰黄褐	
77	39号土坑	甕	19.8	—	12.7	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・白色粒	ハケ目後ナデ	ハラミガキ	やや不良	鈍い橙	鈍い黄橙	二次加熱を受けている
78	39号土坑	甕	—	—	9.5	砂粒・微砂粒・角閃石・白色粒・長石	ハケ目	ハラミガキ	良	鈍い黄橙	褐灰	内外とも黒色化
79	39号土坑	壺	20.0	—	10.7	砂粒・微砂粒・長石・白色粒	ハラミガキ・ナデ・ハケ目	ハラミガキ	良	褐灰	黒	
80	39号土坑	甕	—	—	7.2	砂粒・微砂粒・石英・角閃石・長石	ハケ目後ナデ	ナデ	不良	橙	橙	二次加熱を受けている
81	39号土坑	壺	—	—	3.8	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒・白色粒	ナデ・ハケ目	ナデ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
82	39号土坑	甕	—	10.0	16.2	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・小石粒・白色粒	ナデ	ナデ	不良	橙	橙	
83	39号土坑	甕	16.6	—	4.4	石英・長石・角閃石・砂粒	ハケ目後ナデ・ハケ目	ナデ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
84	39号土坑	甕	—	—	6.0	石英・長石・角閃石・微砂粒	ハケ目・ナデ	ナデ又はミガキ	良	鈍い黄褐	鈍い黄橙	
85	42号土坑	壺	24.2	—	7.7	長石・角閃石・砂粒・小石粒・微砂粒	ハケ目の上をナデ	丁寧なナデ	良	鈍い橙	橙	
86	42号土坑	壺	17.6	—	7.2	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・白色粒	不明	不明	不良	橙	明黄褐	
87	42号土坑	壺	17.2	6.8	23.6	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・小石粒	不明	不明	不良	橙	明黄橙	胴部径20.2
88	42号土坑	壺?	—	8.8	6.7	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ハケ後ミガキ	不明	不良	橙	鈍い黄橙	
89	42号土坑	壺	—	—	7.0	砂粒・微砂粒・石英・角閃石	ハケ目・ナデ	ハラミガキ	やや不良	褐灰	褐灰	赤色顔料付着
90	42号土坑	甕	27.0	—	4.7	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ハケ目・ナデ	ナデ?	不良	鈍い橙	橙	
91	42号土坑	小型甕	12.6	—	5.5	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	不明	不明	不良	灰褐	鈍い橙	
92	42号土坑	鉢	18.6	—	7.5	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ハケ目・ナデ	ハラミガキ	不良	浅黄橙	浅黄橙	
93	43号土坑	壺	頸部径	19.8	8.1	角閃石・石英・長石・砂粒・微砂粒	ナデ	丁寧なナデ	良	褐	鈍い褐	
94	43号土坑	甕	—	6.2	4.0	赤褐色粒・角閃石・長石	ナデ	ナデ?	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	

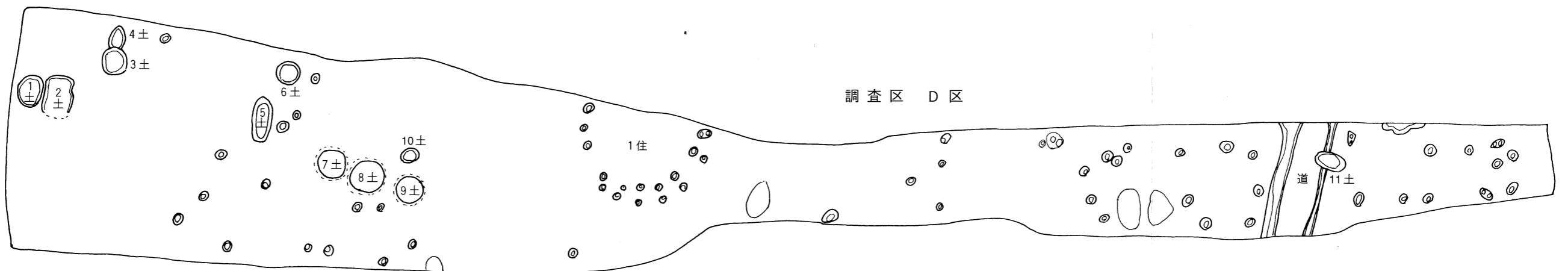
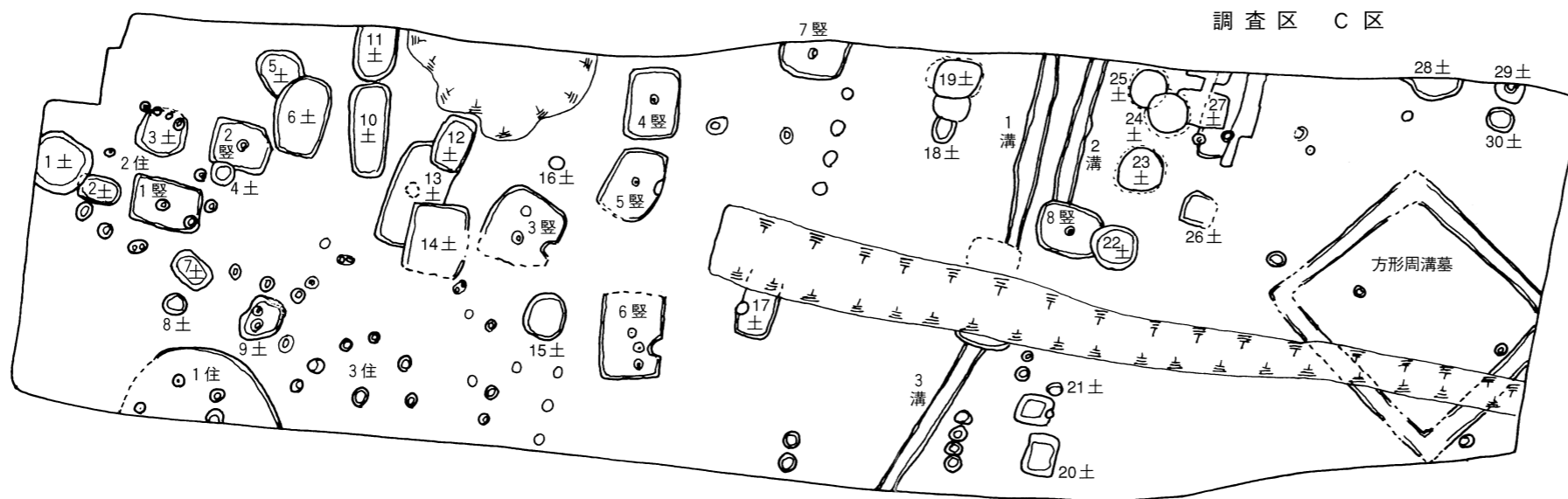
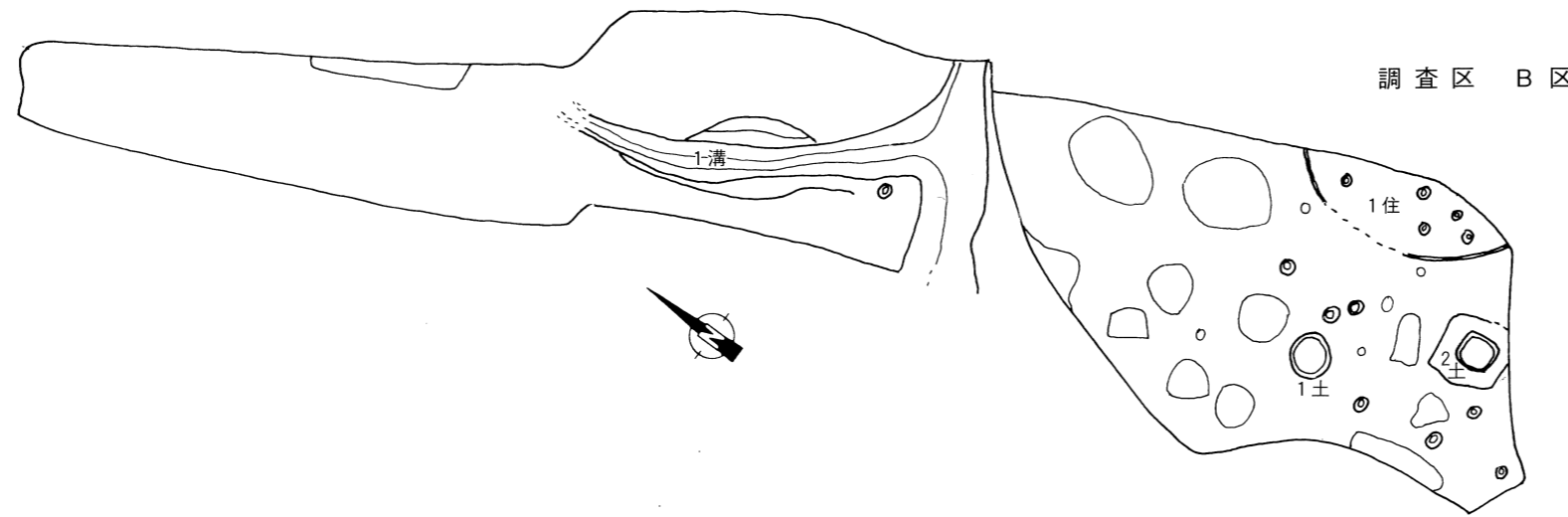
第2表 A区出土土器観察表(2)

95	45号土坑	甕	30.0	—	20.0	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ハケ目・ナデ	丁寧なナデ	や不良	橙	橙	
96	45号土坑	甕	27.4	—	9.3	砂粒・微砂粒・角閃石・長石	ハケ目・ナデ	ミガキ?	不良	橙	橙	
97	45号土坑	甕	26.4	—	11.2	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ハケ目	ミガキ	や不良	橙	明赤褐	
98	49号土坑	甕	32.0	—	8.3	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ハケ目・ナデ	ミガキ	良	橙・橙灰	橙	黒斑あり
99	45号土坑	甕	—	—	3.9	微砂粒・石英・角閃石	ハケ目一部 ナデ	指押え ・ナデ	良	灰黄褐	橙	外面黒斑あり
100	45号土坑	鉢?	—	—	7.8	石英・白色粒・角閃石・砂粒・微砂粒	指押え・ ハケ目・ナデ	丁寧な ナデ	良	明赤褐	明黄褐	
101	46号土坑	甕	—	9.2	9.0	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・白色粒	ハケ目・ナデ	ナデ	不良	橙	鈍い黄橙	
102	46号土坑	甕	—	7.5	6.2	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・小石粒	ハケ目・ナデ	不明	不良	明赤褐	橙	
103	46号土坑	甕	—	8.6	7.5	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒・白色粒	不明	ナデ	不良	明赤褐	橙	底部に 穿孔がある
104	46号土坑	甕	21.2	—	15.7	砂粒・角閃石・長石・白色粒	ハケ目・ナデ	ナデ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	外面黒斑あり
105	46号土坑	壺	頸部径 18.4	8.4	8.4	砂粒・微砂粒・長石・角閃石・小石粒	ナデ・ハケ目 後ミガキ	ナデ?	良	鈍い橙	鈍い黄橙	
106	46号土坑	壺	頸部径 19.4	12.6	12.6	砂粒・微砂粒・角閃石・小石粒	ハケ目後ミガキ	ミガキ	不良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
107	46号土坑	甕	—	12.8	13.2	微砂粒・長石・角閃石・白色粒	ミガキ・ハケ目	ミガキ	良	鈍い黄橙	鈍い黄橙	
108	46号土坑	甕	23.0	—	8.5	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石	ハケ目・ナデ	ナデ・ハケ目 後ナデ	良	橙	橙	
109	46号土坑	甕	24.2	—	6.5	砂粒・微砂粒・角閃石・白色粒	ナデ・ハケ目	ヘラ ミガキ	良	灰黄褐	鈍い黄橙	
110	46号土坑	甕	—	—	7.8	砂粒・微砂粒・長石・角閃石	ハケ目・ナデ	ナデ	良	橙	橙	二次加熱を 受けている
111	46号土坑	甕	—	8.6	10.3	砂粒・微砂粒・角閃石・長石・小石粒・白色粒	ハケ目・ナデ	ナデ	不良	橙	橙	
112	46号土坑	甕	—	13.4	6.7	砂粒・微砂粒・長石・小石粒	ハケ目・ナデ ミガキ	不明	不良	鈍い褐	鈍い褐	
113	46号土坑	甕	—	—	6.6	砂粒・微砂粒・角閃石・小石粒・白色粒・長石	不明	不明	不良	明黄橙	明赤褐	
114	47号土坑	壺?	—	8.0	4.2	砂粒・微砂粒・小石粒・白色粒	ヘラミガキ・ナデ	丁寧な ナデ	や不良	灰黄褐	灰黄褐	
115	47号土坑	甕	30.0	—	12.6	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・小石粒	ハケ目	ナデ?	不良	橙・ 明黄褐	明黄褐	胴部径26.8
116	47号土坑	鉢	29.4	—	10.0	砂粒・石英・角閃石	不明	ナデ	良	黄橙	明黄褐	
117	47号土坑	甕	—	7.7	5.0	砂粒・微砂粒・角閃石・白色粒・長石	ハケ目・ナデ	不明	不良	橙	橙	
118	48号土坑	甕	—	7.8	5.5	砂粒・微砂粒・白色粒	ハケ目・ナデ	ナデ	不良	鈍い黄橙	橙	
119	50号土坑	蓋	26.0	—	7.6	石英・長石	ハケ目後ヘラ ミガキ・ナデ	ヘラミガキ ・ナデ	良	明褐	明赤褐	二次加熱を 受けている
120	50号土坑	甕?	—	6.6	5.3	砂粒・微砂粒・石英・長石・角閃石・小石粒	ミガキ・ハケ 目・ナデ	丁寧な ナデ	良	明赤褐	明赤褐	外面黒斑あり
121	51号土坑	甕	—	7.0	6.4	砂粒・白色粒・小石粒・微砂粒	ナデ?	ナデ?	不良	明赤褐	橙	

第3表 A区出土土器観察表(3)

	器種	遺構名	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考
1	石鏃	一括	1.8	1.4	0.3	0.47	姫島産黒曜石	両脚部欠損
2	石鏃	一括	1.5	2.1	0.3	0.46	姫島産黒曜石	先端部欠損
3	石鏃	一括	2.8	2.1	0.6	2.2	姫島産安山岩	先端部欠損
4	石鏃	一括	1.4	1.3	0.3	0.4	姫島産黒曜石	先端部及び両脚部欠損
5	石鏃	一括	1.9	1.0	0.3	0.49	姫島産黒曜石	先端部及び右半分欠損
6	石鏃	一括	1.4	1.6	0.5	1.02	姫島産黒曜石	先端部欠損
7	石鏃	一括	3.1	1.7	0.6	3.1	姫島産黒曜石	未完成品
8	石鏃	1号落込	1.4	1.3	0.3	0.33	姫島産黒曜石	左脚部欠損
9	石鏃	1号落込	1.8	1.5	0.3	0.53	姫島産黒曜石	左脚部欠損
10	石鏃	1号落込	1.1	1.85	0.3	0.46	姫島産黒曜石	先端部欠損
11	石鏃	1号落込	1.7	1.5	0.4	0.69	姫島産黒曜石	先端部及び両脚部欠損
12	石鏃	1号落込	3.0	1.2	0.4	1.64	金山産サヌカイト	
13	石鏃	1号落込	2.5	1.1	0.6	1.69	姫島産黒曜石	
14	石鏃	1号落込	1.6	1.4	0.25	0.32	姫島産黒曜石	左脚部欠損
15	石鏃	4号溝	2.1	1.9	0.4	0.99	姫島産黒曜石	両脚部欠損
16	石鏃	16号土坑	1.8	1.8	0.3	0.47	姫島産黒曜石	
17	石鏃	31号土坑	1.8	1.6	0.4	1.01	金山産サヌカイト	先端部及び右脚部欠損
18	石鏃	31号土坑	1.7	1.5	0.3	0.49	サヌカイト	左脚部欠損
19	石鏃	28号土坑	3.9	1.9	0.5	2.8	金山産サヌカイト	左脚部欠損
20	石鏃	39号土坑	3.6	2.2	0.9	6.69	姫島産黒曜石	未完成品
21	石鏃	39号土坑	2.1	1.6	0.3	0.7	腰岳産黒曜石	左脚部欠損
22	石鏃	42号土坑	1.4	1.6	0.4	0.56	姫島産黒曜石	先端部及び左脚部欠損
23	石鏃	42号土坑	2.2	1.2	0.3	0.57	姫島産黒曜石	両脚部欠損
24	石鏃	46号土坑	2.8	1.6	0.5	2.62	金山産サヌカイト	
25	石斧	34号土坑	5.4	6.7	4.2	177.48	玄武岩	刃部のみ残存

第4表 A区出土土器観察表



第52図 B・C・D区遺構配置図



第2節 B区の調査

1. 調査の概要

調査区は遺跡西端に位置し、上ノ原横穴墓群に近接している。現状は荒地であり、現道より約1m低く南西側に傾斜した地形である。調査区内は風倒木痕や近世以降の掘削等による攪乱がみられ遺構・遺物の確認はわずかであった。確認できた遺構は竪穴住居跡1基、土坑2基、溝状遺構1条である。

2. 遺構と遺物

1号竪穴住居跡（第53図）

住居跡は調査区北側現道沿いで確認されたが、上部が攪乱されており残存する壁面は高さ3～6cmほどである。検出状況から現道部分にまで遺構が延びている可能性が大きい。遺構の平面プランは、検出面から円形の竪穴住居跡と考えられる。規模は南北約670cm、東西約270cmである。支柱穴は確認できなかった。遺物は土器片が二十数点出土したが、細片でかつ器面の劣化・風化が著しいため実測可能なものはなく、時期の特定には至らなかった。

1号土坑（第54図）

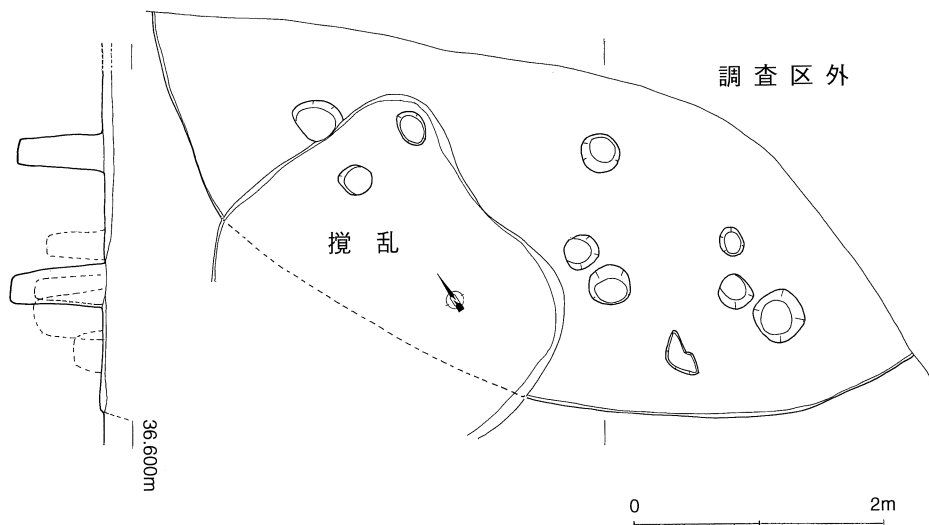
遺構は2号土坑の西側約2mに位置している。上部は攪乱されていたが、平面プランは楕円形を呈しており、規模は長軸160cm、短軸120cm、深さ16cmである。土器片5点が出土したが、器面の劣化・剥離が激しく図化し得なかった。時期は不明である。

2号土坑（第55図）

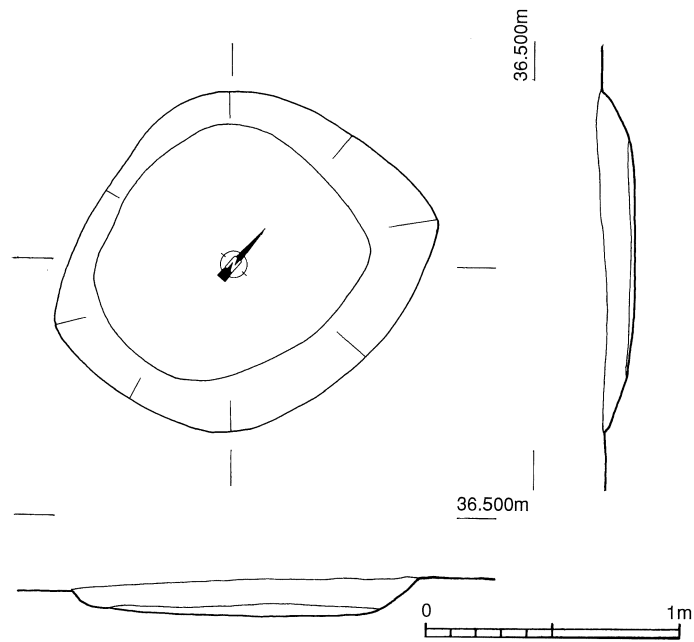
遺構は調査区の東側、1号竪穴住居跡に隣接する位置にある。1号竪穴住居跡と同様に上部が大きく削平されている。形状は二段堀の土坑であるが、一段目の平面プランはほぼ正方形を呈している。遺構の規模は一段目が一辺200cm、二段目は長軸130cm、短軸120cmで深さは土坑検出面から50cmである。遺物は土器の小片が数片出土したが、摩滅が激しく実測が不能で時期の特定はできない。

1号溝状遺構（第56図）

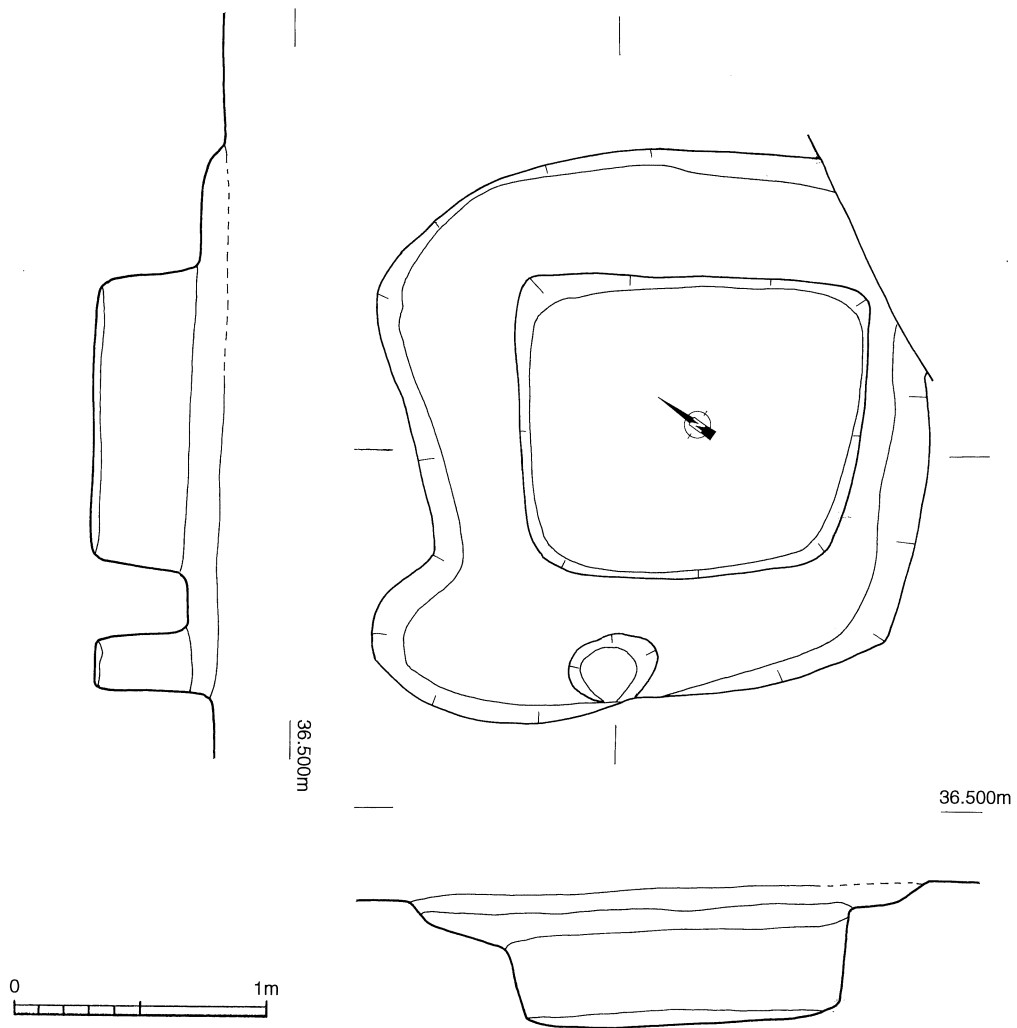
遺構は調査区の西部に位置するもので、北西～南東に6.8m延びている。両端部は掘削等の攪乱ではっきりしない。溝の規模は幅70～170cm、深さ70～100cmである。出土遺物も数片の土器片を確認したが、残存状況が悪く実測不能で、時期の特定には至らなかった。



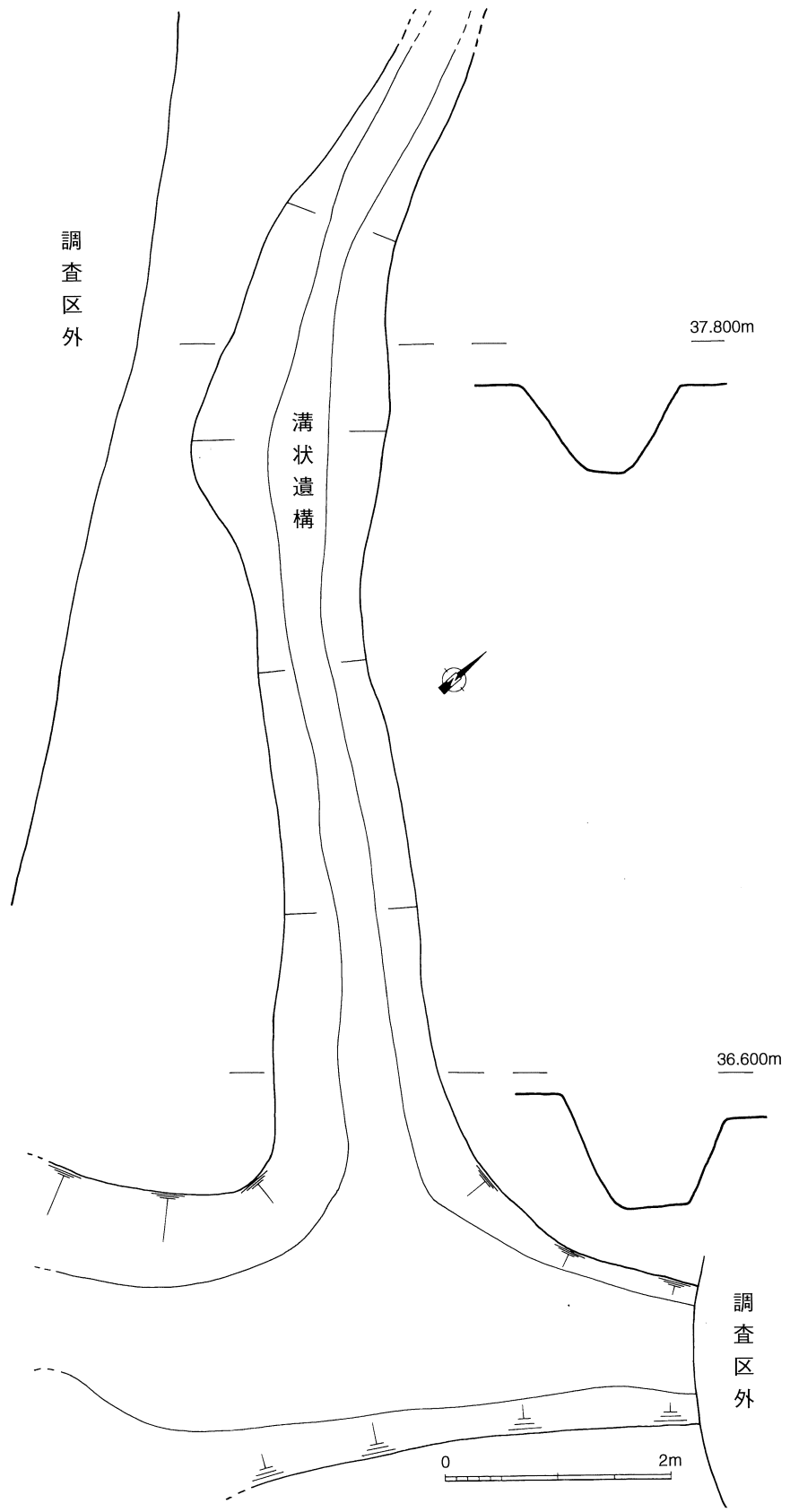
第53図 B区1号竪穴住居跡実測図 (S=1/60)



第54图 B区1号土坑实测图 (S=1/30)



第55图 B区2号土坑实测图 (S=1/30)

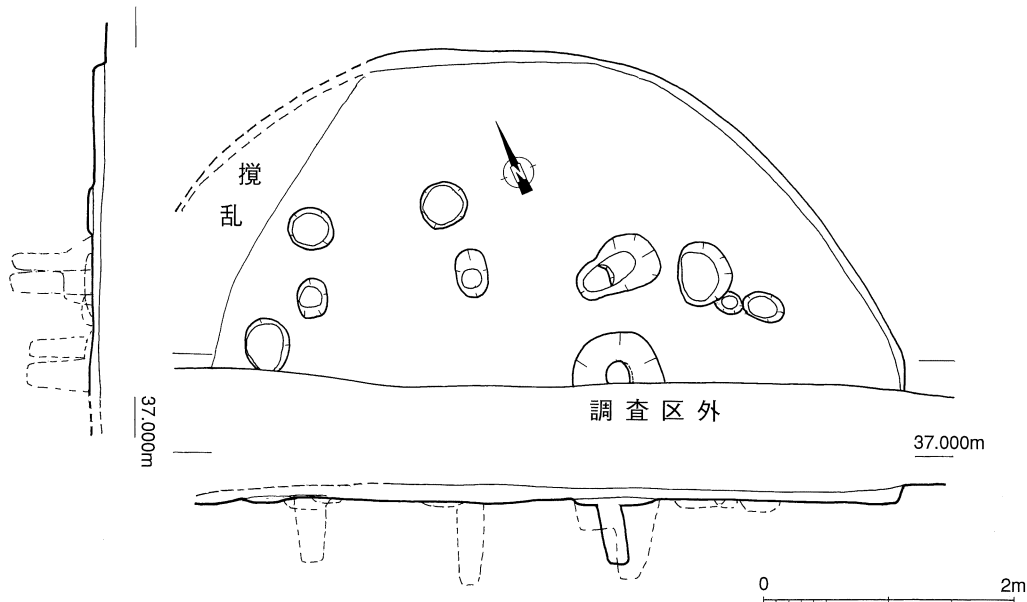


第56図 B区1号溝状遺構実測図 (S=1/60)

第3節 C区の調査

1. 調査の概要

調査区は相原工区のほぼ中央に位置し、遺構・遺物が最も多く確認されている。現状は畑地として用いられていた。区内には家屋が存在した経緯があり、数次にわたり深い掘削を受けていたが、比較的遺構の残りは良かった。確認された遺構は堅穴住居跡3基、堅穴遺構8基、土坑30基、方形周溝墓1基、溝状遺構3条、ピット群である。



第57図 C区1号堅穴住居跡実測図 (S=1/60)

2. 遺構と遺物

1号堅穴住居跡

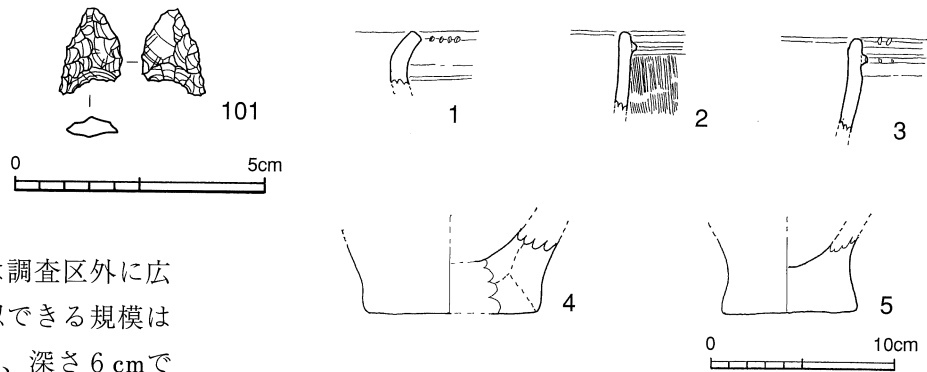
(第57図)

遺構は調査区西端の現道沿いに位置している。遺構

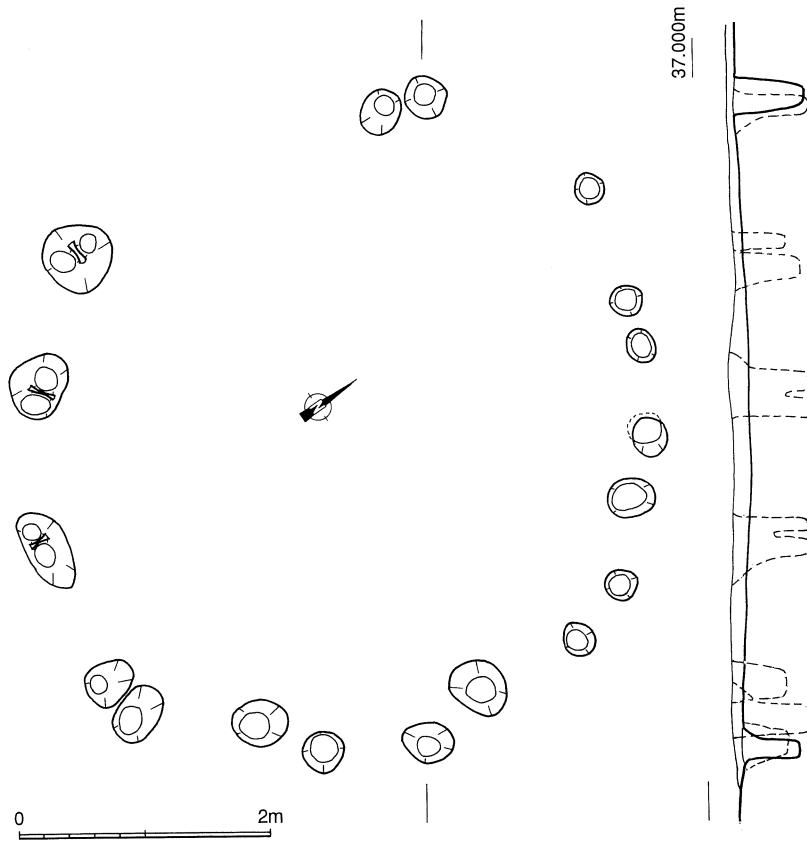
西側は攪乱され、南側は調査区外に広がると推定される。確認できる規模は南北265cm、東西565cm、深さ6cmである。住居床面及び周辺には焼土が大量に残存しており、火災によって焼失したものと考えられる。遺物は土器底部を含めて数点を検出した。

1号堅穴住居跡出土遺物 (第58図)

1～3は甕の口縁部片で3点共に胎土には角閃石・斜長石・石英・砂粒を含んでいる。色調は内外面とも赤褐色である。内面調整は風化が激しく不明であるが、外面は1・3は僅かに横ナデ、2はハケ目が施されており、焼成は1・2は不良、3は良好である。4・5の胎土には1mm大の角閃石・長石・砂粒が含まれる。風化が激しく内外面共に調整は不明で焼成は不良である。石器は姫島産黒曜石製の石鏃(101)を出土した。長さ1.4cm、幅1.1cm、厚さ0.4cm、重さ1.4gである。



第58図 C区1号堅穴住居跡出土遺物実測図
(石器S=2/3 土器S=1/4)



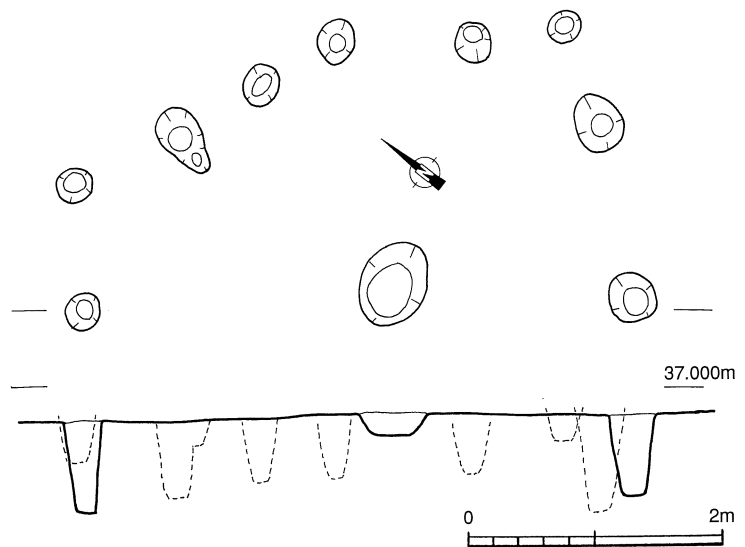
第59図 C区2号竪穴住居跡実測図 (S=1/60)

2号竪穴住居跡 (第59図)

住居跡は調査区の西側に位置する。この遺構は1号竪穴遺構・1号土坑・2号土坑・3号土坑と切り合い関係にあるため壁面、床面の確認はできない。平面プランは、柱穴痕から円形と推定される。2号住居跡と各遺構との新旧関係は不明である。遺構に伴う遺物は出土していない。

3号竪穴住居跡 (第60図)

住居跡は1号竪穴住居跡の東隣に位置する。平面プランは柱穴痕から円形と思われる。遺構の一部が現道下にまで延びている可能性があるが、規模は不明で、遺構に伴う遺物は出土していない。



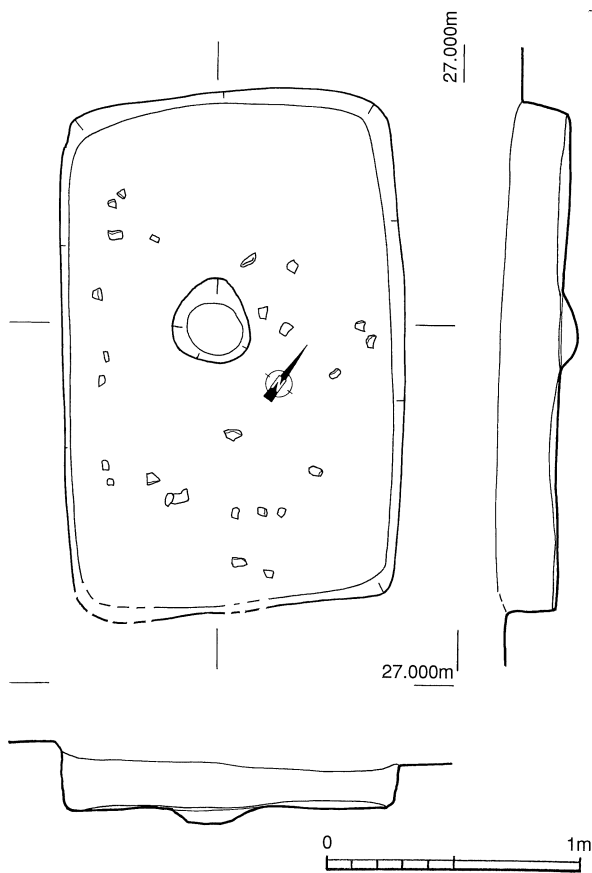
第60図 C区3号竪穴住居跡実測図 (S=1/60)

1号竪穴遺構 (第61図)

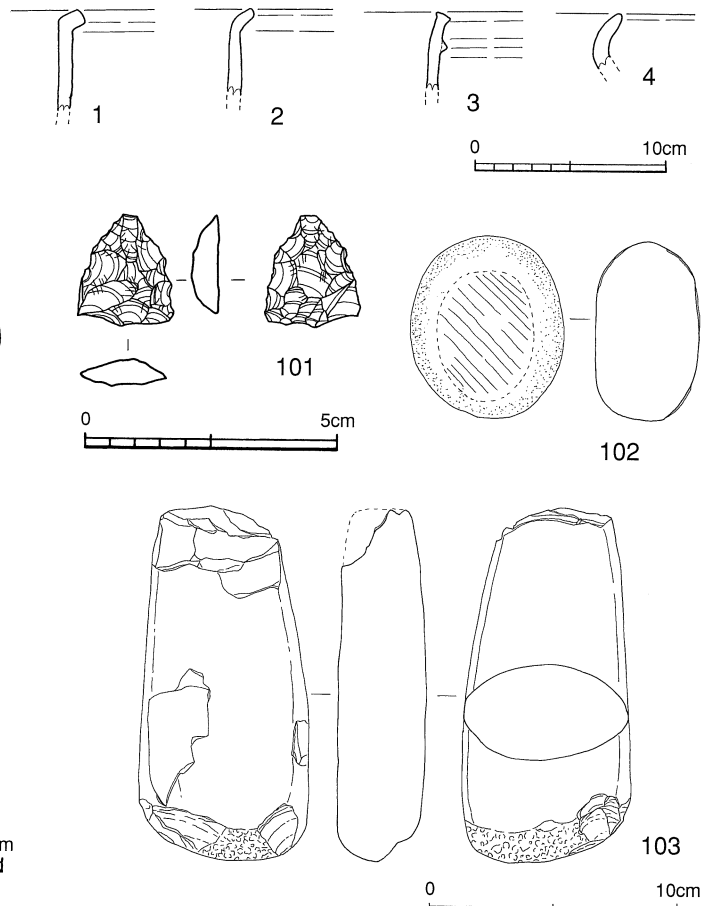
遺構は2号住居跡の中央に位置する。平面プランは長方形で、壁面の立ち上りは明瞭である。規模は長軸210cm、短軸130cm、深さ24cmである。ほぼ中央に直径30cm、深さ18cmの窪みがあり、支柱穴痕と考えられ、この遺構は住居跡か工房跡と推定できる。

1号竪穴遺構出土遺物 (第62図)

1は甕形土器の口縁部で大きく外反する。胎土には1mm大の角閃石・長石を多く含み、石英・白色細粒が僅かに含まれる。調整は不明で色調は内面が黄褐色、外面は明茶褐色である。焼成は良



第61図 C区1号竪穴遺構実測図 (S=1/30)



第62図 C区1号竪穴遺構出土遺物実測図
(土器S=1/4 石鏃S=2/3 石斧S=1/3)

好である。2は甕形土器の口縁部片で緩やかに外反している。胎土は1と同様。色調は内外面ともに淡黄褐色で焼成は良好である。3は甕形土器の口縁部で貼り付け突帯を有する下城式土器である。胎土には石英・白色砂粒を含む。調整は剥離が激しく不明。色調は淡褐色を呈し、焼成は良好である。4も甕形土器の口縁部で胎土には長石・石英を含み、調整は不明。色調は赤褐色で焼成は不良である。石器は姫島産黒曜石製の石鏃1点、安山岩製磨製石斧と磨石の計3点を出土した。101は石鏃で長さ1.3cm、幅1.1cm、厚さ0.43cm、重さ1.4g、102は磨石で長さ7.4cm、幅6.3cm、厚さ4.3cm、重さ261.6gである。103は石斧で長さ14.2cm、幅6.6cm、厚さ3.5cm、重さ630.4gである。

遺物の時期は1・2・4は不明であるが、3は弥生時代中期初頭のものとは比定したい。

2号竪穴遺構 (第63図)

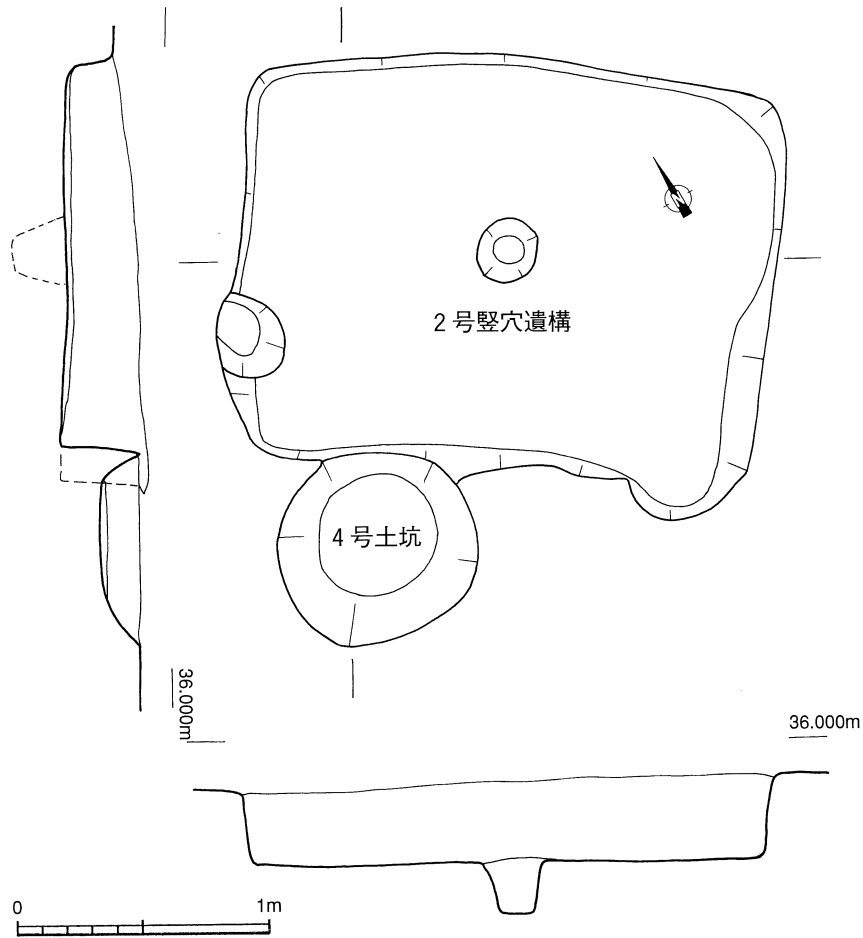
遺構は、2号住居跡の東側に隣接する。遺構の西側一部が4号土坑と切り合い関係にある。精査の結果、2号竪穴遺構→4号土坑という前後関係が判明した。平面プランは長方形で壁面の立ち上りは明瞭である。規模は長軸215cm、短軸160cm、深さ30cmである。

2号竪穴遺構出土遺物 (第64図)

磨製石斧(101)が出土した。石材は安山岩製で被熱等を受けることで研磨面すべてが剥離したと思われる。長さ14cm、幅7cm、厚さ3.7cm、重さ508gである。

3号竪穴遺構 (第65図)

遺構は、調査区の中央よりやや北側に位置する。平面プランは方形で南西部が攪乱を受けている。遺構の東南の壁面内側に直径約50cmの半円形状の張り出し部がある。規模は一辺280cm、深さ35cmであるが、一部攪乱があるので、正確な規模は不明である。



第63図 C区2号竪穴遺構・4号土坑実測図 (S=1/30)

3号竪穴遺構出土遺物 (第66図)

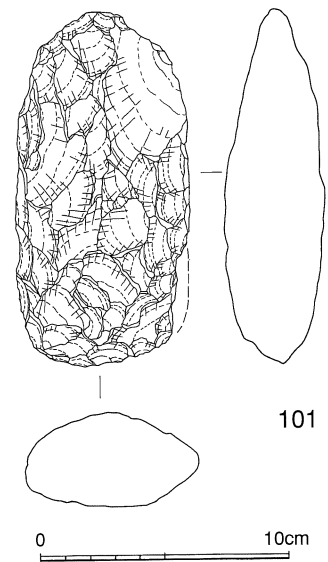
1～3は甕形土器の底部である。1の胎土には角閃石を多く含み、長石・白色細粒が僅かに含まれる。調整はミガキを施しており、焼成は良好である。色調は内面が淡黄褐色、外面は淡赤褐色で底径は7cm、残存高は7.4cmである。2の胎土には角閃石・長石を僅かに含み、白色細粒を多く含んでいる。内外面の調整は剥落が激しく不明。焼成は良好で色調は赤褐色である。復元底径は9cm、残存高は5cmである。3の胎土には角閃石・長石・石英を僅かに含み、白色細粒が含まれる。調整は外面がハケ目、内面は指圧痕がみられる。底径は9cmで残存高は4cmである。遺物の時期は不明である。

4号竪穴遺構 (第67図)

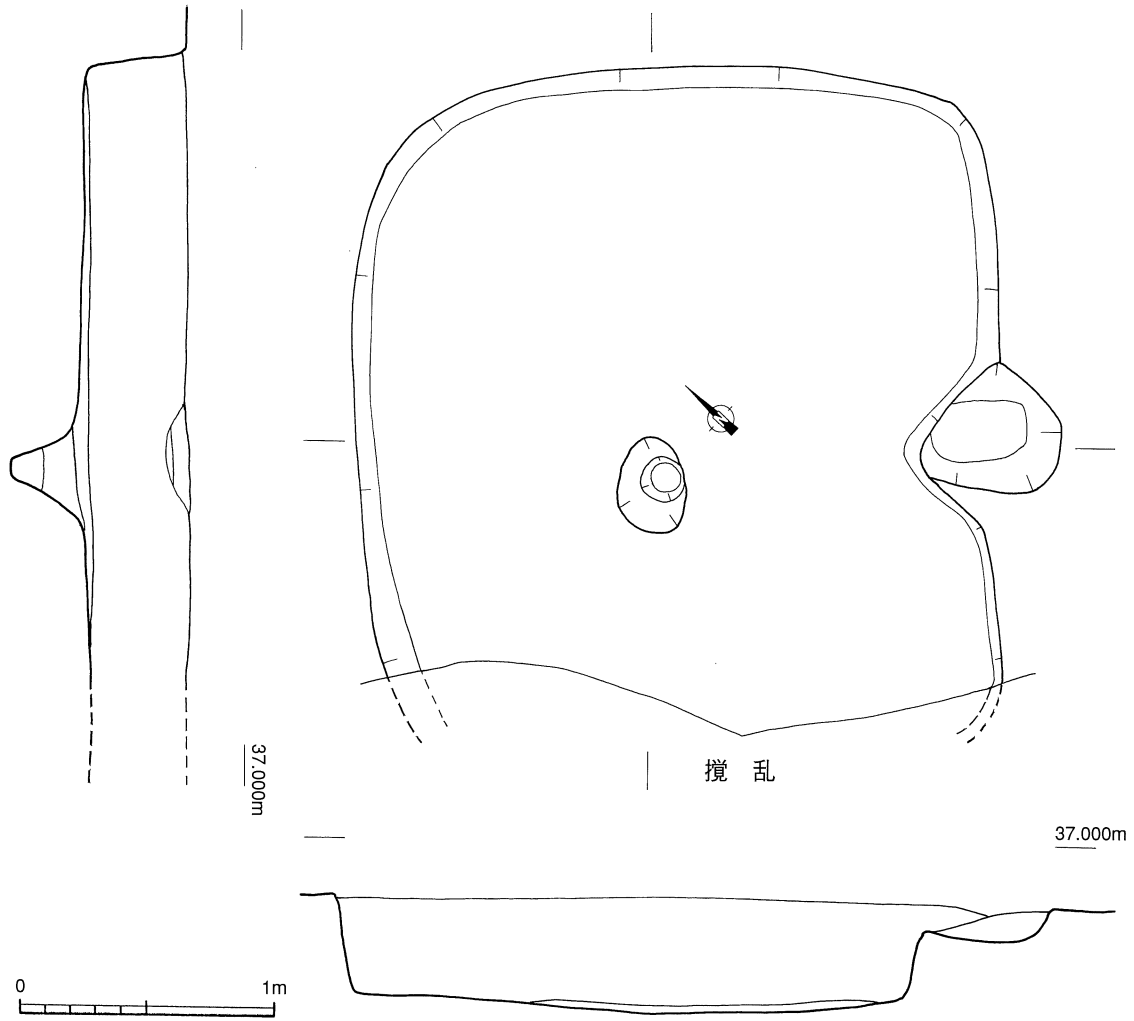
遺構は調査区のほぼ中央に位置し、平面プランは長方形で、規模は長軸270cm、短軸190cm、深さ約40cmである。床面の中央部に直径約17cm、深さ40cmの支柱穴があり竪穴住居跡の可能性もある。

4号竪穴遺構出土遺物 (第68図)

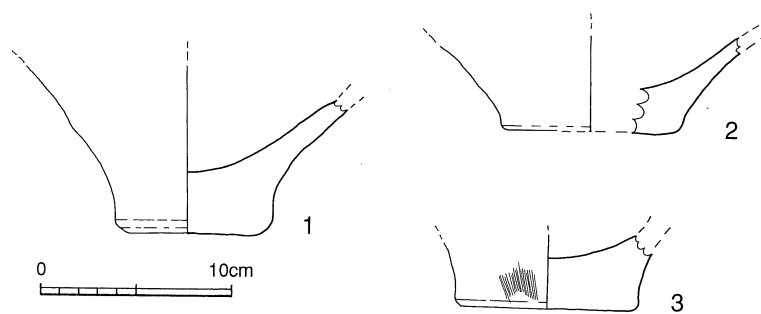
1・2は甕形土器の口縁部である。1の胎土には角閃石・斜長石・石英・砂粒をそれぞれ僅かに含み色調は内外面ともに黄褐色で、焼成は良好である。調整は内面が縦ナデ、口唇部には横ナデが



第64図 C区2号竪穴遺構
出土遺物実測図 (S=1/3)

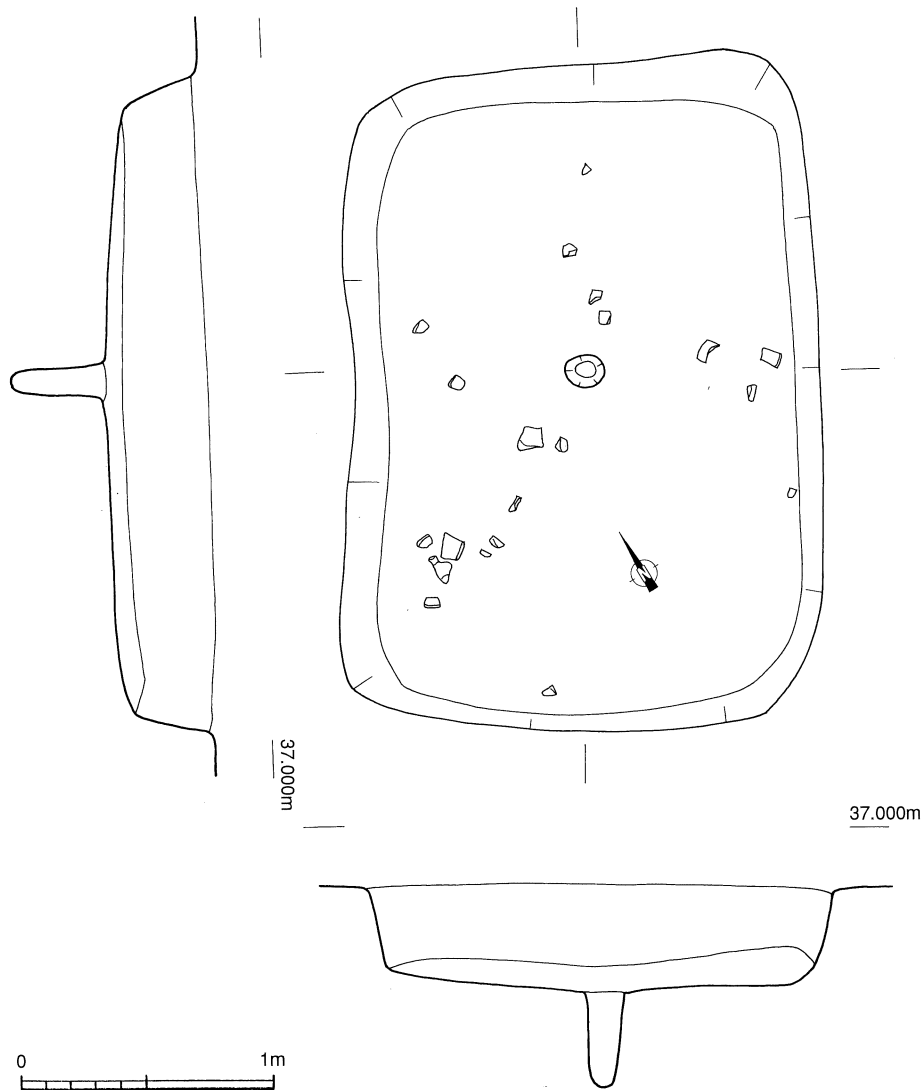


第65図 C区3号豎穴遺構実測図 (S=1/30)



第66図 C区3号豎穴遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

施されており外面はハケ目を確認できる。口縁部には断面三角形のキザミ目貼り付け突帯を有する。2の胎土には角閃石・斜長石・石英を多量に含み、色調は茶褐色を呈している。焼成は良好である。調整は、内面が不定方向ナデ、外面は横ナデで指圧痕がみられる。口縁部直下に断面三角形のキザミ目貼り付け突帯2条を有する。3は甕形土器の底部で、角閃石・砂粒を多く含む。色調は内外面共に赤褐色で、焼成は良好である。調整は内面が指押さえの後、不定方向ナデを施し、外面はハケ目及び指圧痕がみられる。遺物の時期は、弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。



第67図 C区4号竪穴遺構実測図 (S=1/30)

5号竪穴遺構 (第69図)

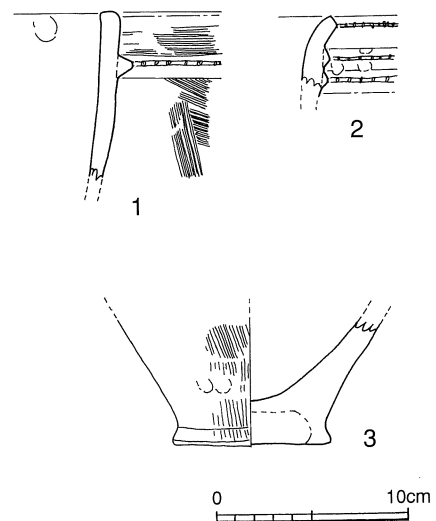
遺構は、4号竪穴遺構の南西側、調査区のほぼ中央に位置し内部に直径40cmの半円形状の張り出し部がある。遺構の規模は長軸260cm、短軸210cm、深さ20cmで床面中央に径13cm、深さ50cmの主柱穴がある。竪穴住居跡の可能性を持つ。土器の細片が僅かに出土したが、時期を特定するには至らなかった。

6号竪穴遺構 (第70図)

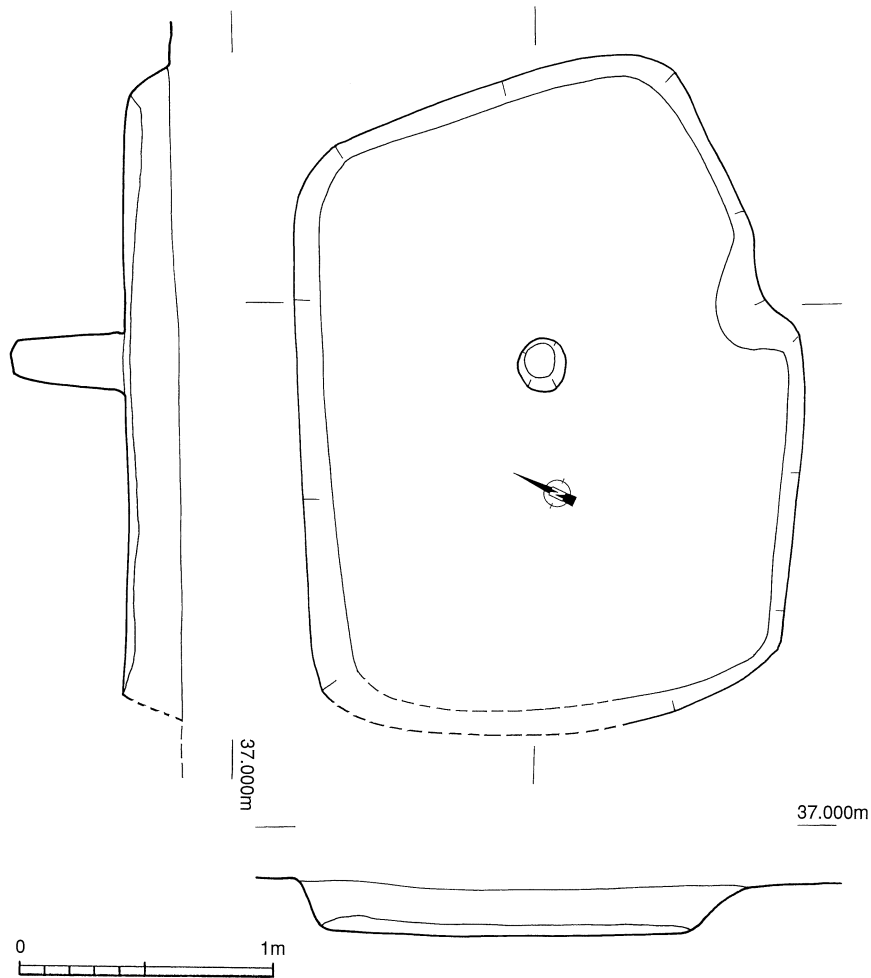
遺構は、調査区の中央南西に位置する。平面プランは長方形で、規模は長軸320cm、短軸230cm、深さ50cmである。南側壁面の内面に楕円形状の張り出し部がある。

6号竪穴遺構出土遺物 (第71図)

1・2の壺形土器の胴部上半と3の甕形土器の底部1点が検出された。1・2は木葉文で貝殻による施文がなされている。木葉文の直下に貼り付け突帯を有し、突帯部に2条の沈線が施されている。胎土には角閃石・白色砂粒が少量含まれる。1の



第68図 C区4号竪穴遺構出土遺物実測図 (S=1/4)



第69図 C区5号竪穴遺構実測図 (S=1/30)

内面調整は横ナデ、外面は斜めハケ目が施されている。2の調整は内面が横ナデ、外面は不明である。1・2共に焼成は良好である。3の底径は8cm、残存高4cmで、僅かに上げ底である。胎土には角閃石・長石・白色砂粒が多量に含まれている。調整は内面は縦ナデ、外面は縦方向にハケ目が施されており焼成は良好である。遺物の時期は弥生時代前期末から中期と思われる。

7号竪穴遺構 (第72図)

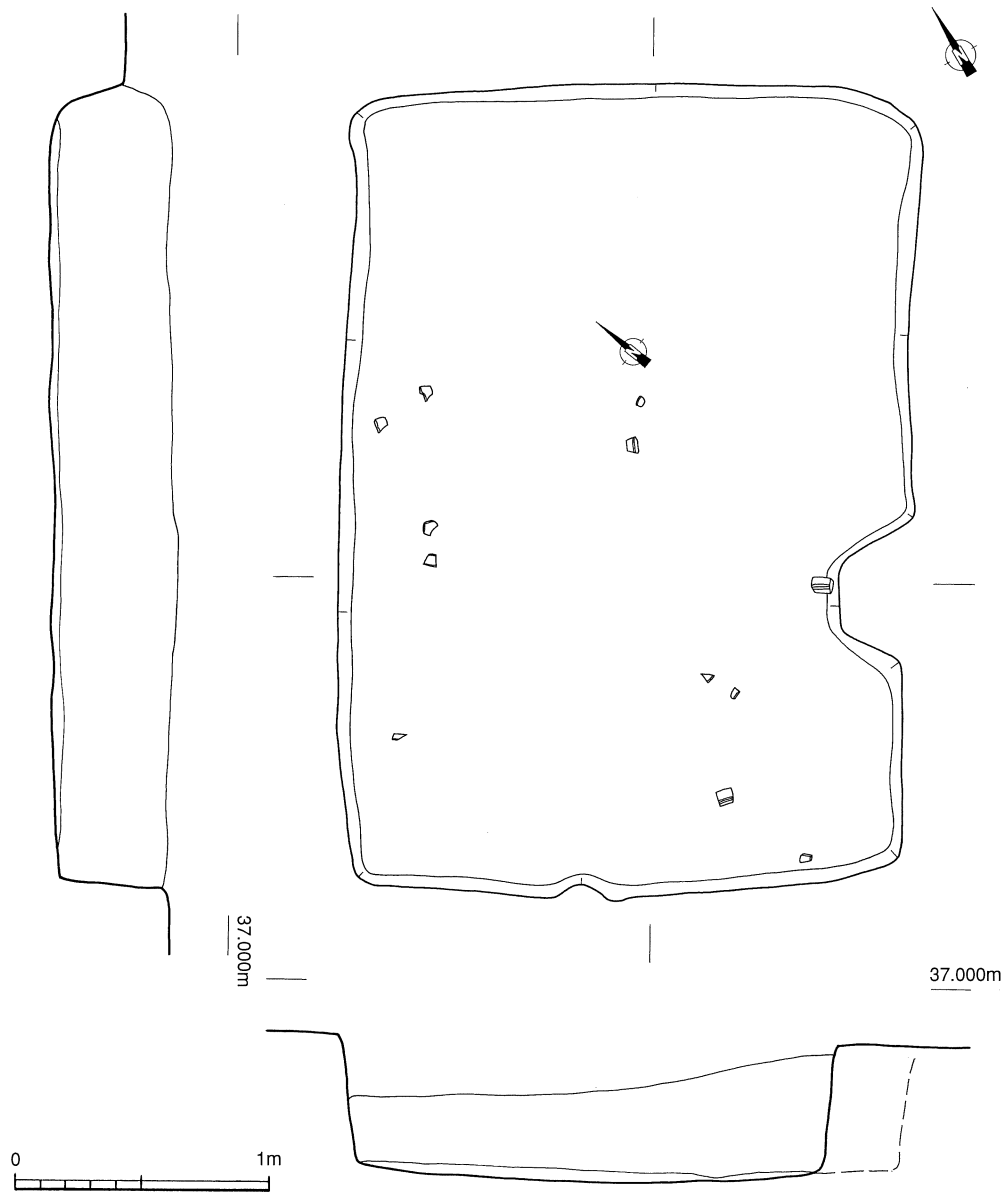
遺構は、調査区のほぼ中央東側に位置する。平面プランは長方形で遺構床面の中央に直径20cm、深さ10cmの窪みがあるが、これは支柱穴痕と思われる。1号竪穴遺構同様、竪穴住居跡か工房跡と考えられる。

7号竪穴遺構出土遺物 (第73図)

1は壺の口縁部で、胎土には角閃石・斜長石・石英・砂粒を僅かに含む。色調は内外面とも茶褐色で、焼成は良くない。貼り付け突帯が確認できる。2は高坏の脚部と思われる。胎土には角閃石・白色砂粒が少量含まれる。色調は黄褐色である。調整は風化が激しく不明で、焼成は不良である。1の時期は弥生時代前期末と考えられる。2の時期は不明である。

8号竪穴遺構 (第74図)

遺構は、2号溝状遺構及び22号土坑と切り合う状態で検出された。当該遺構は、検出状況から2号溝状遺構よりも新しく、22号土坑よりも古いと思われる。平面プランは隅丸方形で、規模は長軸240cm、短軸180cm、深さ30cmである。床面中央に直径20cm、深さ約20cmの支柱穴があり、竪穴住居跡か工房跡と考えられる。遺物は土器の細片が約十点ほど出土したが、風化が激しく時期の特定までには至らなかった。



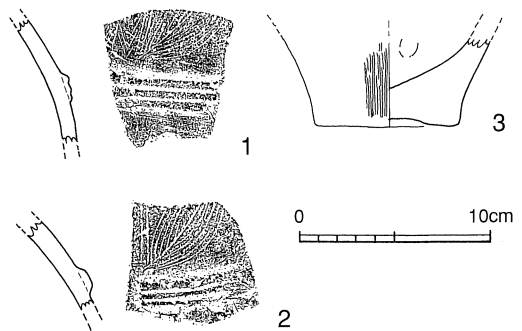
第70図 C区6号竖穴遺構実測図 (S=1/30)

1号土坑 (第75図)

遺構は、調査区の北西端に位置し、一部調査区外に広がる。2号土坑と切り合っているため平面プランは明確ではない。規模は推定で一辺約200cm、深さ40cmの隅丸方形と考えられる。新旧は1号土坑→2号土坑という関係が検出の結果判明した。

1号土坑出土遺物 (第76図)

遺物は摩滅した土器の細片が出土したが、大半が流れ込みと思われる。その中でこの遺構と同時期のものと思われる土器片を6点図化し得た。6点すべてが甕形土器の口縁部である。1・2は大分県を中心に東九州でよく見られる下城式甕形土器である。

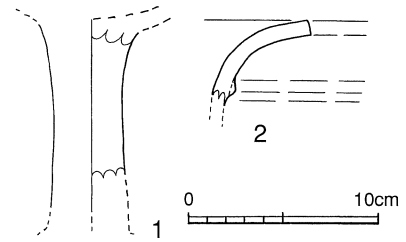


第71図 C区6号竖穴遺構出土遺物実測図 (S=1/4)



第72図 C区7号竪穴遺構実測図 (S=1/30)

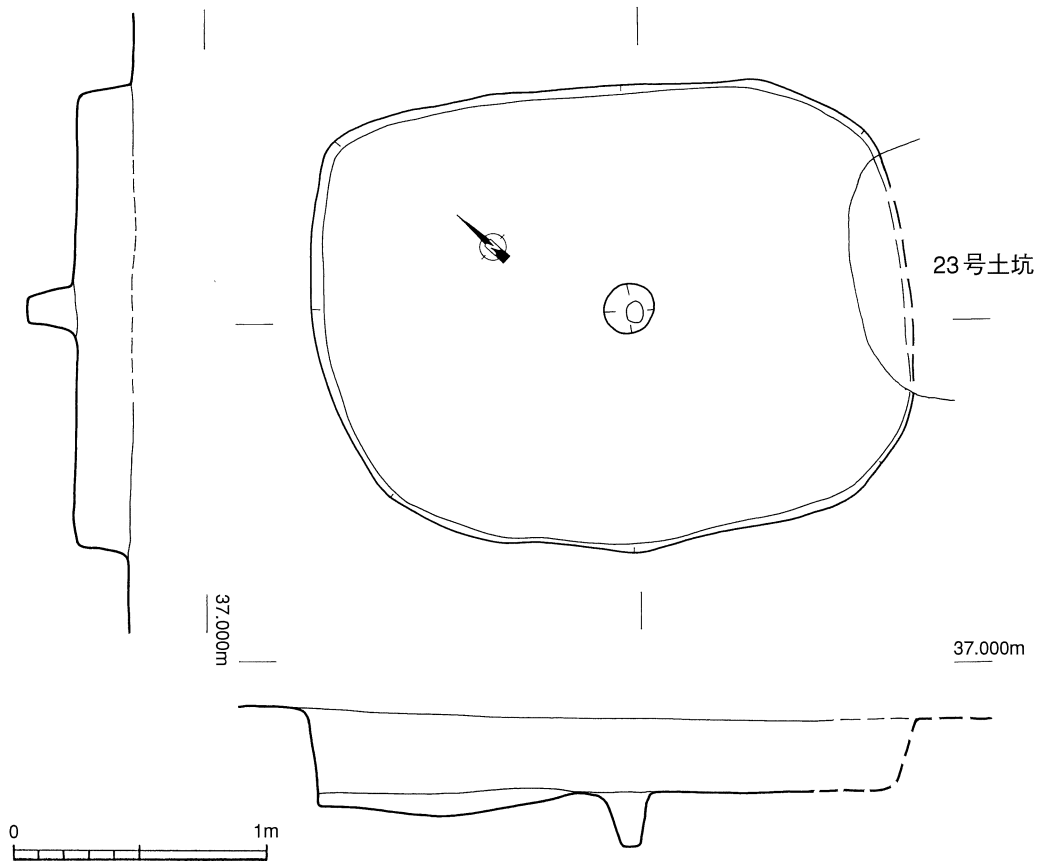
胎土には角閃石と2mm大の長石を多量に、白色細粒を僅かに含む。内面調整は口唇部が横ナデ、胴部にかけてヘラミガキを施し、外面は突帯を貼り付けた後横ナデ、胴部にかけて縦方向ハケ目の後斜めのハケ目を施している。焼成は良好である。3は口縁部が緩やかに外反している。胎土には3mm大の石英と2mm大の砂粒を多く含み、調整は内面がヨコナデ、外面は風化が激しく不明である。口縁部直下には2条の沈線が施されている。色調は内外面ともに赤褐色で焼成は不良である。4の口縁部は外反している。胎土には3mm大の長石と2mm大の砂粒を含み、内面調整はヨコナデ、外面はハケ目を施している。色調は内面が暗茶褐色、外面が黄褐色である。焼成は良好である。5は甕形土器の口縁部で胎土には角閃石と2mm大の長石及び石英を含み、色調は内外面共に黄褐色を呈している。調整は内面はヨコナデ、外面は下から上へのハケ目が施されている。6は下城式甕形土器の口縁部で、胎土には角閃石と2mm大の石英を含み、色調は内外面とも黄褐色である。調整は内面が横ナデ、外面は突帯を貼り付けているが風化が激しく調整不明である。焼成は不良である。これらの遺物の時期は弥生時代前期末と考えられる。



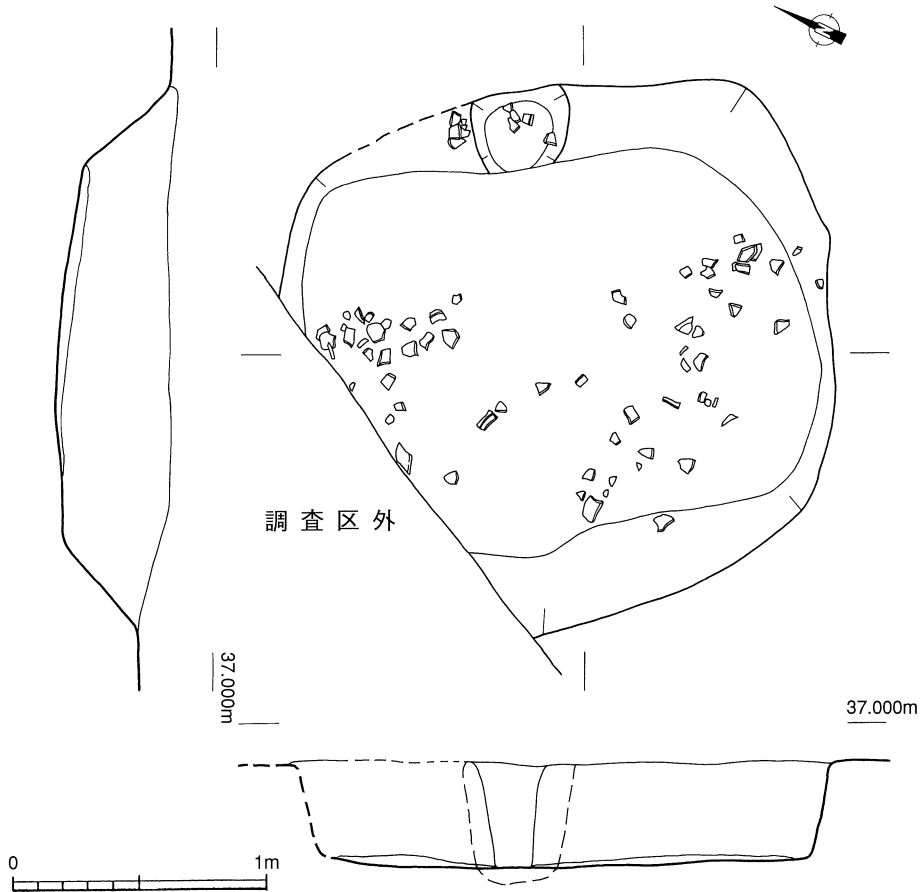
第73図 C区7号竪穴遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

2号土坑 (第77図)

遺構は、調査区の北西端に位置し、1号土坑と切り合っている。平面プランは楕円形で、規模は長軸が1号土坑と切り合っているため不明、短軸は90cm、深さ20cmである。遺物は土器細片が数点検出したが、図化し得たものは甕形土器の口縁部1点のみである。胎土には角閃石・長石と石英を多く含む。内面調整は風化が激しく不明であるが、外面は口唇部が横ナデ、胴部にかけてはハケ目が施されている。色調は内面が暗茶褐色、外面は橙色を呈しており焼成は良好である。遺物の時期は弥生時代前期末と思われる。



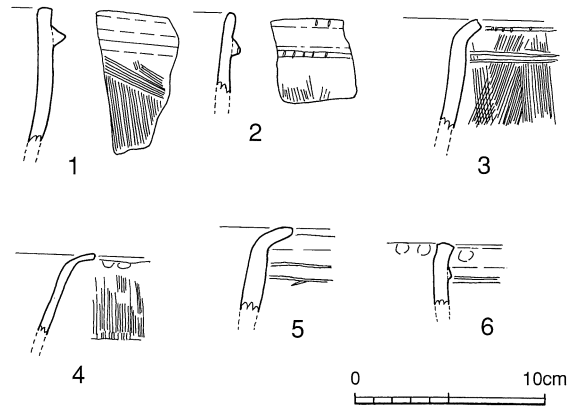
第74図 C区8号竖穴遺構実測図 (S=1/30)



第75図 C区1号土坑実測図 (S=1/30)

3号土坑（第79図）

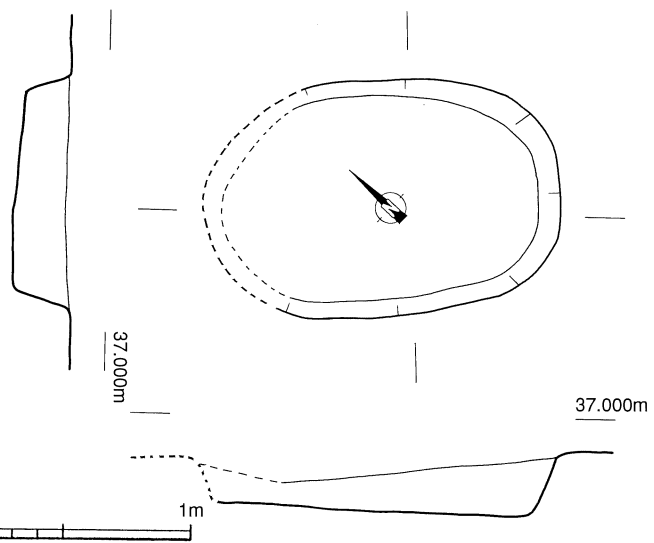
遺構は、2号竪穴住居跡の東側に位置にする。この遺構は東側を掘削されているため平面プランは不明である。東西軸は190cm、深さは確認できる部分で18cmある。遺構内に2号住居の支柱穴と思われるピットを2基検出した。



第76図 C区1号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

3号土坑出土遺物（第78図）

遺物は土器の細片で、図化し得たのは甕形土器の口縁部1点である。胎土には角閃石・長石・石英を僅かに含み、調整は内面が粗いケズリ、外面は口唇部に沈線を施し、直下からハケ目を有している。色調は内面が淡橙色で、外面は茶褐色を呈しており焼成は良好である。遺物の時期は弥生時代前期末から中期初めと考えられる。



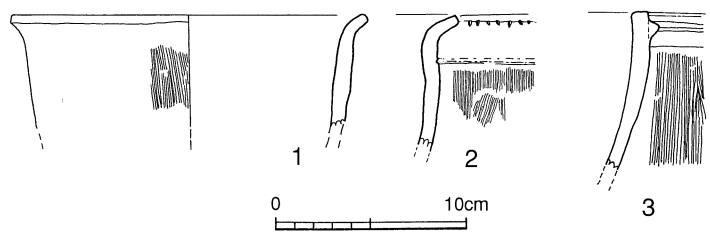
第77図 C区2号土坑実測図 (S=1/30)

第4号土坑（第63図）

遺構は、2号竪穴遺構の西側に位置する。平面プランは円形で、直径80cm、深さ15cmである。

4号土坑出土遺物（第78図）

遺物は土器の細片がほとんどで、図化し得たのは甕形土器の口縁部1点である。胎土には角閃石を少量確認、長石・石英・白色砂粒が多量に含まれている。内面調整は風化が激しく不明。外面は口唇部に突帯を貼り付け、その直下の胴部にかけてハケ目を施している。色調は内面が黄橙色、外面は暗茶褐色で焼成は不良である。遺物の時期は弥生時代前期末から中期初めと考えたい。



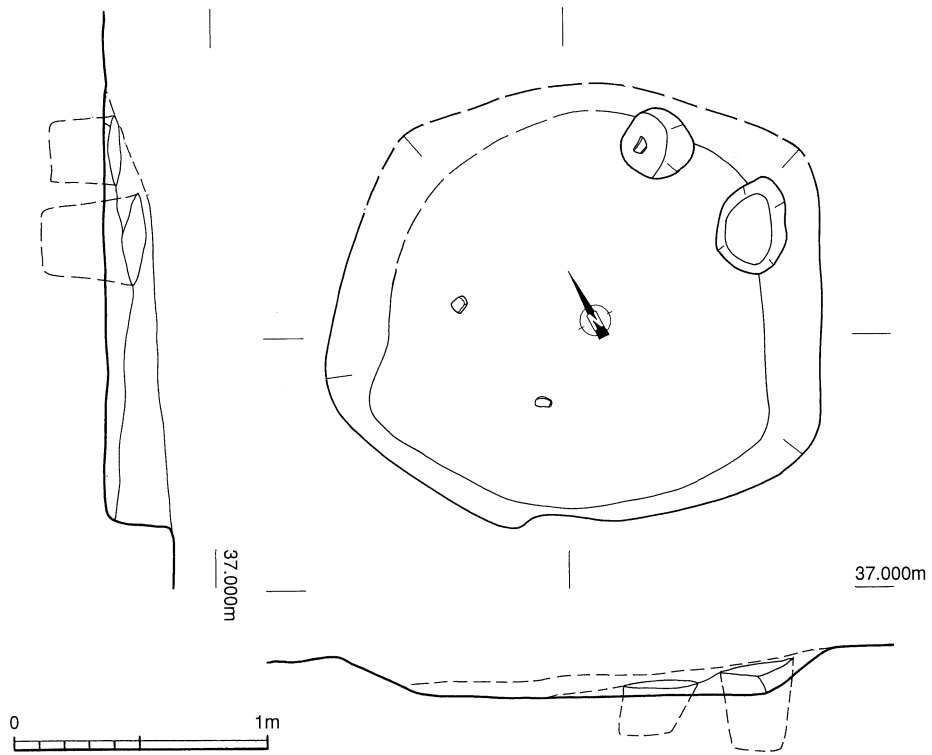
第78図 C区2号・3号・4号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

第5号土坑（第80図）

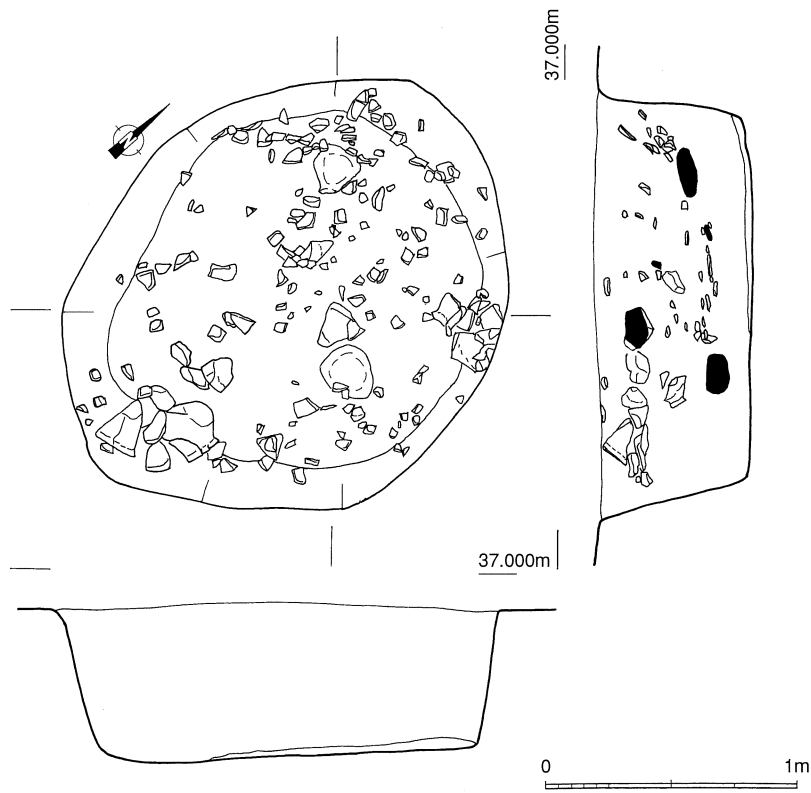
遺構は、調査区北西側に位置し、6号土坑と切り合っている。新旧は5号土坑→6号土坑の関係が確認された。平面プランは円形で、長径180cm、短径160cm、深さ60cmである。

5号土坑出土遺物（第81図）

遺物は多量に出土したが、ほとんど摩滅しており風化が激しく図化し得たものは少ない。1は壺型土器である。筒型の頸部から大きく広がった口縁部は径24cmで胴部は欠損しており、頸部付け



第79图 C区3号土坑实测图 (S=1/30)



第80图 C区5号土坑实测图 (S=1/30)

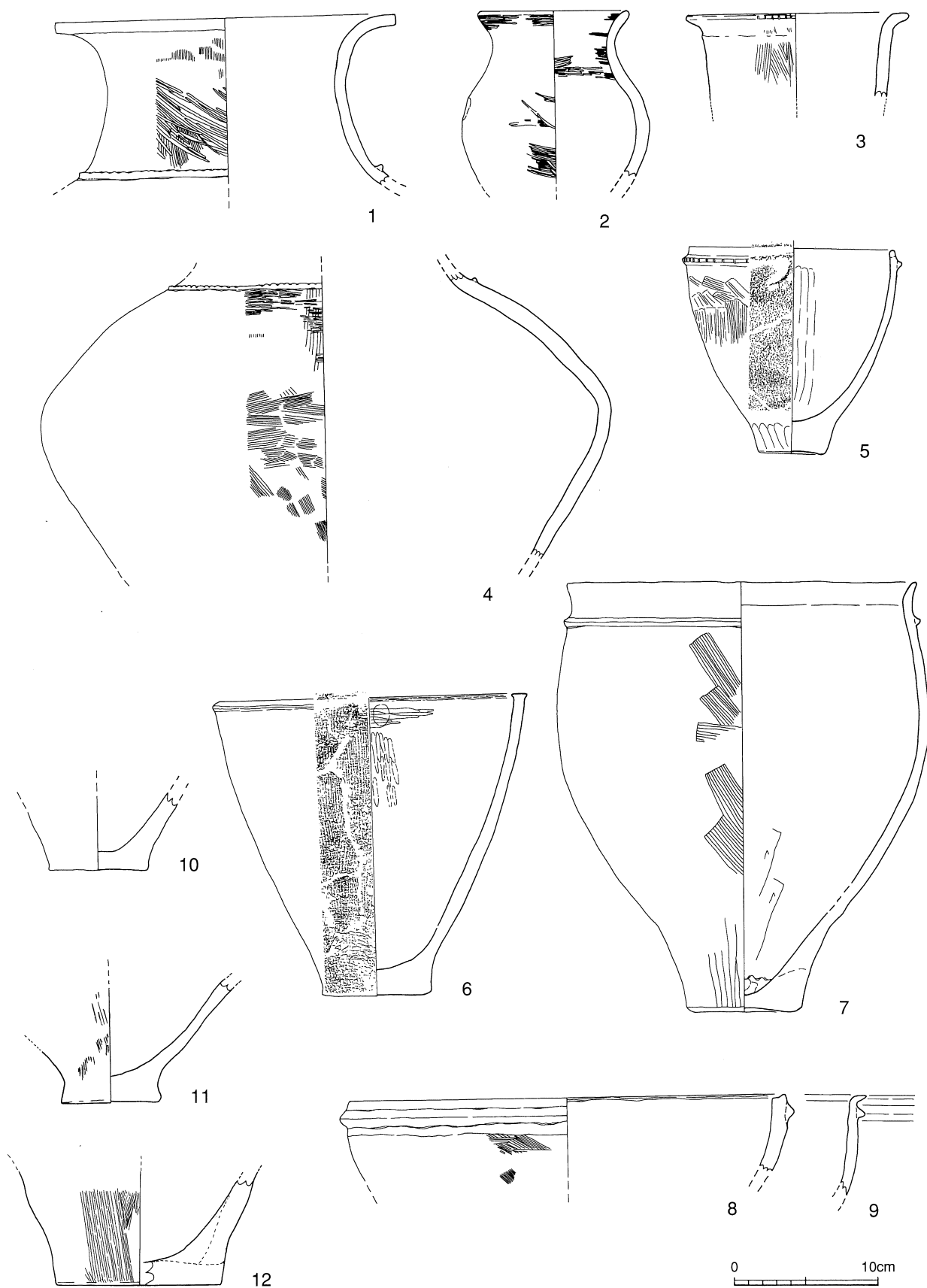
根部分には断面三角形の刻目突帯を巡らしている。胎土には角閃石・長石・白色砂粒を含み、調整は内面にミガキの跡がみられる。外面は口唇部に縦ハケ目の後ナデを、その下は縦ハケ目の後、ミガキを施している。色調は内外面とも赤褐色を呈しており、焼成は良好である。2は小型の壺型土器で口縁部の復元口径11cm、胴部の復元最大径14cmである。底部は欠損している。胎土には角閃石・長石・白色細粒を僅かに含んでいる。短く大きく外反する口縁部に膨らみをもつ胴部が続き、頸部は短い。調整は内面がヘラミガキ、口唇部には不定方向のナデ、外面頸部から胴部にかけてハケ目調整の後、ヘラミガキを施している。色調は内面が淡橙色、外面は暗茶褐色で焼成は良好である。3は甕型土器の口縁部で、胎土には角閃石・長石を多く含んでいる。調整は口唇部が横ナデ、内面胴部にかけては剥離が激しく不明。口唇部は縦ハケの後横ナデ、外面胴部にかけて縦ハケ目が施されている。色調は内外面とも黄褐色で、焼成は良好である。4は中型の壺型土器の胴部で、復元胴部最大径41cmである。頸部には断面三角形の突帯を貼り付けている。胎土には角閃石・長石・石英を多く含み、内面調整は剥離が激しく不明で、外面は縦ハケ目の後、丁寧なミガキを施している。色調は内外面とも赤褐色を呈している。焼成は良好である。これは1と同一個体と考えられる。5は下城式甕型土器でほぼ完形で出土した。口径14.4cm、器高14.4cm、底径5cmである。口縁部刻目突帯には1カ所だけ「ノ」字状の突帯がみられる。胎土には角閃石・石英を含み、調整は内面がヘラミガキ、外面口縁部は横ナデ、胴部はハケ目が施されている。色調は内外面とも橙色で焼成は良好である。6は甕型土器で口径22.4cm、器高21.2cm、底径7.8cmである。胎土には角閃石・斜長石・石英を多量に含んでいる。調整は内面口縁部付近が横方向のヘラミガキ、外面胴部は縦ヘラミガキ、縦方向のハケ目を施し、色調は内外面ともに淡赤褐色である。焼成は良好である。7は甕型土器で、口径24.4cm、器高30cm、底径8cmである。胎土には角閃石・長石・白色砂粒を含み、内面調整は剥離が激しく不明、外面はヘラミガキを施し、色調は内外面とも橙色を呈している。焼成は良好である。8は甕形土器の口縁部で、復元口径31cmである。胎土には角閃石・長石を多く含んでおり、調整は内面がヘラミガキ、口唇部は横ナデ、外面突帯下は不定方向のハケ目を施している。色調は内面が茶褐色、外面は淡褐色を呈している。焼成は良好である。9は甕形土器の口縁部である。胎土には角閃石・長石を含み、色調は内外面とも暗茶褐色で、調整は剥離がひどく不明である。焼成は不良である。10・12は甕形土器の底部である。10の底径は7cmで、残存高5.8cmである。胎土には角閃石・長石を多く含むが、調整は剥離が激しく不明である。色調は暗茶褐色で、焼成は良好である。12は底径11.6cmで、残存高7cmである。調整は内面にミガキがみられ、外面は縦方向ハケ目が施されている。色調は内面が暗茶褐色、外面は黄褐色を呈し、焼成は良好である。11は壺形土器か甕形土器の底部で、底径は7cm、残存高は8cmである。胎土には角閃石・長石を多量に含んでいる。調整は内外面ともハケ目調整の後、ミガキを施している。色調は内外面とも淡褐色で焼成は良好である。これらの遺物の時期は弥生時代前期末から中期初めと考えられる。

6号土坑（第82図）

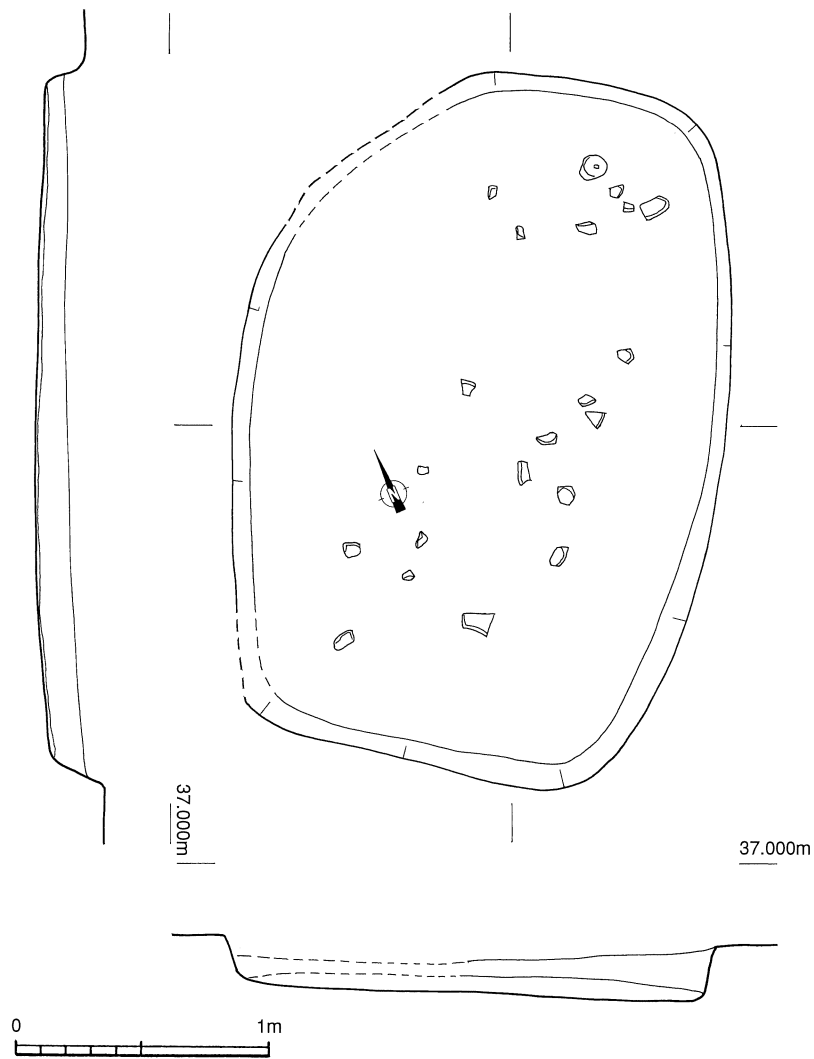
遺構は5号土坑と切り合い関係にあり、精査の結果、5号土坑→6号土坑の新旧関係が明らかになった。平面プランは隅丸方形で長軸280cm、短軸200cm、深さ10cmである。

6号土坑出土遺物（第83図）

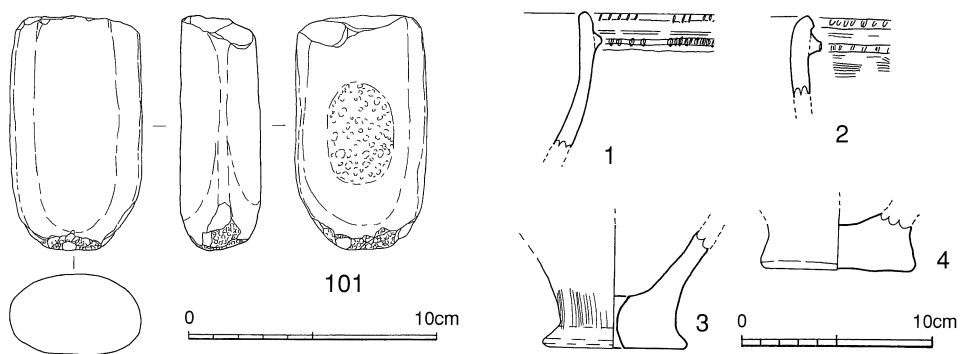
遺物は摩滅が激しく、図化し得たものは数点である。1・2は下城式の甕形土器の口縁部で刻目突帯が貼り付けられている。胎土には角閃石を僅かに確認できるほか、長石・石英をやや多めに含んでいる。2の調整は内面が風化で不明。外面は突帯の上下が横ナデ、胴部にかけては横方向にハケ目が施されている。色調は1・2とも内外面は黄褐色を呈している。焼成は良好である。3・4は甕形土器の底部である。底径はともに8cmで、残存高は3が6cm、4が3cmである。胎土には



第81图 C区5号土坑出土遗物实测图 (S=1/4)

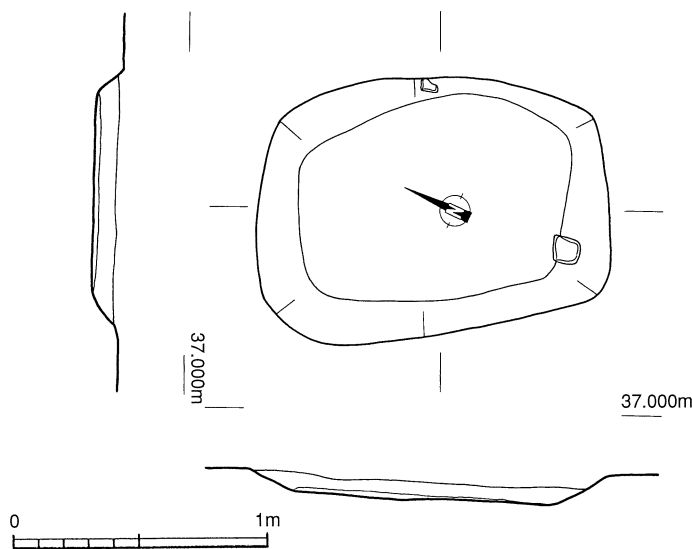


第82図 C区6号土坑実測図 (S=1/30)

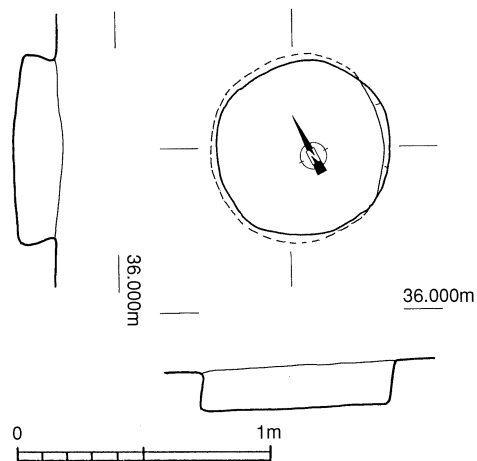


第83図 C区6土坑出土遺物実測図 (石器S=1/3 土器S=1/4)

ともに角閃石・長石を多量に含んでいる。調整はともに内面の剥離が激しく不明であるが、外面はハケ目が施されている。色調は3の内面が淡褐色、外面は赤褐色、4は内外面とも淡褐色を呈し、



第84図 C区7号土坑実測図 (S=1/30)



第85図 C区8号土坑実測図 (S=1/30)

焼成はともに良好である。遺物の時期は弥生時代前期末から中期初めのもと思われる。

石器は安山岩の敲石(101)1点が検出された。この石器は上部が欠損している。下部には敲打時の剥落がみられる。

7号土坑(第84図)

遺構は、1号竪穴住居跡と1号竪穴遺構の間にある。平面プランは長方形で長軸140cm、短軸120cm、深さ10cmである。遺物は土器の細片が数点出土したが、摩滅が激しく凶化し得なかった。

8号土坑(第85図)

遺構は、7号土坑の西側に隣接する。平面プランは円形で断面はやや袋状を呈している。直径は70cm、深さ20cmである。遺物は土器の細片が数点出土したが、時期の特定はできなかった。

9号土坑(第86図)

遺構の位置は、1号竪穴住居跡の西側である。平面プランは不定形で、長軸は170cm、短軸は140cm、深さ10cmである。遺構内にはピット3基と浅めの窪みを確認した。

9号土坑出土遺物(第87図)

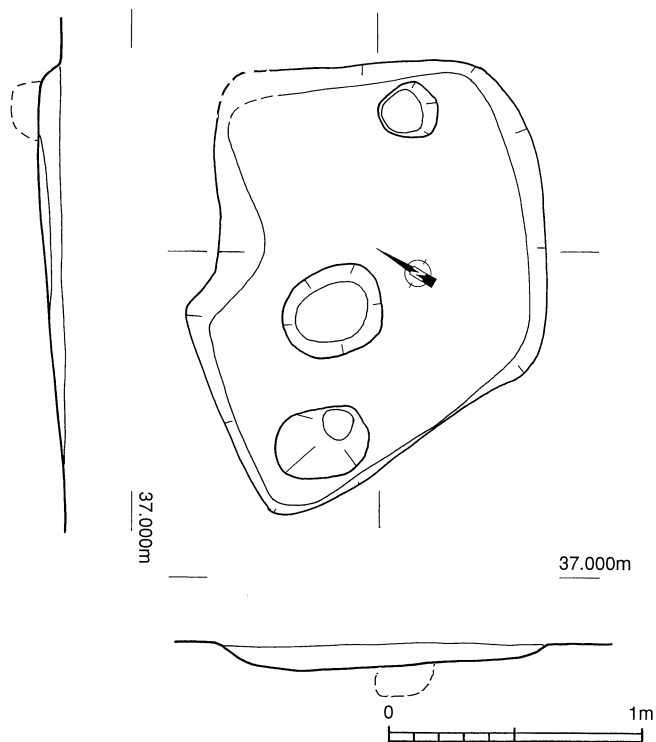
遺物は十数点出土したが、凶化し得たのは下城式の甕形土器の口縁部1点と底部4点である。1の口縁部は貼り付けの刻目突帯がみられ、復元口径23cmである。胎土には角閃石、長石を含み、調整は内面がヘラミガキ、外面が突帯上下に横ナデ、胴部にかけてハケ目が施されている。焼成は良好で色調は内外面とも淡橙色である。2は甕形土器の底部で、底部径8.4cm、残存高8cmである。胎土には1mm程度の長石を僅かに含んでいる。調整は内面がミガキ、外面は縦方向にハケ目が施されている。焼成は良好で、色調は内外面とも淡褐色である。3は甕形土器の底部で底径7cm、残存高5cmで上げ底になっている。胎土には角閃石と長石を含み、調整は剥離が激しく内外面ともに不明である。焼成は良好で、色調は淡黄褐色を呈している。4は甕形土器の底部で、底径6cm、残存高5cmで上げ底になっている。胎土には角閃石と石英及び1mm大の長石を含む。調整は内面がミガキ、外面はハケ目を施している。焼成は良好で色調は淡橙色を呈している。5は甕形土器の底部で、底径7.4cm、残存高3.6cmである。胎土には1mm大の長石を僅かに含んでいる。調整は器面の剥離が激しく不明である。焼成は良好で、色調は内外面とも淡褐色である。1の口縁部から遺物の時期は弥生時代前期末と考えられる。

10号土坑（第88図）

遺構の位置は、調査区の中央部北西側で、平面プランは長方形である。長軸は340cm、短軸は130cm、深さ10cmのやや溝状を呈している。

10号土坑出土遺物（第90図）

遺物の時期を特定できるのは2点である。1・2ともに下城式の甕形土器の口縁部で、1の貼り付け突帯には刻目がなく、断面は三角形を呈している。2の突帯には刻目が施されており、断面は台形である。胎土には角閃石、長石を少量含んでいる。調整は1の内面にはミガキと指圧痕がみられ、外面突帯付近は剥離が激しく不明。胴部にかけてはハケ目が施されている。2の内面は横ナデとハケ目、外面突帯の上下は横ナデ、胴部にかけては剥離が激しく不明である。焼成は良好で色調は黄褐色である。遺物の時期は弥生時代前期末と考えられる。



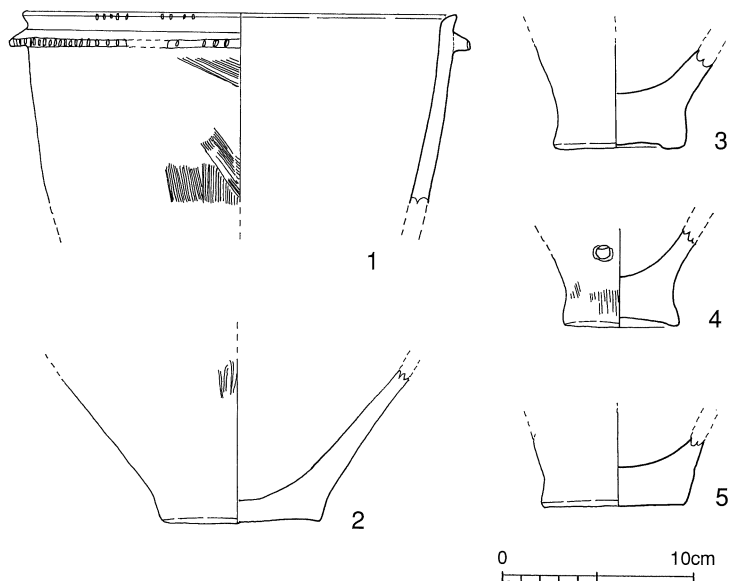
第86図 C区9号土坑実測図 (S=1/30)

11号土坑（第88図）

遺構は10号土坑の西側に隣接している。平面プランは、遺構が調査区外にかかっているため断定できない。長軸230cm、短軸170cm、深さ16cmである。出土遺物は石鏃1点である。

11号土坑出土遺物（第91図）

姫島産黒曜石製の石鏃（101）が1点出土した。長さ2.6cm、幅2.0cm、厚さ0.8cm、重さ2.9gである。



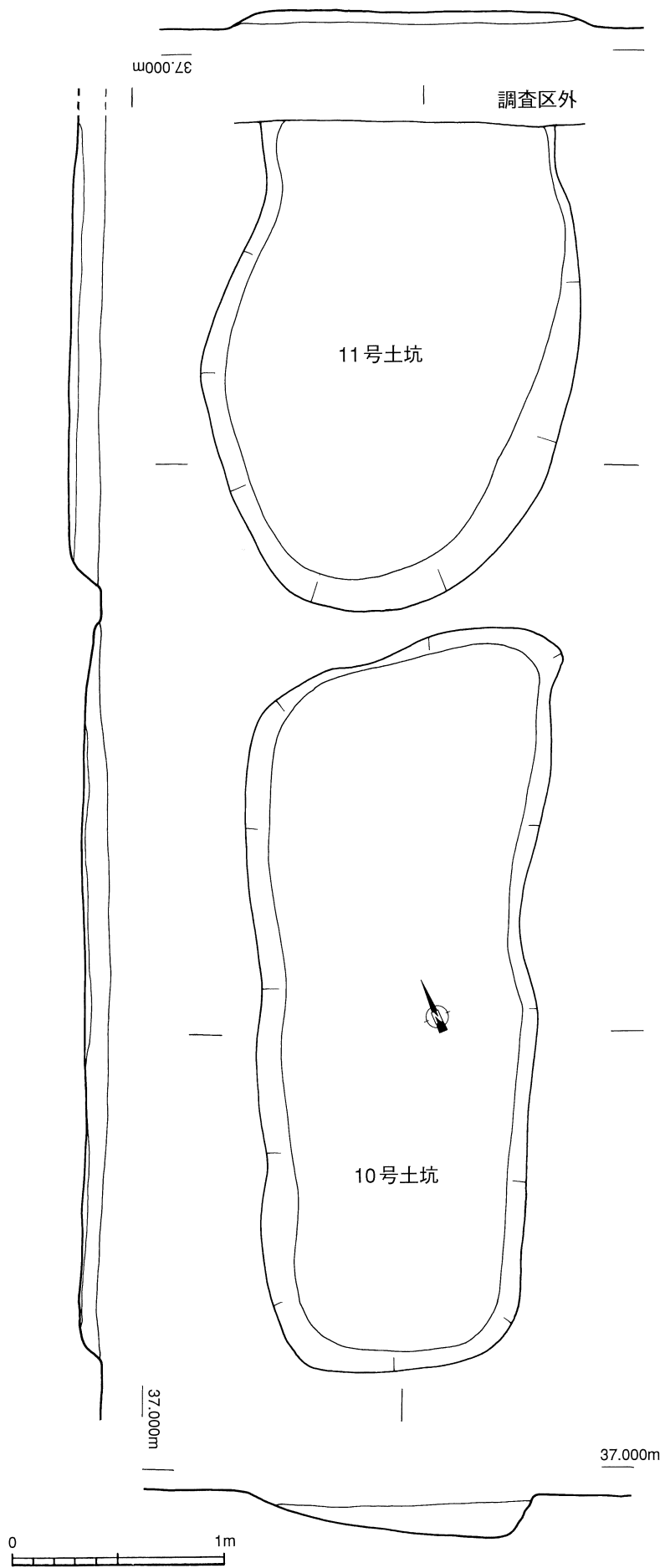
第87図 C区9号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

12号土坑（第89図）

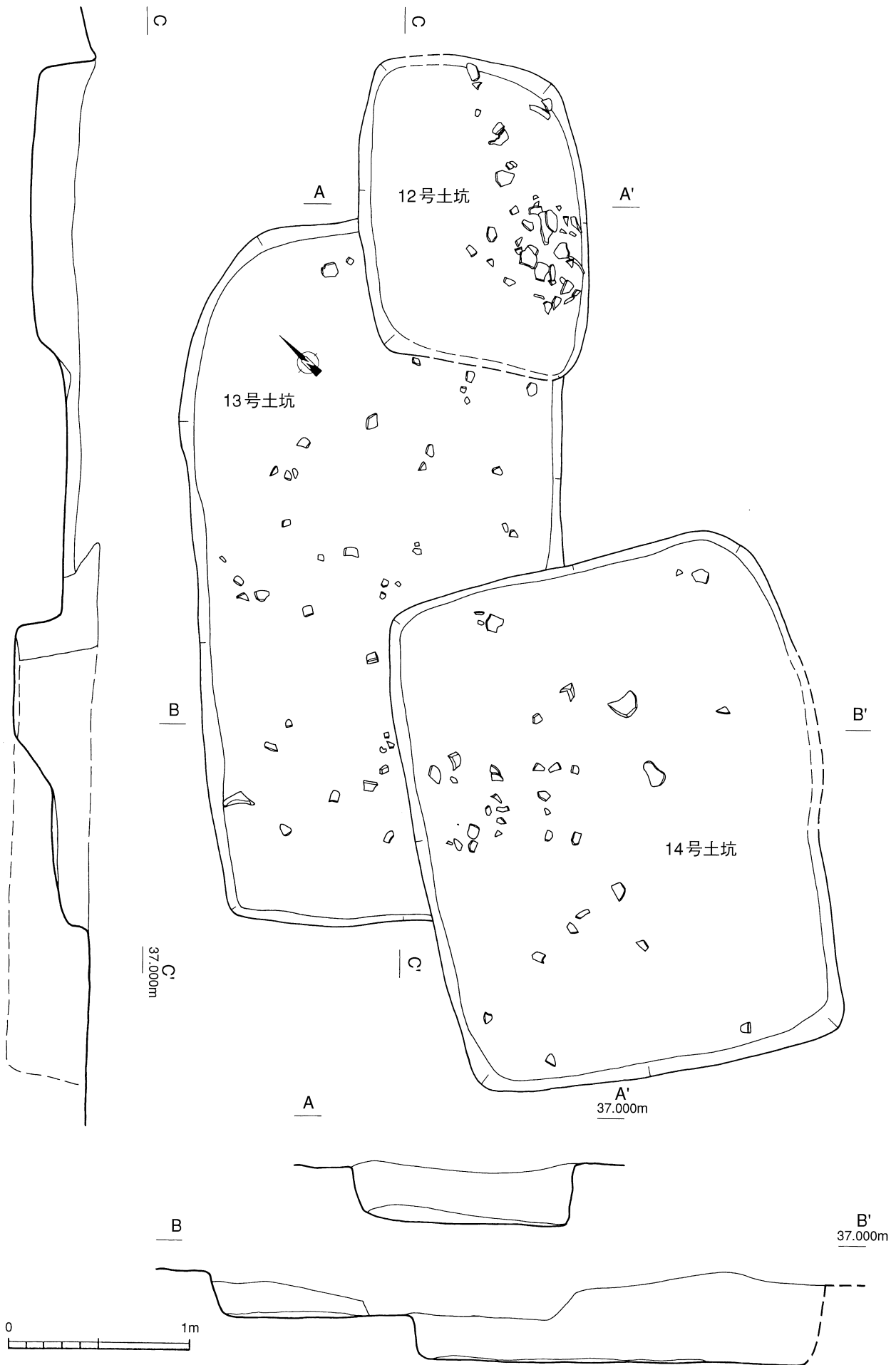
土坑は、調査区中央部北西側に位置する。13号土坑と切り合い関係にあり13号土坑→12号土坑と新旧関係にある。平面プランは方形で、長軸170cm、短軸130cm、深さ23cmである。

12号土坑出土遺物（第92図）

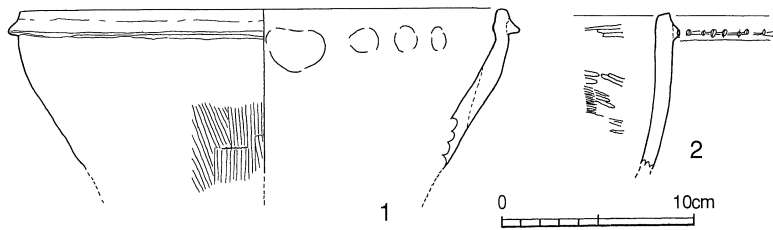
遺物は2・3の下城式甕形土器口縁部、7の土器の底部が出土した。2の口縁部はやや外反し口唇部に刻目が施されている。外面に2本の沈線を巡らしている。胎土には角閃石・長石を含んでいる。調整は内面がミガキ、外面は口唇部から沈線までが横ナデ、沈線から胴部にかけてハケ目を施している。色調は灰褐色を呈し、焼成は良好である。3は貼り付けの刻目突帯が巡らされており、胎土には角閃石・長石を含み、外面口縁部から突帯までは横ナデ、突帯から胴部にかけてはハケ



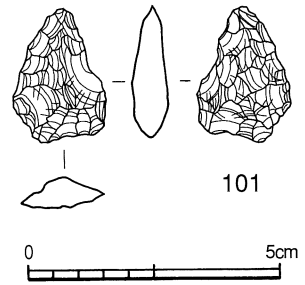
第88図 C区10号・11号土坑実測図 (S=1/30)



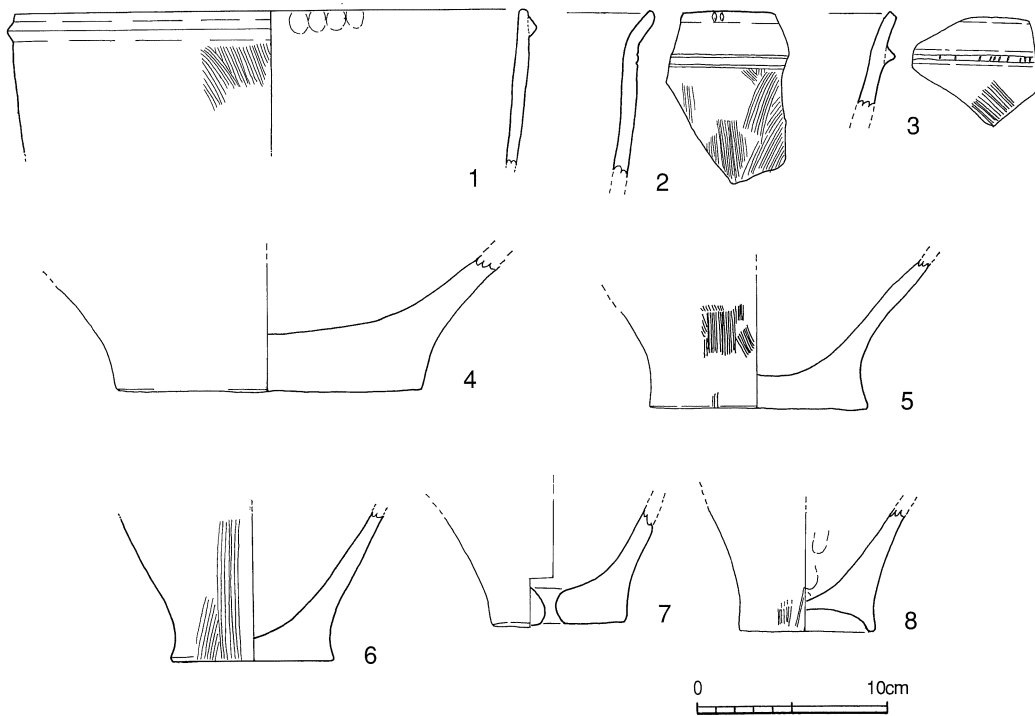
第89图 C区12号~14号土坑实测图 (S=1/30)



第90図 C区10号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)



第91図 C区11号土坑出土遺物
実測図 (S=2/3)



第92図 C区12・13号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

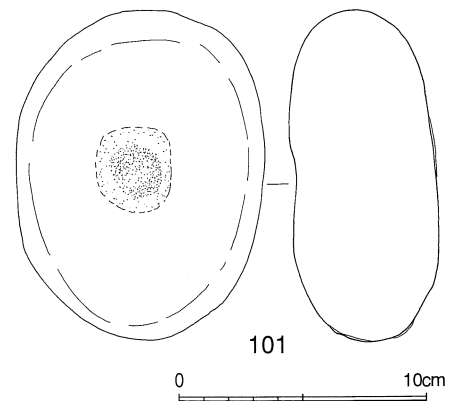
目調整が施されている。色調は赤褐色を呈し、焼成は良好である。7は底径7cm、残存高6cmで、中央に直径1cmの穿孔がみられる。胎土には角閃石と2mm大の長石が含まれ、色調は内外面ともに黄橙色を呈している。内面は剥離が激しくて調整は不明、外面は一部ハケ目が施されている。焼成は良好である。遺物は、口縁部の特徴から弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

13号土坑 (第89図)

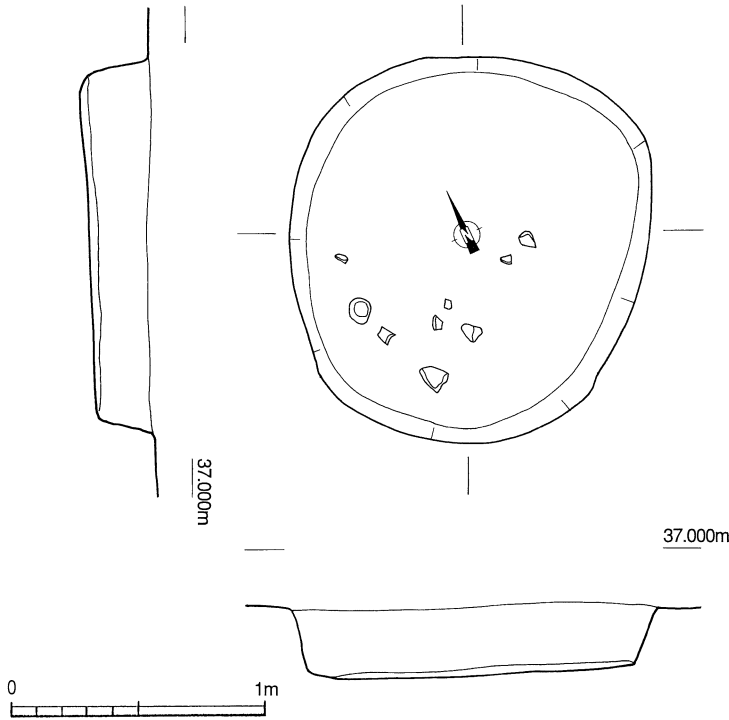
土坑は西側を12号土坑、南側を14号土坑に切られている。平面プランは長方形で、長軸390cm、短軸200cm、深さ21cmである。

13号土坑出土遺物 (第92図・93図)

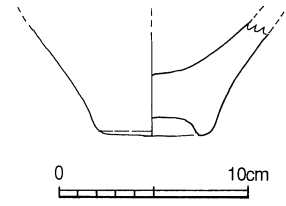
1は甕形土器の口縁部で貼り付け突帯を巡らしている。胎土には、白色砂粒と2mm大の長石を多量に含み、調整は内面



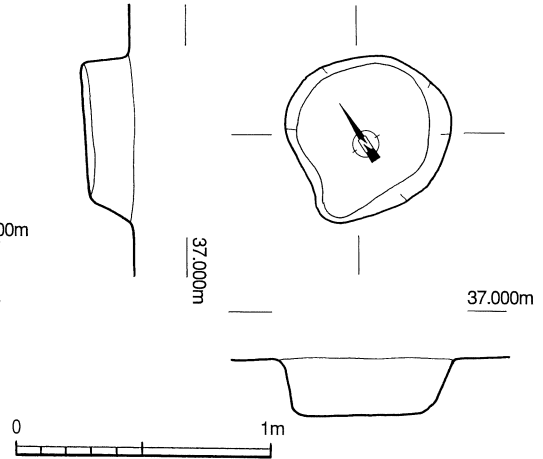
第93図 C区13号土坑出土遺物実測図
(S=1/3)



第94図 C区15号土坑実測図 (S=1/30)



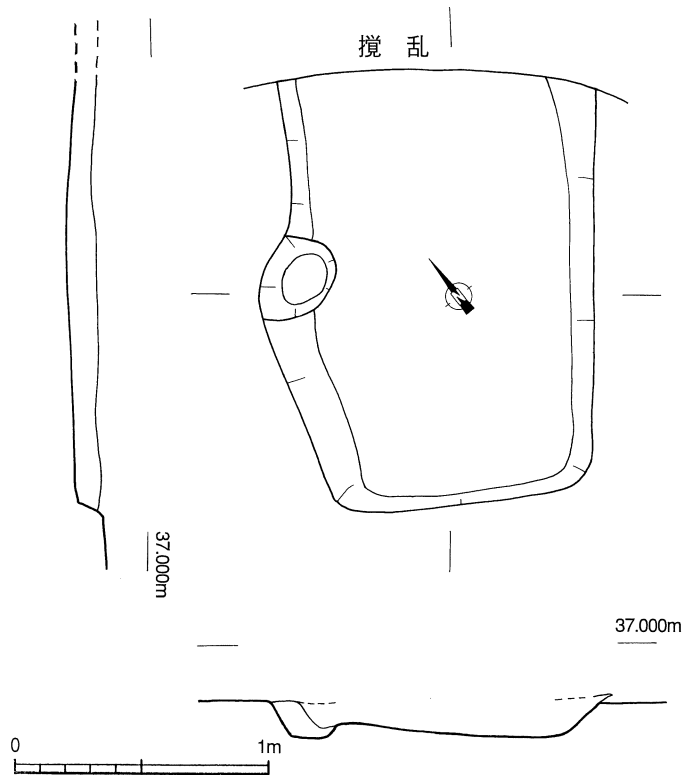
第95図 C区15号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)



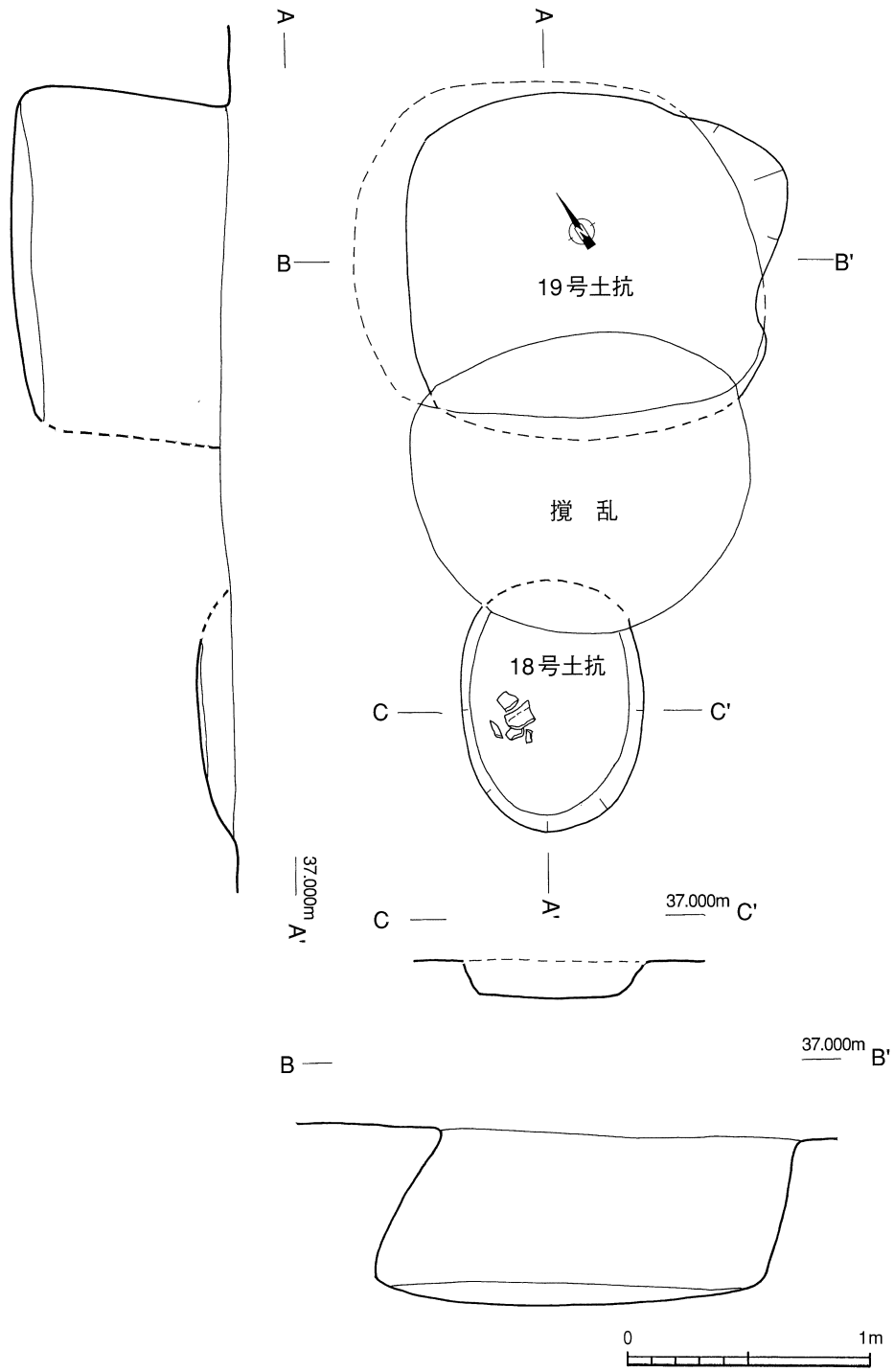
第96図 C区16号土坑実測図 (S=1/30)

がミガキ、外面は口唇部に横ナデ、胴部にかけてハケ目を施している。内面には指圧痕がみられる。色調は内外面とも橙色を呈し、焼成は良好である。4・5は底部内面にミガキ痕がみられることから、壺形土器の底部と考えられる。4の底径は16cm、残存高7cmで、胎土には角閃石と砂粒を多量に含んでいる。調整は内面がミガキ、外面は風化が著しく不明である。色調は黄褐色で焼成は良好である。5の底径は10.6cm、残存高8cmで、胎土には角閃石と長石を含み、調整は内面にミガキがみられ外面は不明である。色調は内面が黄褐色、外面は橙色を呈し、焼成は良好である。6と8は甕形土器の底部である。6は底径8cm、残存高9cmで、胎土には角閃石と白色砂粒を含み、調整は内面は剥離が激しく不明である。外面はハケ目を施している。焼成は良好で、色調は内外面とも黄橙色を呈している。

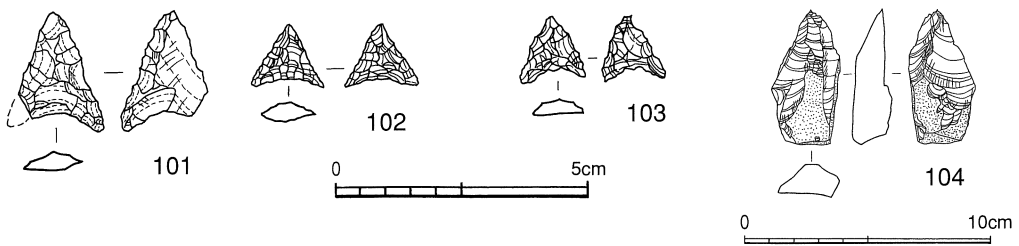
8の底径は6.8cm、残存高5cmで、上げ底になっている。胎土には2mm大の長石と白石細粒を少量含み、調整は内面共にハケ目とミガキが施されている。焼成は良好で、色調は内面が黄褐色、外面は赤褐色である。遺物の時期は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。



第97図 C区17号土坑実測図 (S=1/30)



第98图 C区18号·19号土坑实测图 (S=1/30)



第99图 C区18号土坑出土遗物实测图 (S=2/3、1/3)

13号土坑からは、このほかに凹石（101）1点が出土した。安山岩製で楕円形をしており、片面だけが使用されている。長さ13.3cm、幅10cmで、厚さ5.6cm、重さ1152.5gである。

14号土坑（第89図）

土坑は調査区中央部からやや北西側に位置する。北側で13号土坑を切っている。新旧は13号土坑→14号土坑である。平面プランは長方形で、東側が一部攪乱を受けている。規模は長軸280cm、短軸220cm、深さ40cmである。遺物は土器の細片が数十点出土したが時期を特定できるものはない。

15号土坑（第94図）

土坑は調査区の中央部、6号竪穴遺構の北西側に位置する。平面プランは円形で、直径160cm、深さ20cmである。

15号土坑出土遺物（第95図）

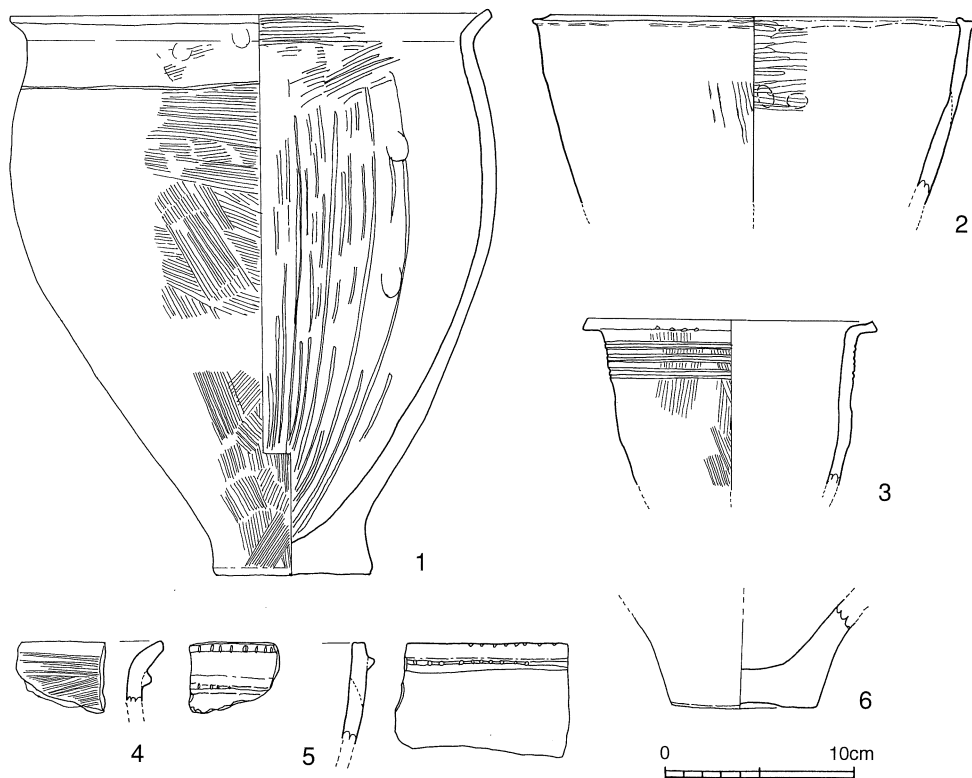
遺物は土器の細片数点が出土したが、実測し得たのは底部の1点である。底径は6.2cm、残存高6cmで、上げ底になっている。胎土には角閃石・1mm大の斜長石・3mm大の石英・1mm大の砂粒を多量に含んでいる。調整は風化で剥離が激しく内外面とも不明である。焼成は不良で、色調は赤褐色を呈している。遺物の時期は不明である。

16号土坑（第96図）

遺構は、中央部やや北側、3号竪穴遺構の東側に位置する。平面プランは円形で、直径70cm、深さ22cmである。数点の土器細片を出土したが時期の特定はできない。

17号土坑（第97図）

この土坑は調査区のほぼ中央に位置する。西側が攪乱を受けているが検出面から平面プランは長方形と考えられる。長軸は攪乱で不明、短軸は120cm、深さ12cmで遺構内にピット1基を確認した。数点の土器片が出土したが時期の特定はできない。



第100図 C区19号土坑出土遺物実測図（S=1/4）

18号土坑（第98図）

土坑は、調査区の中央やや東南に位置する。一部攪乱を受けているが、平面プランは楕円形で、長軸100cm、短軸70cm、深さ18cmである。

18号土坑出土遺物（第99図）

遺物は土器の細片が出土したが、図化し得たものはない。石器は角閃安山岩製の石鏃1点（101=長さ2cm、幅1.4cm、厚さ3mm、重さ3g）、姫島産黒曜石製石鏃2点（102=幅1.1cm、長さ1cm、厚さ3mm、重さ1.1g 103=幅1.1cm、長さ1.1cm、厚さ2mm、重さ1.1g）、佐賀県腰岳産黒曜石の石核1点（104=長さ5.5cm、幅2.6cm、厚さ1.2cm、重さ20.6g）が出土した。

19号土坑（第98図）

土坑は、調査区の中央やや東南隅に位置する。一部攪乱を受けているが平面プランは方形で、北側断面底部が袋状を呈している。長軸150cm、短軸140cm、深さ90cmである。

19号土坑出土遺物（第100図）

1は壺型土器の完形品で、口縁部は「く」の字に外反している。口径は26.4cm、器高は29.7cm、底径は8.4cmである。胎土には角閃石・2mm大の長石・1mm大の石英を含み、調整は内面口縁部が横ミガキ、胴部にかけて縦方向のミガキ、外面は口縁部が横ナデ、胴部にかけてハケ目が施されている。焼成は良好で、色調は内面が黄褐色、外面は赤褐色を呈している。2は口縁部から胴部にかけての甕形土器片である。口縁部を「T」字形に突出させている。復元口径は22cmである。胎土には角閃石と2mm大の長石を含み、調整は内面が丁寧なミガキ、外面は口縁部にミガキ、胴部には縦方向のナデが施されている。焼成は良好で、色調は内面が淡橙色、外面は赤褐色を呈している。3は瀬戸内式甕形土器片である。口縁部は「L」字形に外反しており、口径は19cmである。胎土には角閃石と長石を僅かに含んでいる。調整は外面の口縁部直下に6条の沈線が巡らされており、内面はミガキ、外面は縦方向のハケ目が施されている。焼成は良好で、色調は内外面とも黒茶褐色を呈している。4は下城式甕形土器の口縁部で、緩やかに外反している。胎土には角閃石・2mm大の長石・1mm大の石英を含み、内面は横ハケ、外面は貼り付け突帯がみられ、横ナデの調整が施されている。焼成は良好で、色調は内外面とも黄褐色である。5は下城式甕形土器の口縁部で、外面に貼り付け突帯がみられる。胎土には角閃石と2mm大の長石を多量に含み、調整は外面口縁部が横ナデ、胴部にかけては剥離が激しく不明である。内面も剥離が激しく不明である。焼成は良好で、色調は内外面とも黄褐色を呈している。6は甕形土器の底部で、底径は8cm、残存高は7.2cmである。胎土には角閃石・2mm大の長石・1mm大の石英を含んでいる。調整は風化のため剥離が激しく内外面とも不明である。焼成は良好で、色調は黄褐色を呈している。1～3から遺物の時期は弥生時代前期末と思われる。

20号土坑（第101図）

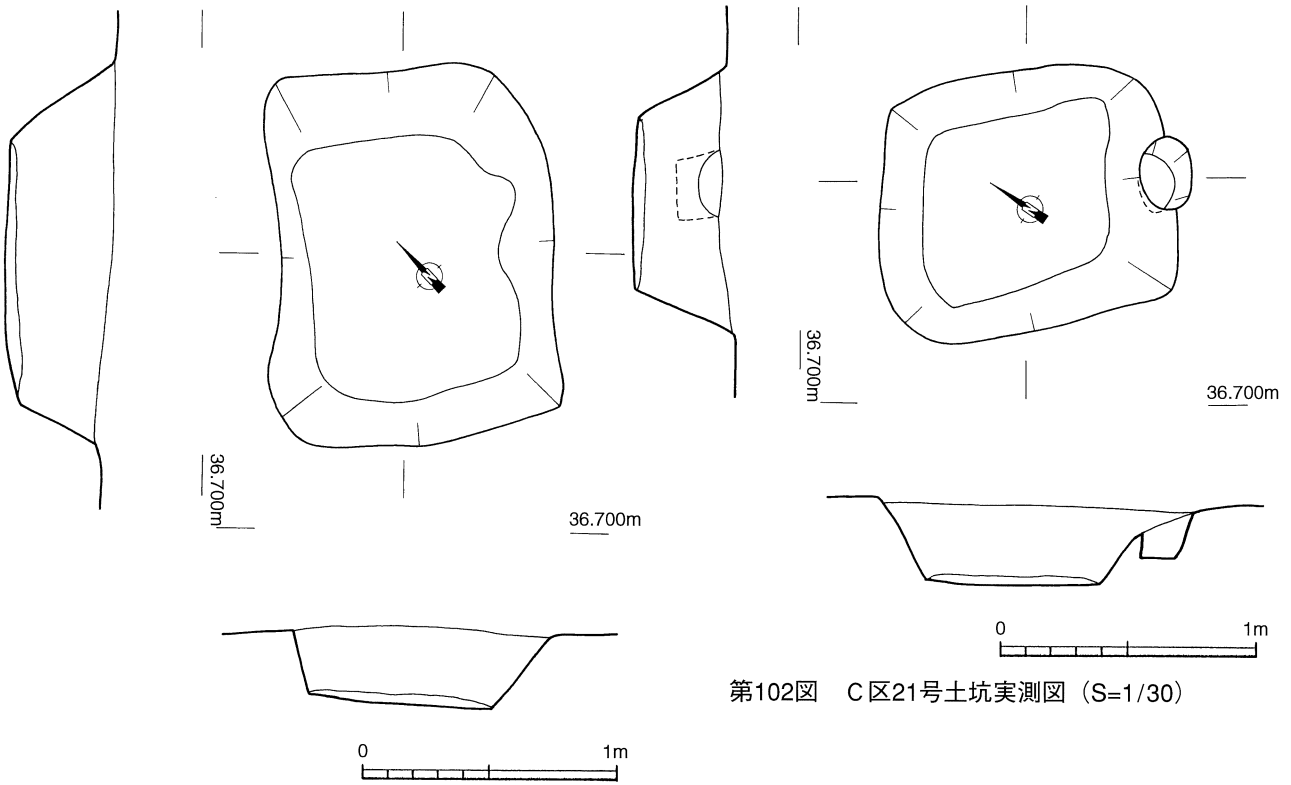
土坑は調査区中央やや南隅に位置する。平面プランは方形を呈し、長軸220cm、短軸150cm、深さ50cmである。遺構内からは時期を確定する遺物は出土していない。

21号土坑（第102図）

土坑は調査区中央やや南側、20号土坑の東隣に位置する。平面プランは20号土坑同様方形で、長軸120cm、短軸100cm、深さ25cmである。遺構内の東側にピット1基を確認した。遺構内から時期を特定できる遺物は出土していない。

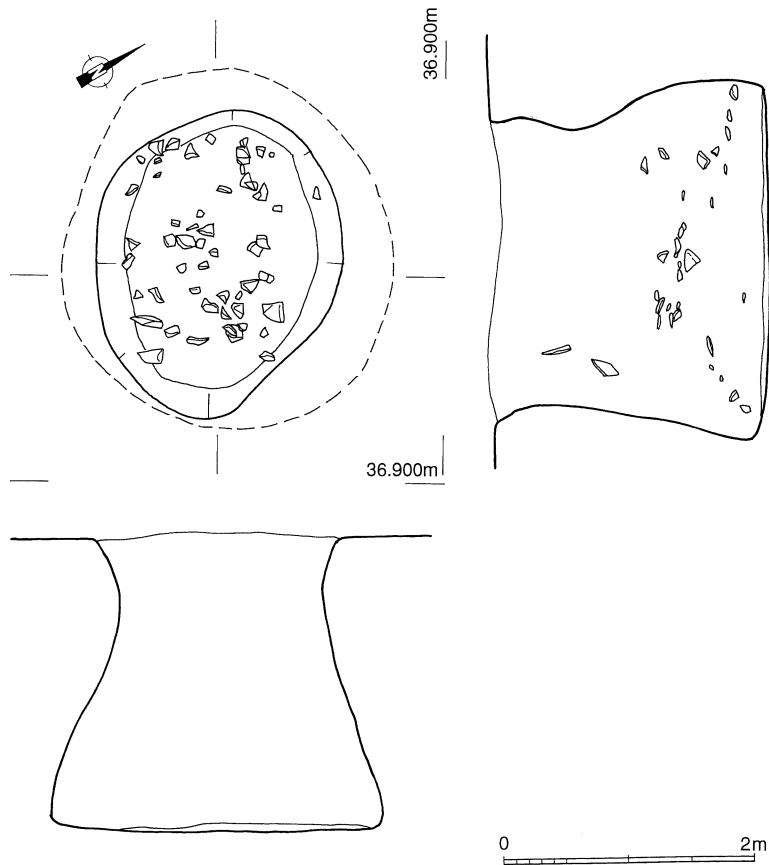
22号土坑（第103図）

土坑は調査区中央から東側に位置し、8号竪穴遺構と切り合い関係にある。新旧は8号竪穴遺構→22号土坑である。規模は長軸200cm、短軸160cm、深さ210cmである。平面プランは楕円形で、断面は袋状となっており、貯蔵施設と思われる。



第101图 C区20号土坑实测图 (S=1/30)

第102图 C区21号土坑实测图 (S=1/30)



第103图 C区22号土坑实测图 (S=1/60)

22号土坑出土遺物（第104図）

遺物は甕形土器がほとんどである。1・3・4・6は下城式甕形土器で、口縁部と貼り付け突帯に刻目が施されている。1の口縁部は内彎気味に直立し、復元口径は40cmである。内面の調整は風化が激しく不明である。外面は口縁部に横ナデ、胴部にかけて縦方向のハケ目が残されている。胎土には石英を多く含み、焼成は良好、内面は暗褐色、外面は赤褐色の色調を呈している。3の口縁部はやや外反気味に立ち上がり、復元口径は26.8cmである。胎土には1mm～2mm大の石英と角閃石を含んでいる。調整は内面がミガキ、外面は口縁部と突帯部周辺に横ナデ、胴部にかけてはハケ目がみられる。焼成は良好で、色調は内面が明茶褐色、外面は暗茶褐色である。4は口縁部をやや肥厚させている。復元口径は23cmである。胎土には角閃石・石英・白色細粒を含み、外面突帯付近は横ナデ、胴部にかけてはハケ目調整がみられる。内面は剥離が激しく不明である。焼成は良好で、色調は内外ともに面淡褐色を呈している。6は口縁部が僅かに外側に広がりを見せ、復元口径は21cmである。胎土には角閃石・斜長石・砂粒を含み、調整は外面口縁が横ミガキ、胴部にかけては縦方向にミガキ、外面は突帯付近に横ナデ、胴部にかけてはハケ目が施されている。焼成は良好、内外面とも色調は赤褐色である。

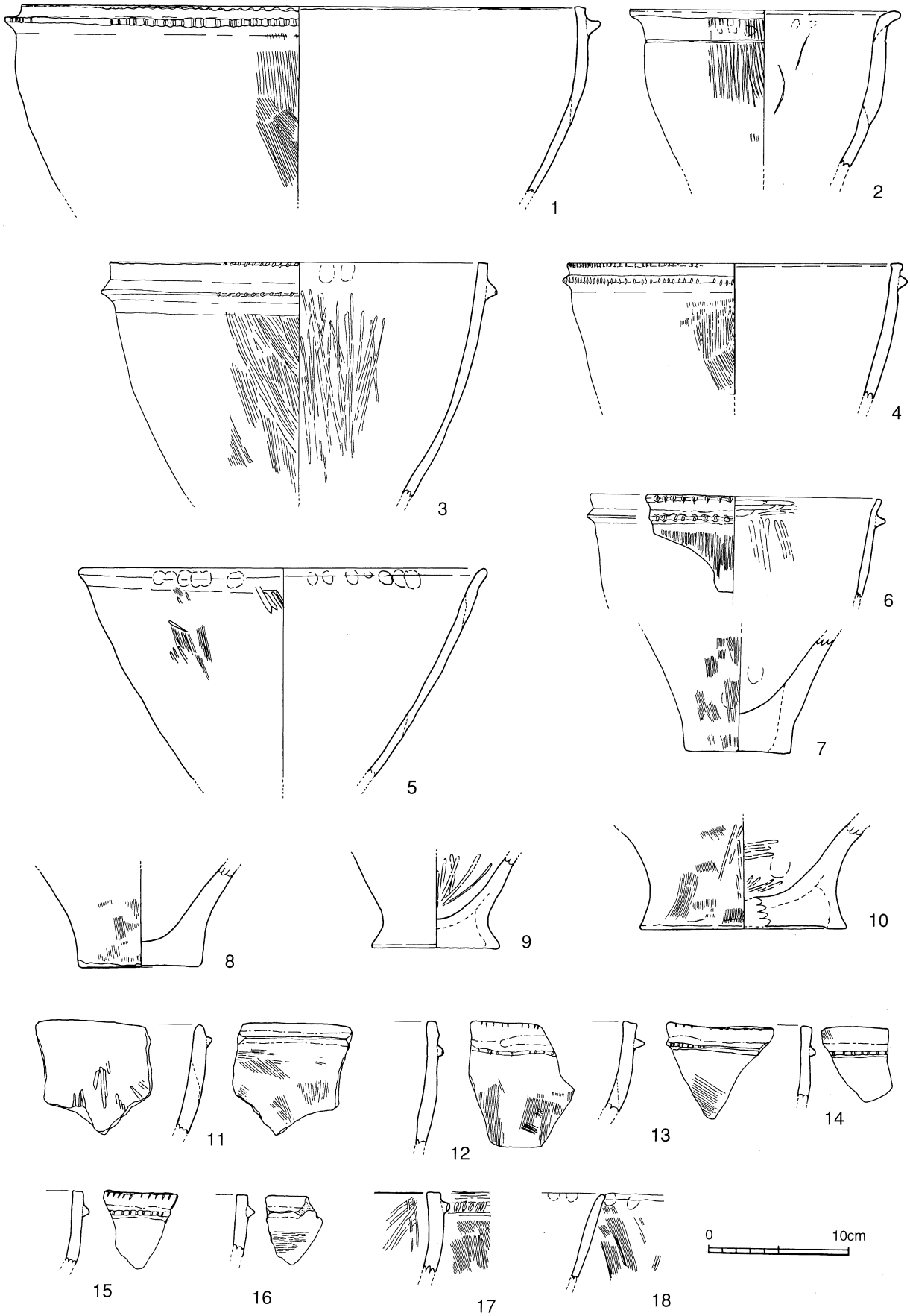
2・5は甕形土器の口縁部である。2は口縁が短く外反し、胴部の上部を肥厚させている。復元口径は18cmである。胎土には長石を多量に含み、2mm大の白色細粒を僅かに含んでいる。内面はミガキ、外面にはハケ目の調整が行われている。焼成は良好で色調は淡黄褐色を呈している。5は胴部から口縁部にかけて大きく外傾している。復元口径は29.6cmである。胎土には角閃石と長石を含み、内外面に横ナデ・ミガキ・指圧痕がみられる。焼成は良好で内面は黄褐色、外面は暗茶褐色を呈している。外面に黒ずんでいる箇所がある。7～9は甕の底部、10は壺の底部である。7・8の胎土には角閃石・斜長石・石英を含んでいる。7の底径は7.8cm、残存高は8cm、8の底径は8.8cm、残存高6.8cmである。それぞれ内面はナデ、外面はハケ目がみられる。焼成は良好で、内外面ともに赤褐色を呈している。9の底径は8.8cm、残存高は6.4cmで、胎土には長石・石英・砂粒を含んでいる。内面にはミガキが施されており、外面は風化による剥落で調整は不明である。焼成は良好で、色調は赤褐色である。10の底径は14.5cm、残存高7.2cmで、胎土は長石と石英を多量に含んでいる。調整は内面がミガキ、外面にはハケ目が施されている。焼成は良好で、色調は黄褐色である。11～17は下城式の甕形土器の口縁部で風化が激しいが、11以外には刻目の貼り付け突帯がみられる。胎土には角閃石と長石を含み、内面はナデ、外面はハケ目がみられる。色調は11・12・14・17が赤褐色、13・15・16は淡黄褐色で、焼成は不良である。18は甕の口縁部で、5の甕形土器片と胎土等ほぼ同様である。これらの遺物の時期は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。

23号土坑（第105図）

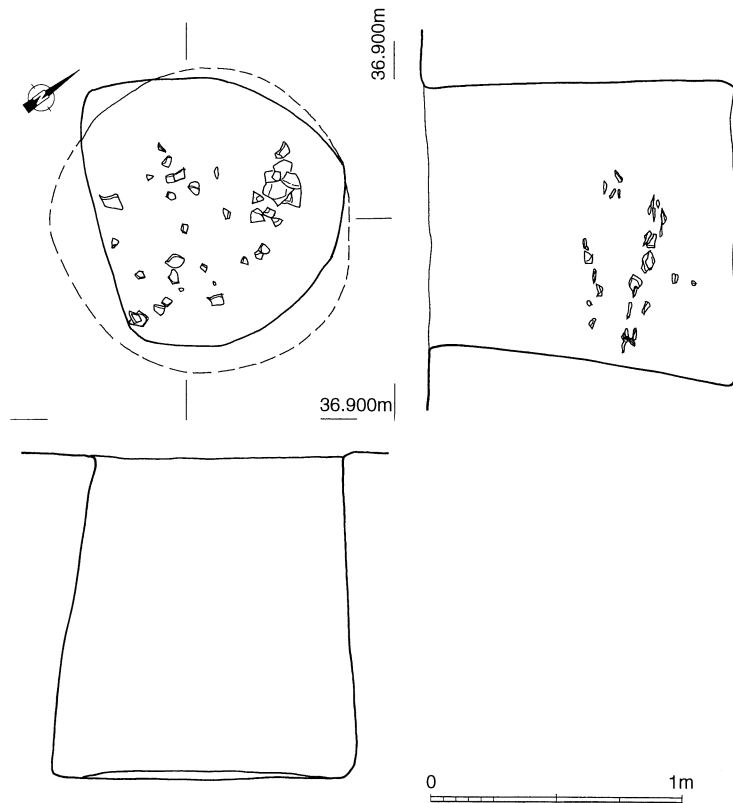
土坑は調査区の中央東側にある。平面プランは楕円形で断面袋状となっている。長軸210cm、短軸200cm、深さ240cmで、大型の貯蔵施設と考えられる。

23号土坑出土遺物（第106図）

1は口縁部直下に刻目の貼り付け突帯を巡らしている下城式甕形土器である。口縁部の仕上げは横ナデ、口縁端に平坦面をつくっている。胎土には長石と角閃石を少量含み、僅かに白色細粒が混じっている。内面は横ナデとヘラミガキ、外面にはハケ目がみられる。焼成は良好で、内面は橙色、外面は黄褐色を呈している。2は蓋型土器の完形品である。口径は26.8cm、高さ14cmである。胎土には角閃石と砂粒を含む。内面にはヘラミガキ、外面には横ナデ、胴部はハケ目、口縁部は横ナデが施されている。外面は赤褐色を呈し、内側に黒色部分がある。焼成は良好である。3は瀬戸内系壺形土器の頸部で、頸部から胴部にかけて1条の突帯を巡らしている。内面はミガキ、外面には

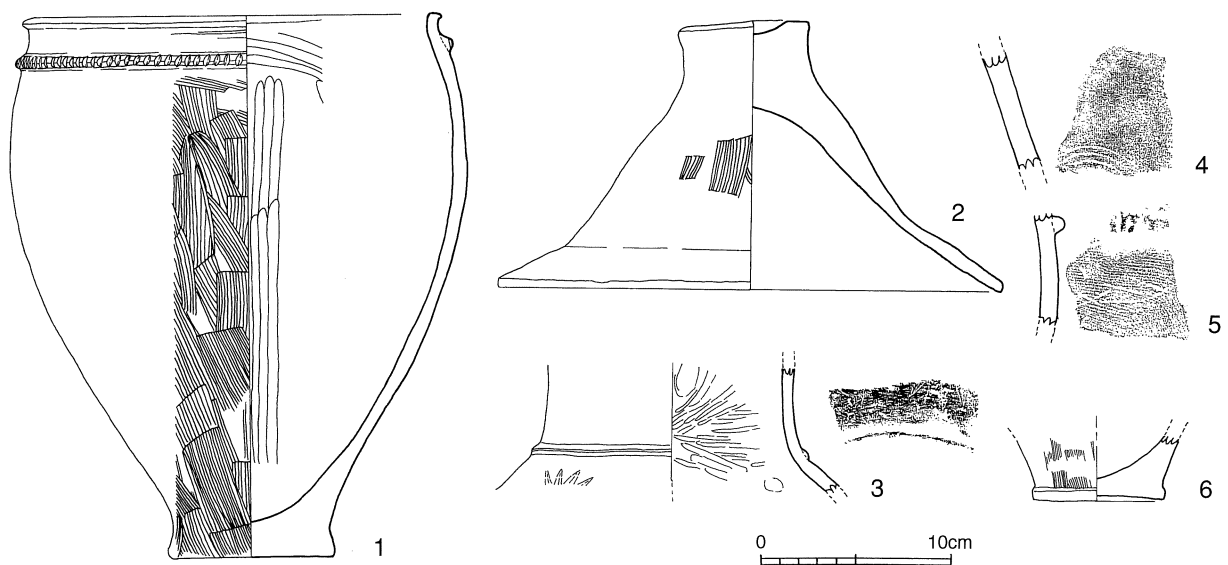


第104图 C区22号土坑出土遗物实测图 (S=1/4)



第105図 C区23号土坑実測図 (S=1/30)

横ナデ、突帯直下から胴部にかけて貝殻腹縁による指突文が施されている。焼成は良好で黄褐色を呈している。4・5は土器の胴部片で、胎土には長石・砂粒を含んでいる。調整はハケ目がみられ、焼成は良好で、色調は黄褐色である。6は甕の底部である。底径は7cm、残存高は3cmで、胎土には角閃石・斜長石・石英・砂粒を僅かながら含んでいる。内外面にはナデ調整がみられ、色調は黄褐色を呈し、焼成は良好である。1～3の土器片から遺物の時期は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。



第106図 C区23号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

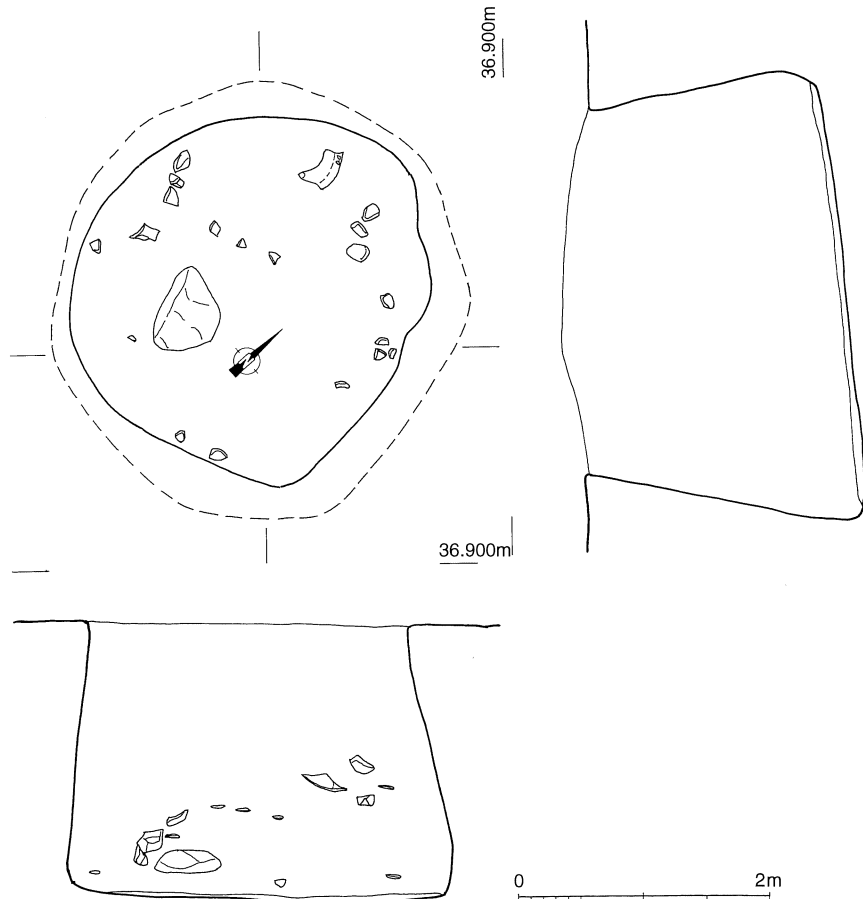
24号土坑（第107図）

土坑は調査区の東側隅に位置し、25号土坑と切り合い関係にある。新旧は25号土坑→24号土坑である。平面プランは楕円形で底部は袋状である。長軸284cm、短軸260cm、深さ220cmで、大型の貯蔵施設と考えられる。

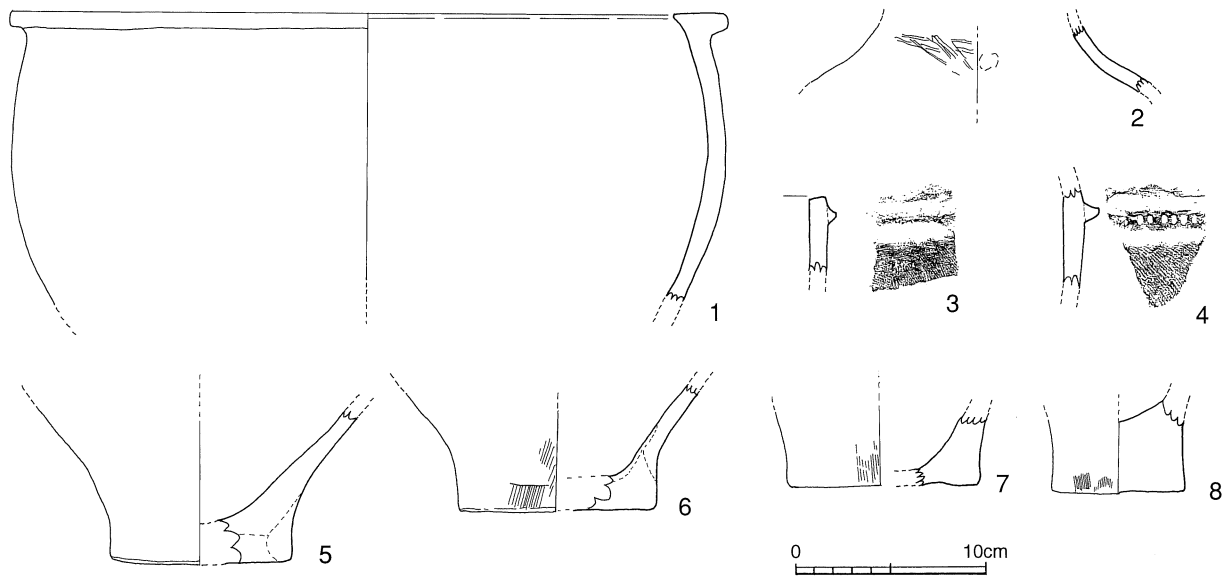
24号土坑出土遺物（第108図・第109図）

1は甕の口縁部から胴部である。胎土には石英と長石が多量に確認できるほか、角閃石を僅かに含んでいる。調整は口縁部が横ナデ、胴部は風化で剥落が激しく内外面とも調整不明である。焼成は良好で、色調は茶褐色を呈している。2は壺の頸部である。胎土には角閃石・長石・石英を含み、調整は不明である。焼成は良好で、黄褐色を呈している。3・4は刻目突帯を貼り付けた下城式の甕形土器口縁部である。胎土には角閃石・斜長石・砂粒を含み、口縁部周辺は僅かに横ナデ、胴部にかけてハケ目を残している。焼成は良好で、色調は赤褐色を呈している。5～8は甕形土器の底部である。5は復元底径9.6cm、残存高8cmである。6は復元底径10.4cm、残存高6.4cmである。7は復元底径10cm、残存高2.8cm、8は底径6.8cm、残存高4.4cmである。7はやや上げ底、8は厚く成形されている。胎土にはいずれも角閃石・斜長石・石英・砂粒を含み、調整は内面にナデ、外面にはハケ目がみられる。焼成は良好で、色調は5・6が赤褐色、7・8が黄褐色である。遺物の時期は1と8から弥生時代前期末から中期初頭のものと思われる。

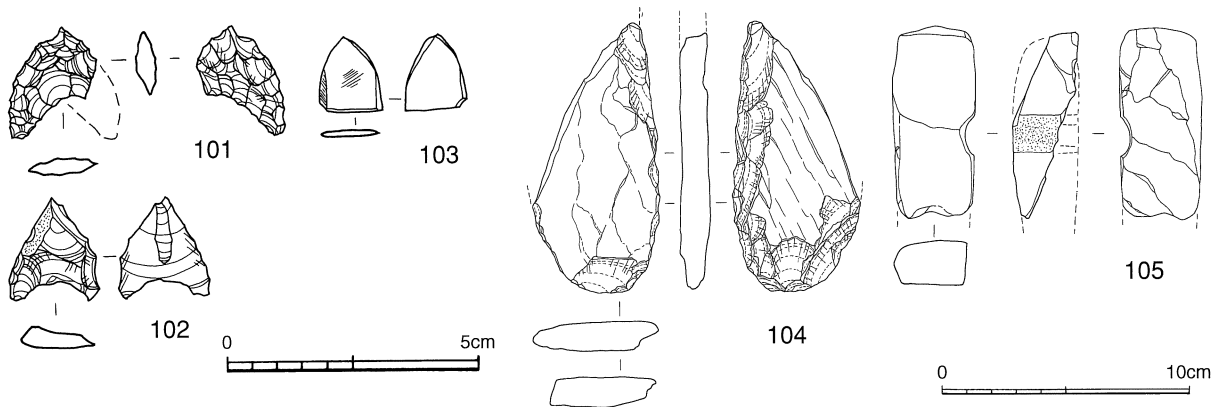
石器は石鏃3点、扁平打製石斧片1点、抉入片刃石斧片1点である。101は姫島産黒曜石製で、長さ2.2cm、幅1.5cm、厚さ4mm、重さ1.3gである。102は姫島産黒曜石製で、長さ1.6cm、幅1.7cm、厚さ0.4cm、重さ1.3gである。103は粘板岩製で、長さ1.4cm、幅1.2cm、厚さ0.1cm、重さ1.0gである。104は凝灰岩製で、長さ10.2cm、幅5cm、厚さ1.2cm、重さ85.3gである。105は頁岩質砂岩で、長さ7.5cm、幅3.3cm、厚さ1.9cm、重さ75.8gである。刃部が欠損している。



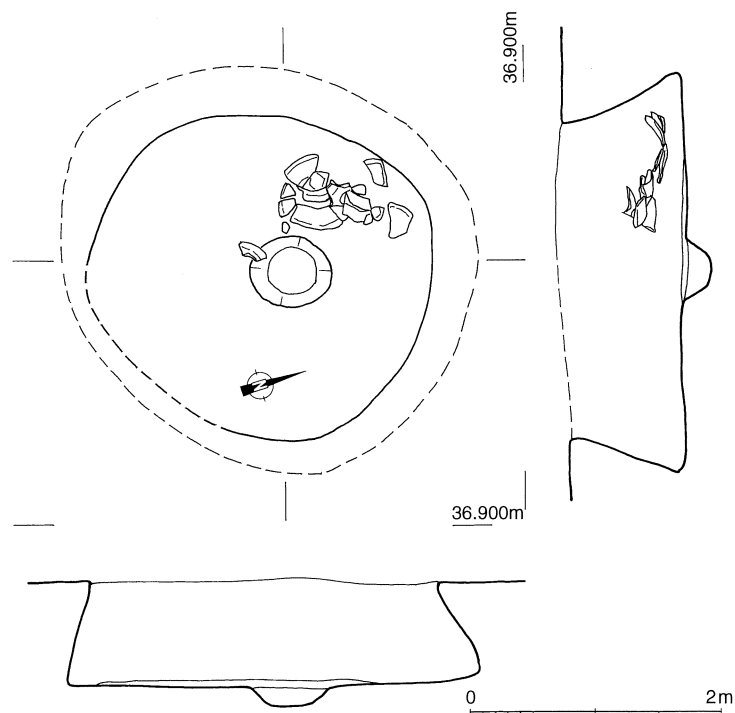
第107図 C区24号土坑実測図（S=1/60）



第108图 C区24号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)



第109图 C区24号土坑出土遺物実測図 (石斧 S=1/3 石鏃 S=2/3)



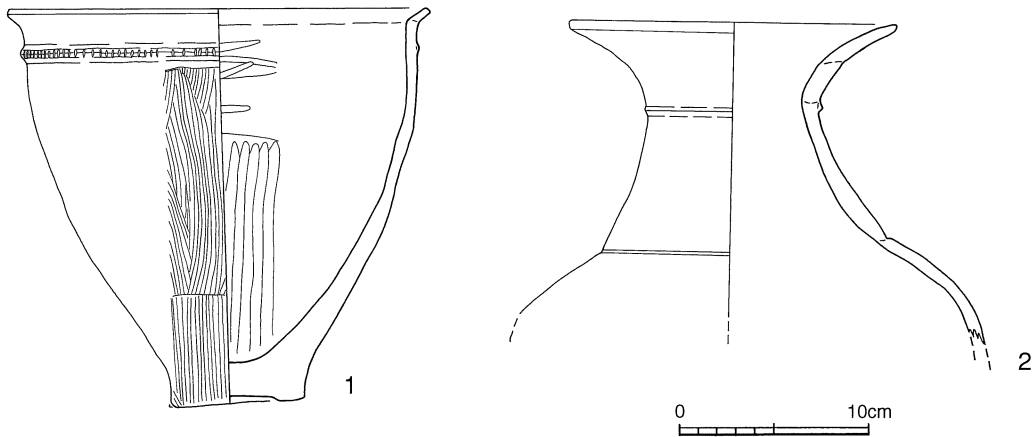
第110图 C区25号土坑実測図 (S=1/60)

25号土坑（第110図）

土坑は調査区東側隅、24号土坑と切り合いの関係にある。平面プランは楕円形で、長軸270cm短軸240cm、深さ98cmである。断面は袋状で、中央に直径60cm、深さ20cmの柱穴がある。23・24号土坑に比較すると時期はやや古く、壁面が赤褐色状に焼けており、単なる貯蔵施設とは考えにくい。

25号土坑出土遺物（第111図）

遺物は土器細片が多く、図化可能な遺物は2点である。1は下城式甕形土器で、口縁部直下に横ナデ後、刻目を施した貼り付け突帯を巡らしている。口縁部は外反しており、断面には粘土積上痕を残している。外面調整は口縁部が横ナデ、突帯直下からハケ目を明瞭に残している。底部は不定方向ナデが確認できる。内面調整は口縁部が横ナデ、口縁部直下からは横方向のミガキと上下方向のミガキ、底部は調整不明である。焼成は良好で、色調は外面がにぶい黄橙色、内面は明黄褐色である。口径は22cm、器高は20cmである。2は口縁部から胴部にかけての壺型土器片である。頸部は摩滅が激しいが1条の貼り付け突帯が巡らされている。胎土には長石を含み、外面の調整は不明だが、内面にはヘラミガキが残されている。焼成は良好で、内面が橙色、外面は黄橙色である。遺物の時期は弥生時代前期末から中期初頭と思われる。



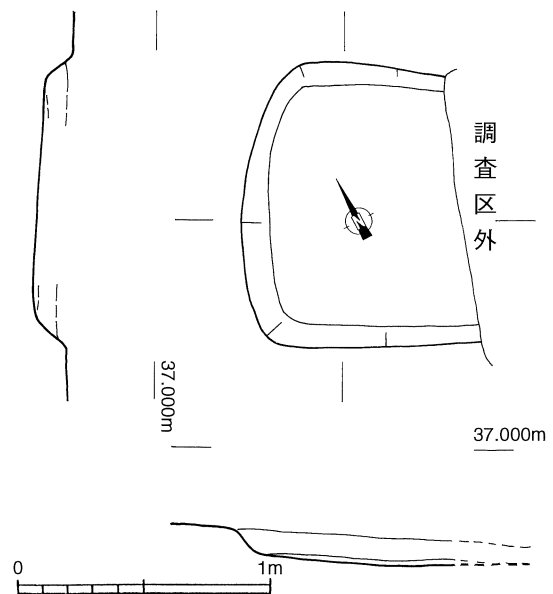
第111図 C区25号土坑出土遺物実測図（S=1/4）

26号土坑（第112図）

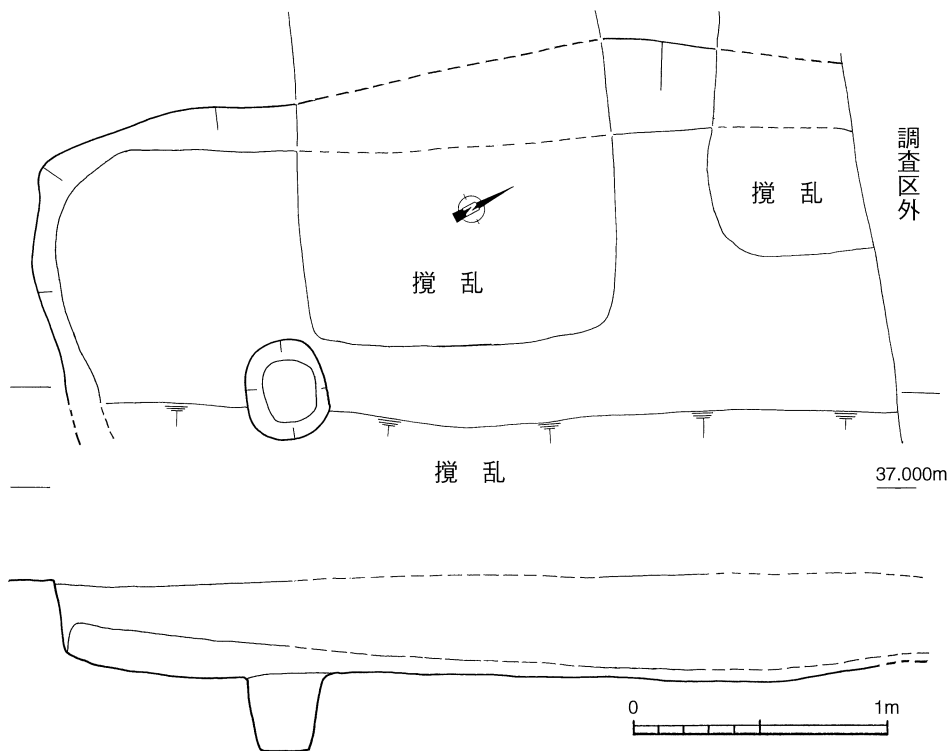
土坑は調査区の東側に位置するもので、南半分は削平されている。平面プランは方形と推定され、確認できる規模は南北軸110cm、東西軸は93cm、深さ10cmである。遺構内からは時期を特定できる遺物は出土していない。

27号土坑（第113図）

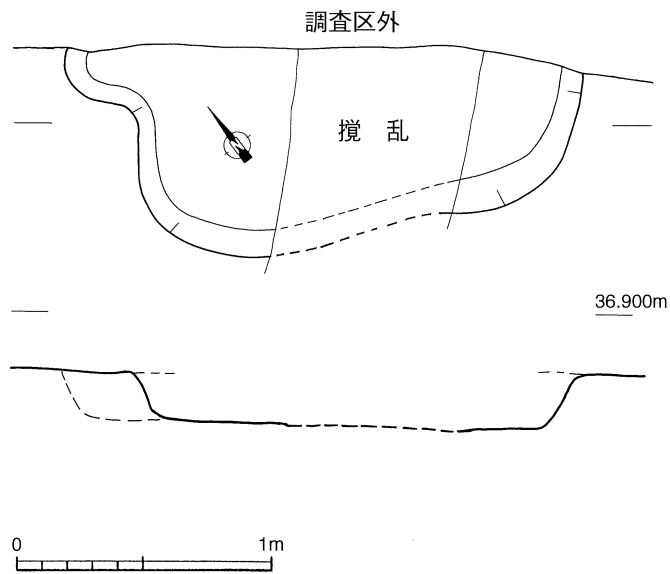
土坑は調査区の東側隅、24号土坑の東隣りに位置するが、部分的に掘削、攪乱を深く受けていた。遺構北東側は調査区外に広がるものと推定される。平面プランは方形と推定され、確認できる規模は南北軸333cm以上、東西軸135cm以上、深さ42cmである。土坑中からはピットを1基確認した。時期を特定できる土器等の遺物は出土していない。



第112図 C区26号土坑実測図（S=1/30）



第113図 C区27号土坑実測図 (S=1/30)



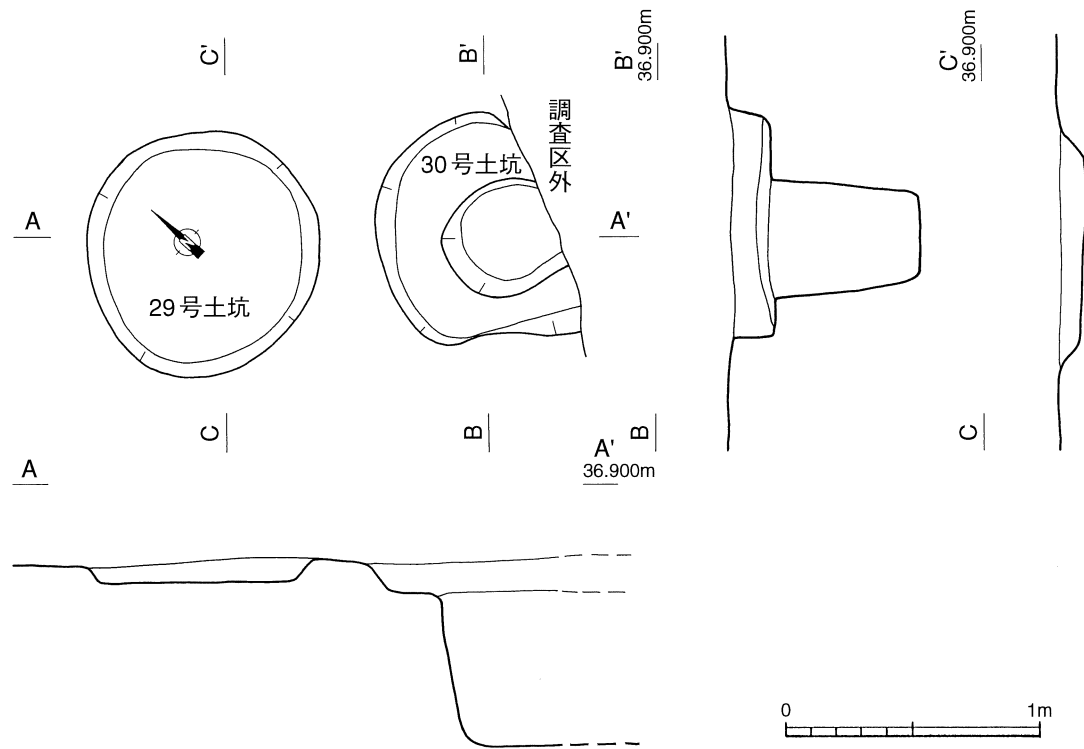
第114図 C区28号土坑実測図 (S=1/30)

28号土坑 (第114図)

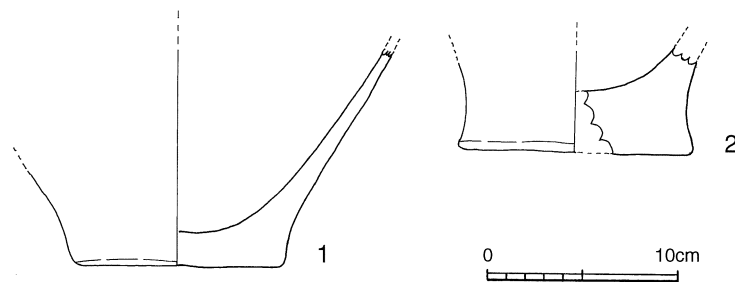
土坑は調査区の東隅にあり、遺構北側は調査区外に広がるものと推定される。平面プランは不定形で、確認できる規模は東西軸208cm、南北軸80cm以上、深さ18cmである。遺構内から遺物は出土していない。

29号土坑 (第115図)

遺構は調査区の東隅にある。平面プランは円形で規模は直径98cm、深さ8cmである。



第115図 C区29号・30号土坑実測図 (S=1/30)



第116図 C区29号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

29号土坑出土遺物 (第116図)

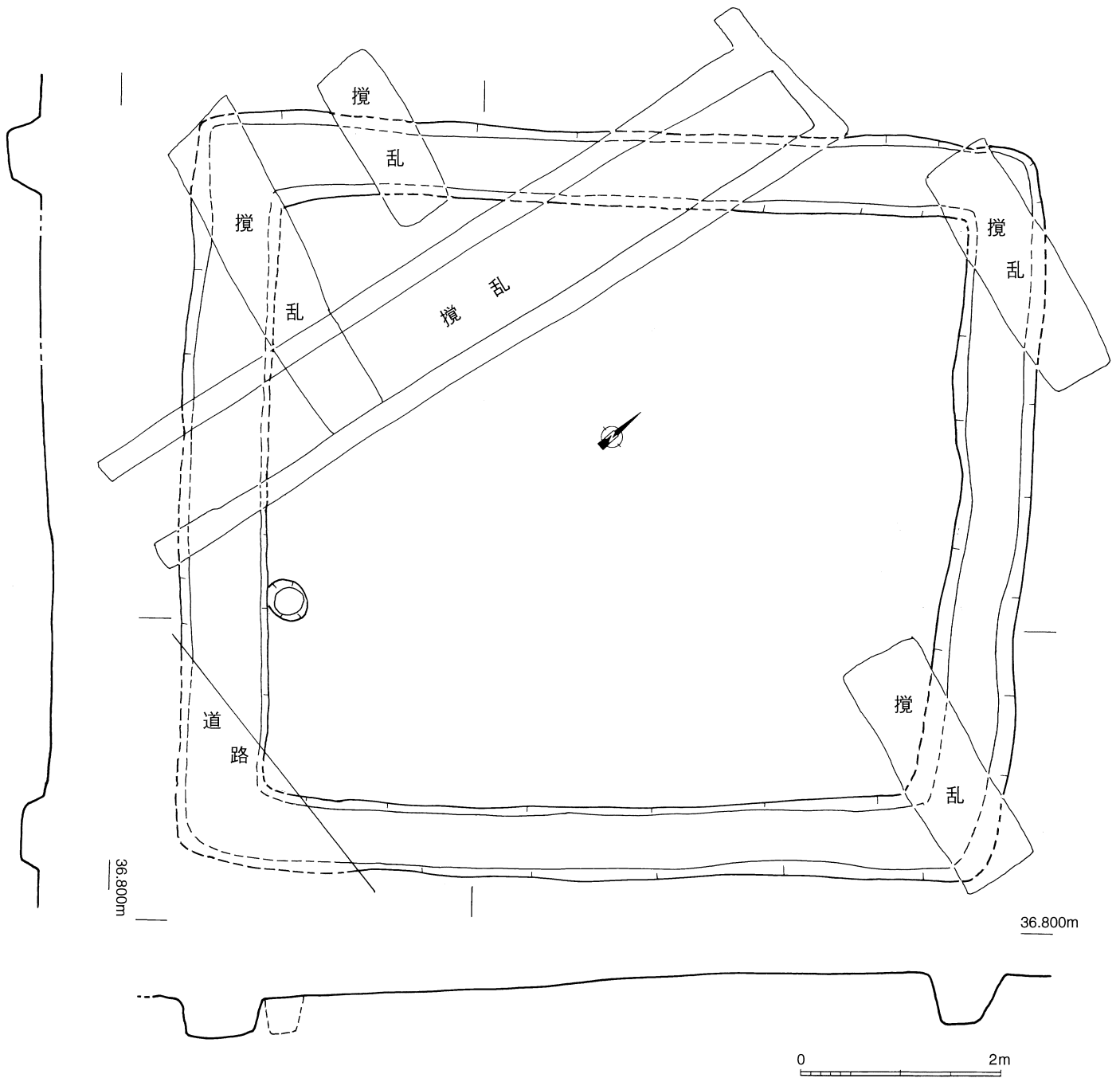
遺物は甕形土器の底部2点である。1の胎土には角閃石・長石・砂粒が含まれる。外面調整はハケ目後、ミガキを僅かに確認できる。内面調整は劣化のため不明である。焼成は良好で色調は内面が橙色と明黄褐色、外面が橙色と灰黄褐色である。底径は11.2cmである。2の胎土には角閃石・長石が含まれる。外面調整は劣化のため不明、内面調整はミガキを残してる。焼成は良好で色調は内面が灰黄褐色、外面が橙色である。底径は12.8cmである。遺物の時期は弥生時代中期に比定できる。

30号土坑 (第115図)

遺構は29号土坑の南東側に位置するもので、南東部分は調査区外に展開すると考えられる。平面プランは歪な円形と推定され、遺構内には円形の堀り方が検出された。確認できる規模は南北軸94cm、東西軸70cm以上、深さ76cmである。遺構内から遺物は出土していない。

1号方形周溝墓 (第117図)

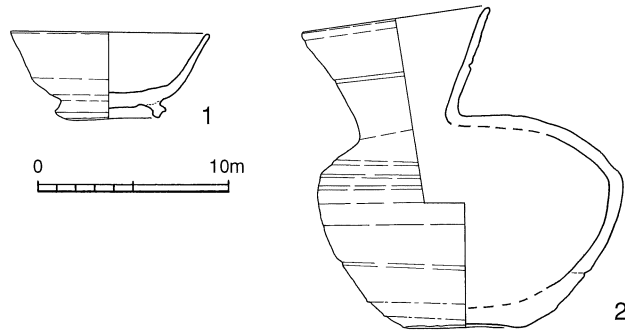
方形周溝墓は調査区の東側隅に位置するが、部分的に深い攪乱を受けている。遺構南コーナー部は現道下に広がると推定され、遺構上部は削平が著しく主体部を消失していた。確認できる規模は長軸8m、短軸7.4m、周溝幅は約80cmで断面逆台形を呈しており、深さは30cmから50cmである。



第117図 C区1号方形周溝墓実測図 (S=1/60)

1号方形周溝墓出土遺物 (第118図)

遺物は主に周溝部内から出土したが、実測可能な遺物は完形品で出土した須恵器の平瓶と高台付きの椀である。1は口径10.6cm、器高4.8cm、高台径5cmである。胎土には角閃石、長石を含んでいる。体部内外面は回転ナデ、高台部は回転ヘラ切り後、指ナデを残している。焼成は良好で、色調は内外面ともに明灰黄色である。遺物の時期は7世紀後半のものと考えられる。2の平瓶の口径は9.8cm、器高16.8cm、底径6.5cmである。胎土には角閃石、長石が含まれる。頸部には1条の沈線を巡らしており、外面調整は口縁部から頸部が回転ナデ、胴部は回転ナデ・カキ目・回転ヘラ削り、底部は回転ヘラ切りの後、ナデが施されている。色調は淡灰色で焼成は良好である。



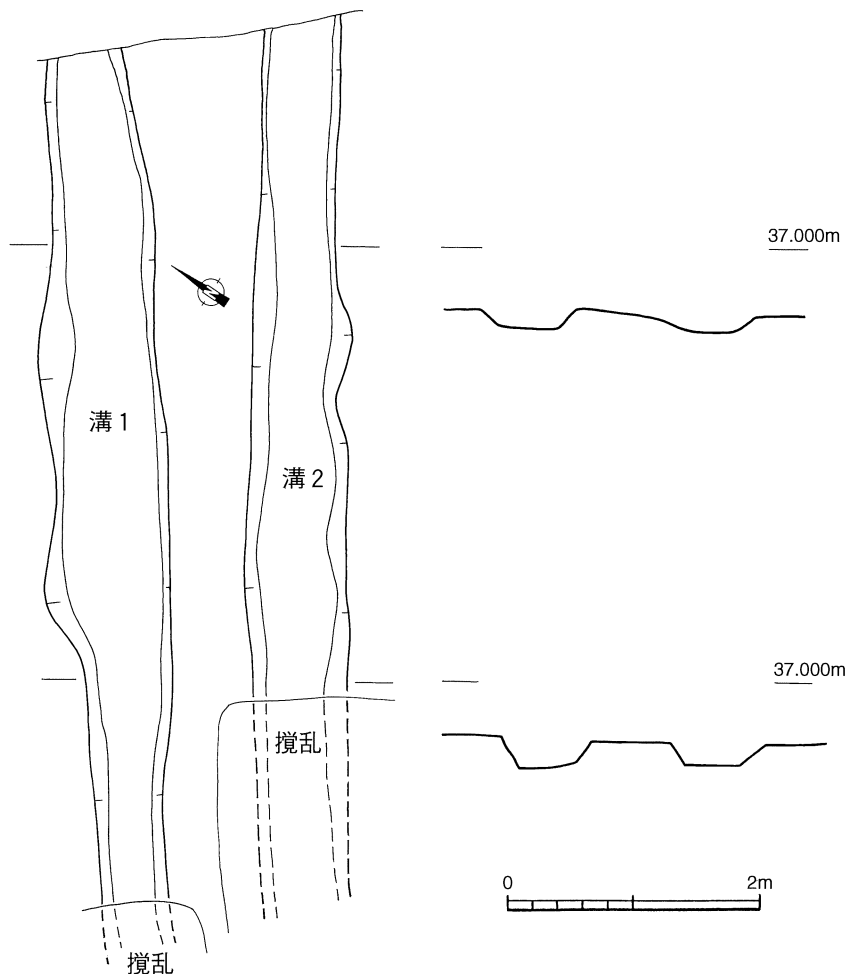
第118図 C区1号方形周溝墓出土遺物実測図 (S=1/4)

1号溝状遺構 (第119図)

1号溝状遺構は調査区中央部のやや東側に位置している。遺構は北西から南西に延びているが、南西部がコンクリート基礎で攪乱されている。長さは約7m、幅は70cmか105cm、深さは15cmから20cmである。遺物は出土していない。

2号溝状遺構 (第119図)

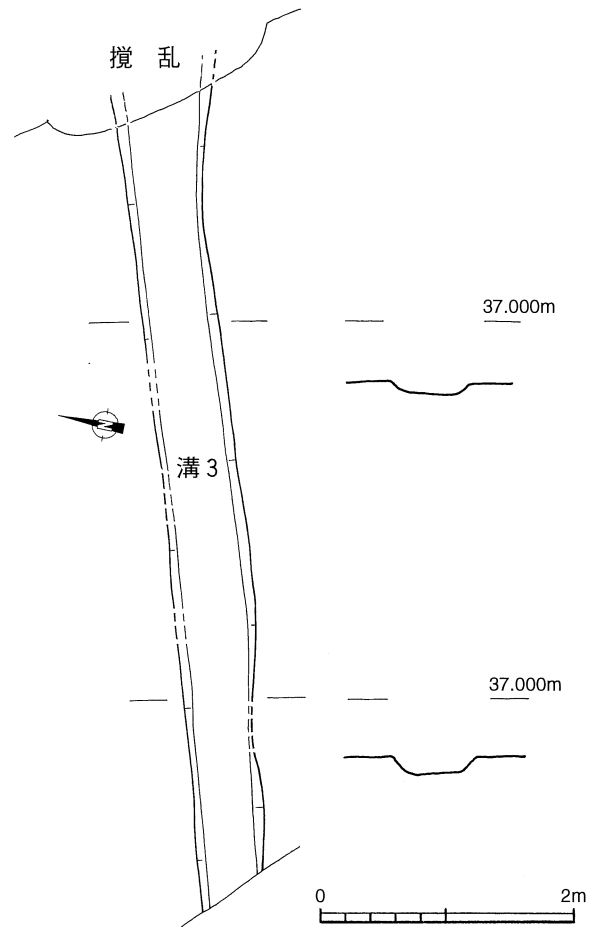
2号溝状遺構は1号溝状遺構の南東側70cm横をほぼ並行に走っている。南西端は攪乱されている。溝の長さは約5.5m、幅は60~80cm、深さは15~22cmである。遺物は出土していない。



第119図 C区1号・2号溝状遺構実測図 (S=1/60)

3号溝状遺構（第120図）

遺構は調査区の中央やや南東側に位置し、ほぼ東西にのびている。遺構東端は攪乱されているが、1号溝状遺構と同一遺構の可能性が有る。長さ約6.3m、幅約70cm、深さ10～15cmである。遺物は出土していない。



第120図 C区3号溝状遺構実測図（S=1/60）

第4節 D区の調査

1. 調査の概要

当該区はC区の南東側に市道を挟んで位置する。現況は宅地と荒地であったが、表土を除去すると中央部に浅い谷地形を確認した。谷には大量の客土がなされており、現地住民から聴取したところによると、昭和17・18年頃、住民の手で埋められたものと判明した。調査区からは住居跡1基・土坑11基・道状遺構1条・ピット群多数を確認した。

出土遺物はC区と同様に弥生時代前期末から中期の土器が主で、その他、C区の方形周溝墓に伴うものと思われる須恵器が6点出土した。（栗原）

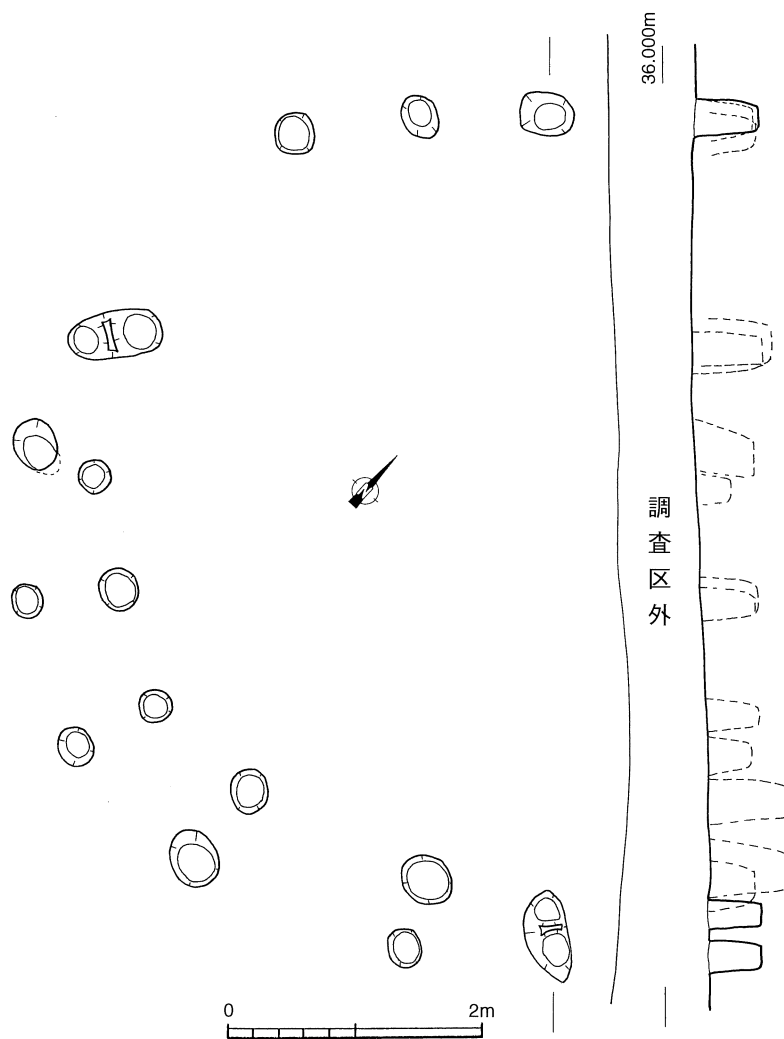
2. 遺構と遺物

1号竪穴住居跡（第121図）

住居は調査区の中央やや西側に位置している。遺構は攪乱が激しく床・壁などの住居跡上部構造を消失していた。柱穴は一部を除いて2本ずつのペアで並ぶことが確認されたが、原状が各2本ずつの柱を持った住居なのか、または建て替えられたものかは判別できない。柱穴の検出状況から遺構は直径約9mの円形住居と考えられ、一部は調査区外に広がると推定される。

1号竪穴住居跡出土遺物（第122図）

1は甕形土器の口縁部で、胎土には角閃石が含まれる。口唇部には刻目、口縁部内外面は横ナデ、胴部の内面はヘラミガキ、胴部外面はハケ目の上からヘラミガキが施されている。焼成は良好で、



第121図 D区1号竪穴住居跡実測図 (S=1/60)

色調は内面が鈍い黄褐色、外面が黄橙色である。2・3は甕形土器の底部で胎土にはともに角閃石・斜長石・石英を含んでいる。内面は風化が激しく調整は不明であるが、外面は2・3ともにハケ目が僅かに確認できる。復元底径はともに8cmである。遺物の時期は弥生時代前期末と考えられる。

1号土坑 (第123図)

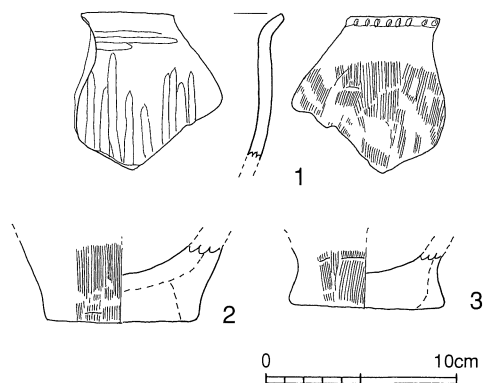
土坑は調査区の南西隅に位置する。平面プランは楕円形で規模は長軸150cm、短軸120cm、深さ16cmである。遺物は数片の土器片を確認したが、時期の特定はできない。

2号土坑 (第124図)

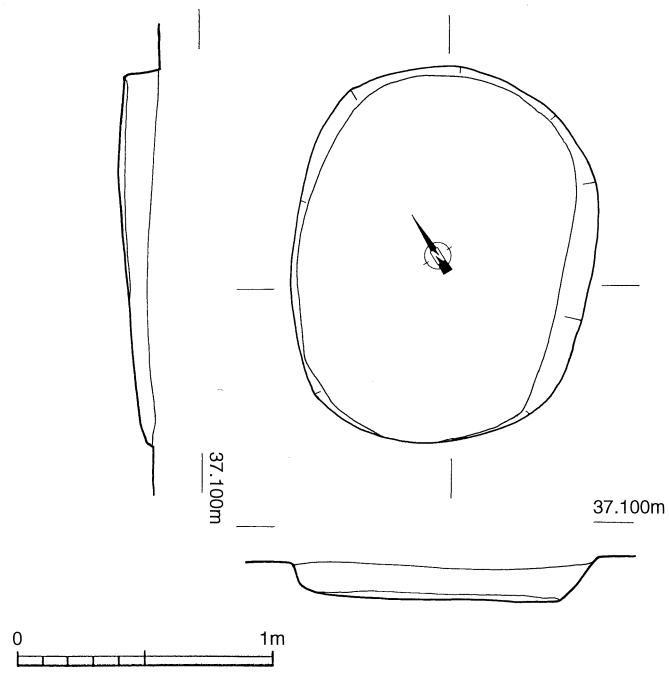
2号土坑は1号土坑の南西隣に位置する。遺構南西部は攪乱を受けている。平面プランは不定形で、確認できる規模は長軸180cm、短軸は156cm、深さ20cmである。土坑中央部には直径20cm、深さ46cmのピットを有する。遺物は出土していない。

3号土坑 (第125図)

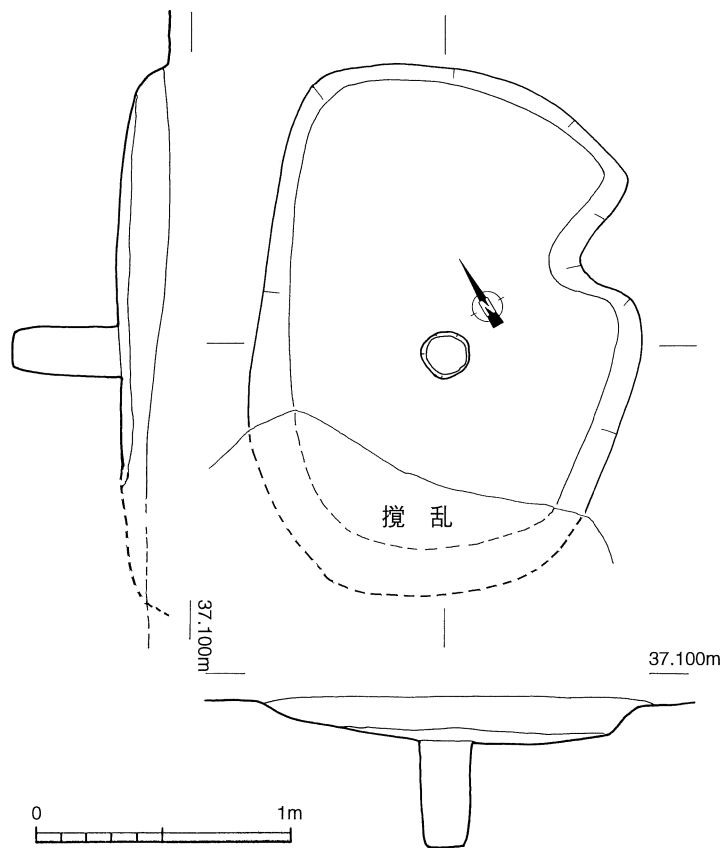
土坑は調査区の北西側に位置する。遺構は4号土坑と切り合い関係にあり、遺構検出面の観察から4号土坑→3号土坑の新旧関係を確認した。平面プランは円形で、規模は直径約120cm、深さ



第122図 D区1号竪穴住居跡出土遺物実測図 (S=1/3)



第123图 D区1号土坑实测图 (S=1/30)



第124图 D区2号土坑实测图 (S=1/30)

20cmである。遺物は出土していない。

4号土坑（第125図）

土坑は3号土坑と切り合い関係にある。平面プランは楕円形で、確認できる規模は、長軸120cm、短軸80cm、深さ18cmで浅めである。遺物は出土していない。

5号土坑（第126図）

土坑は調査区の南西に位置する。平面プランは隅丸方形で、規模は長軸230cm、短軸100cm、深さ10cmである。遺物は数片の土器片が出土したが時期は特定できない。

6号土坑（第127図）

土坑は5号土坑の東隣にある。平面形は円形で、規模は直径110cm、深さは20cmである。遺物は出土していないが、土器製作の材料と考えられる明茶褐色の粘土塊が残存していた。

7号土坑（第128図）

土坑は調査区南西に位置する。平面形は楕円形で長軸130cm、短軸115cm、深さ45cmである。遺構断面は袋状を呈している。底部中央には直径約30cmの窪みがある。埋土中より出土した土器片は劣化が著しく時期を特定できない。

8号土坑（第129図）

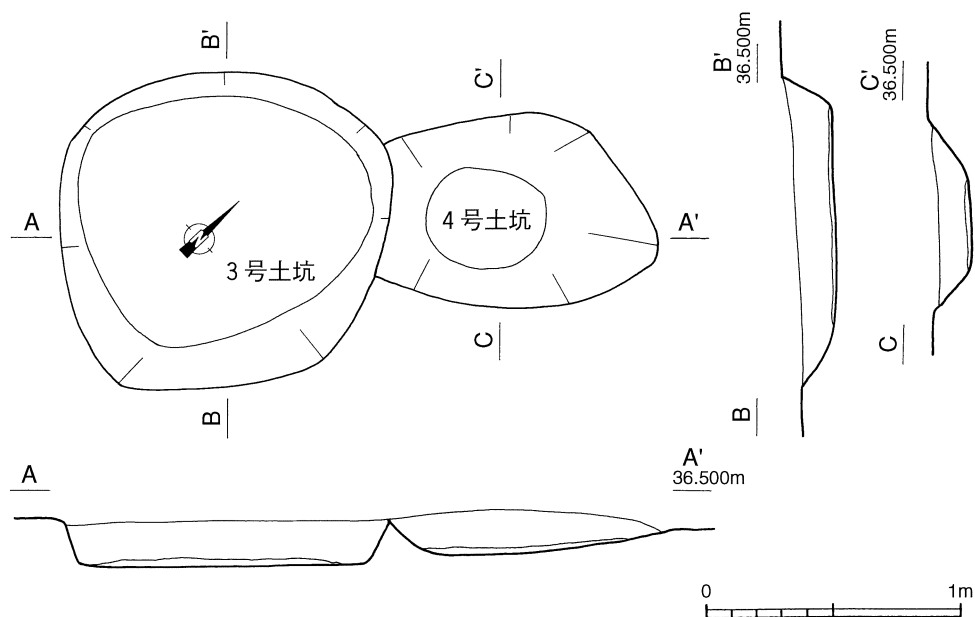
遺構は7号土坑の南隣に位置する。平面プランは円形で、規模は直径150cm、深さ70cmである。遺構断面は袋状を呈しており、7号土坑と同じく埋土に土器片が混入していた。遺物は摩滅が激しく時期を特定できない。

9号土坑（第130図）

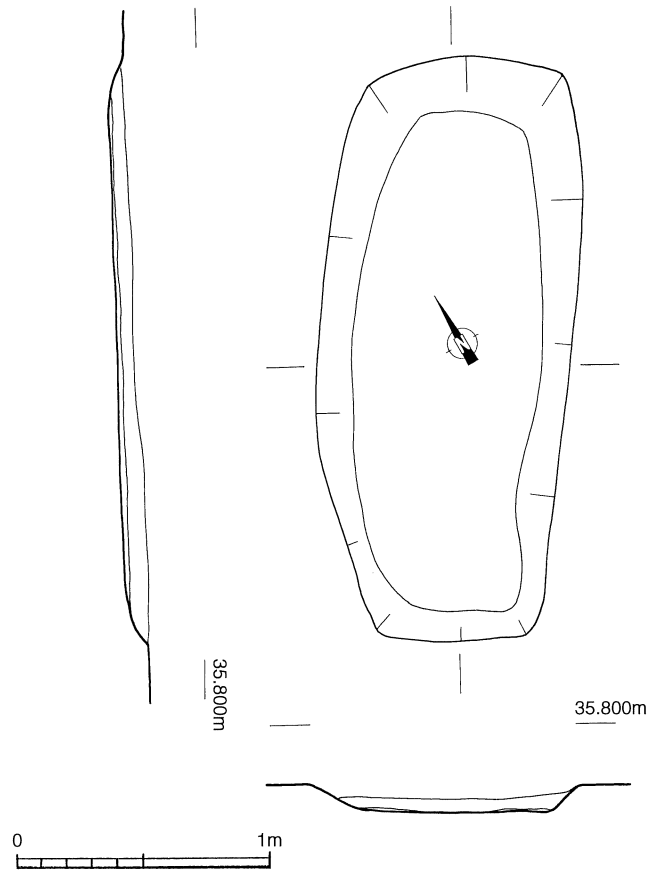
土坑は8号土坑の南隣にある。平面プランは円形で、規模は直径130cm、深さ78cmである。遺構は7号・8号土坑と同様に袋状を呈している。出土遺物は甕形土器の口縁部数点と底部数点が出土している。

9号土坑出土遺物（第131図）

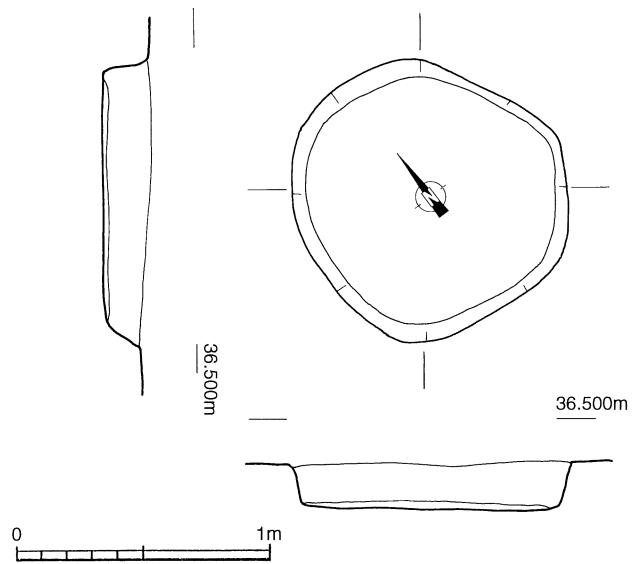
1は口縁部に刻目貼り付け突帯を巡らした下城式の甕形土器片である。胎土は角閃石・長石・石英が多量に含まれており、突帯付近は横ナデが施されている。内面と外面胴部にかけては剥落が



第125図 D区3・4号土坑実測図 (S=1/30)



第126图 D区5号土坑实测图 (S=1/30)



第127图 D区6号土坑实测图 (S=1/30)

激しく調整不明である。焼成は良好で、色調は黄褐色である。2は底部で復元底径は5.6cmである。胎土は角閃石・長石・石英が含まれる。内面には丁寧なナデを施し、外面胴部にはハケ目を残している。焼成は良好で、色調は内外面とも黄褐色である。

1の時期は弥生時代前期末から中期初頭と考えられる。2の時期は不明である。

10号土坑（第132図）

土坑は9号土坑の東隣にあり、平面プランは円形で、規模は直径80cm、深さ20cmである。遺物は土器片が十数点出土しているが劣化が著しく図化し得たのは1点にとどまった。

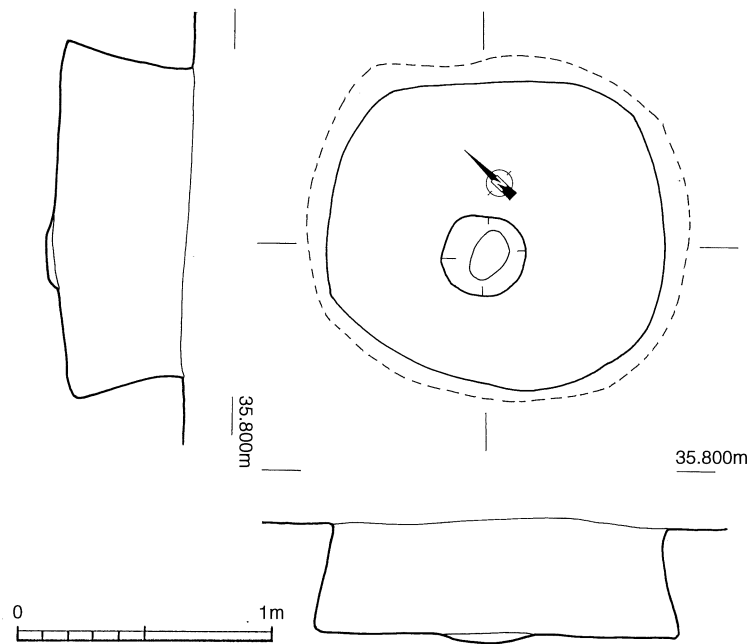
10号土坑出土遺物（第133図）

1は口縁部から底部までの半完形品である。口縁部は大きく外反している。復元口径は30.5cm、器高26.8cm、底径9cmである。胎土には角閃石・長石・石英・砂粒を多く含み、内面はミガキ、外面は縦方向にハケ目、口縁部には横ナデの調整を残している。焼成は良好で、色調は内外面とも黄褐色である。遺物の時期は弥生時代中期前半に比定できる。

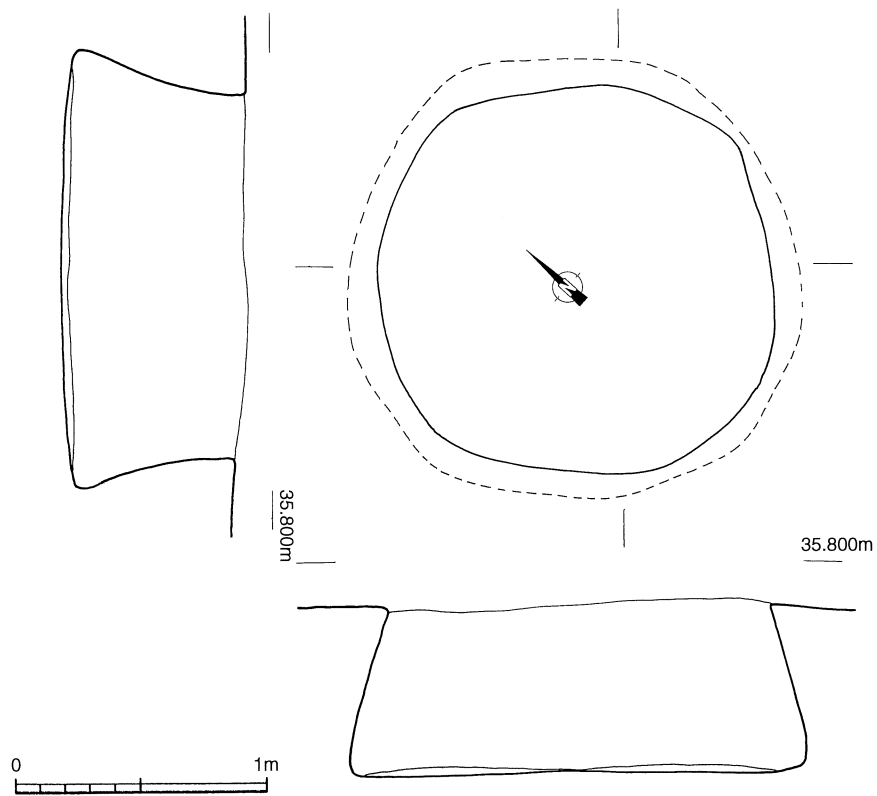
11号土坑（第134図）

土坑は調査区の南東に位置し、道状遺構東側の溝状掘り方と切り合い関係にある。新旧関係は遺構検出面の観察から11号土坑が道状遺構の掘り方を切っていることが確認された。

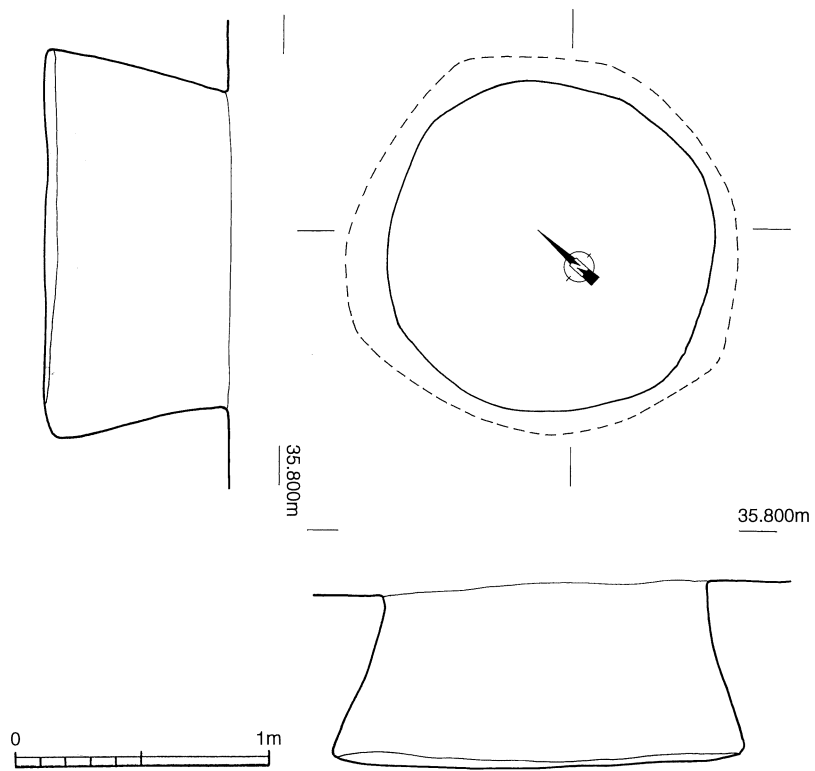
土坑の平面プランは隅丸方形で長軸140cm、短軸約80cm、深さは20～10cmである。遺物は土器片が10点ほど出土したが時代を特定できるものはない。



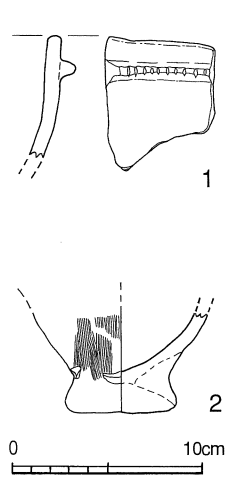
第128図 D区7号土坑実測図（S=1/30）



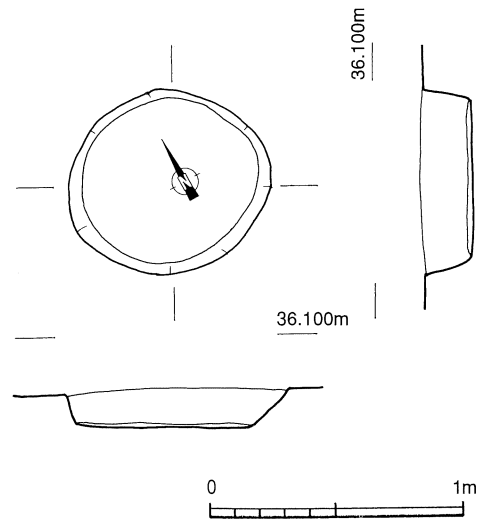
第129图 D区8号土坑实测图 (S=1/30)



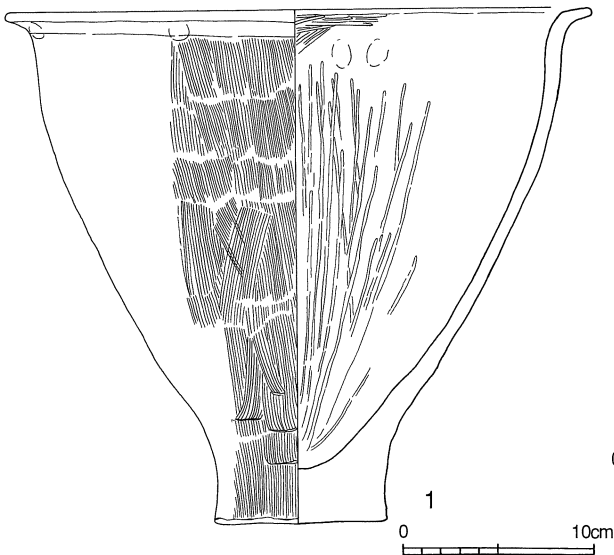
第130图 D区9号土坑实测图 (S=1/30)



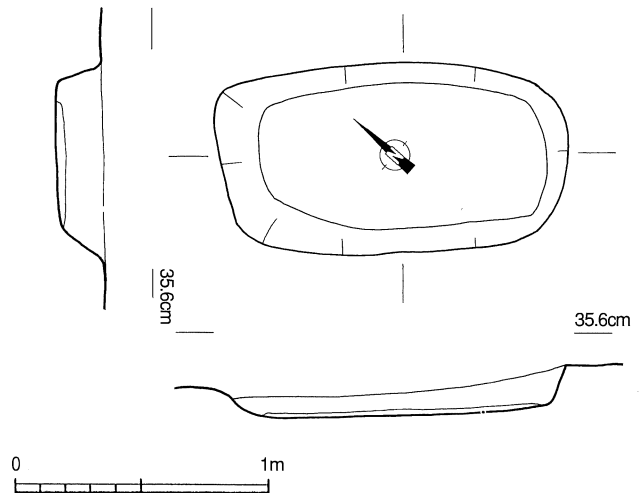
第131図 D区9号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)



第132図 D区10号土坑実測図 (S=1/30)



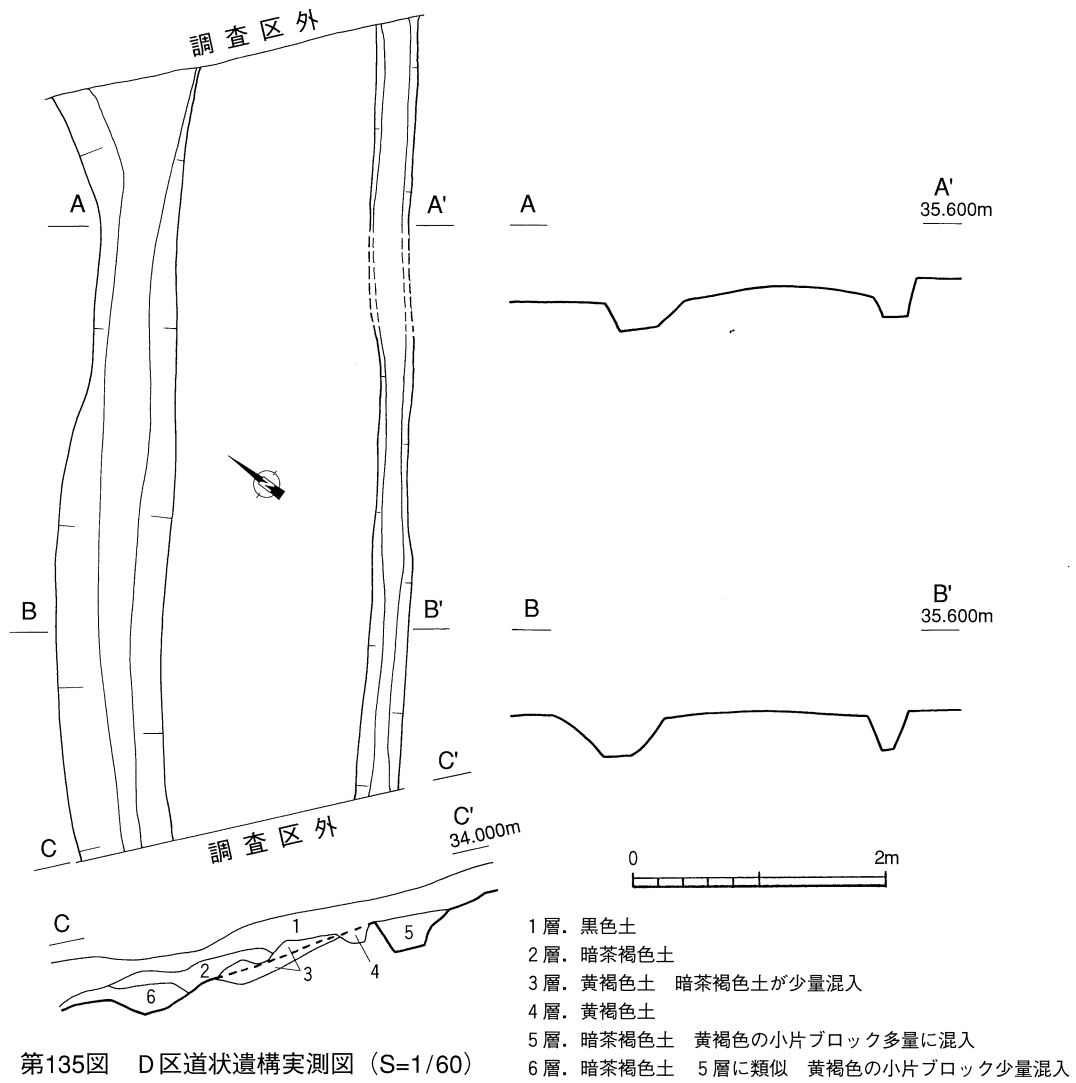
第133図 D区10号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)



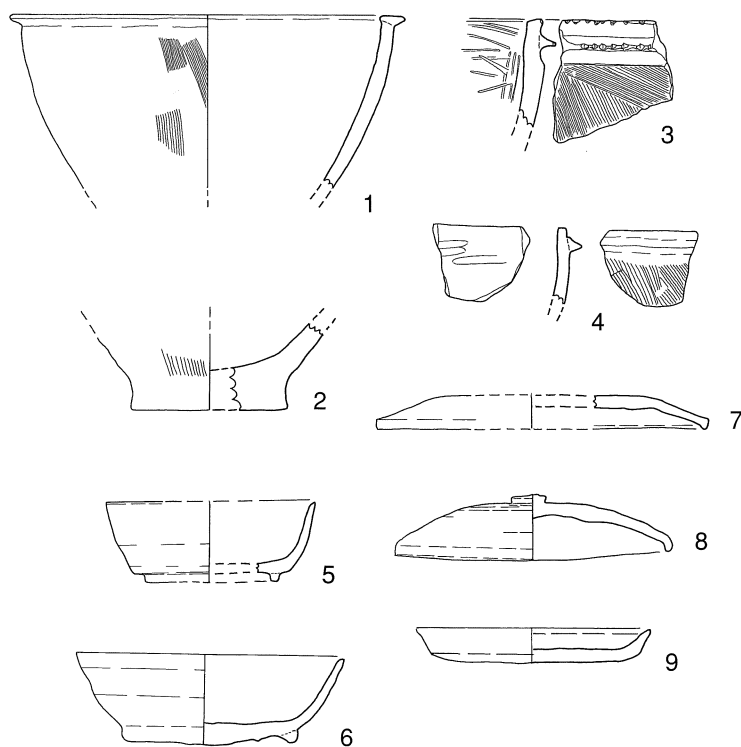
第134図 D区11号土坑実測図 (S=1/30)

道状遺構 (第135図)

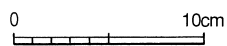
遺構は調査区の南東側に北東から南西に延びている。確認できた遺構の長さは6.1mである。前述したように道を区画する溝は、11号土坑と切り合い関係にある。遺構の幅は約160cmで、西側の溝の幅は70cmから100cm、深さは20cmから30cm、東側の溝は幅25cmから30cm、深さは30cmである。遺物は溝内から数点の土器片が出土しているが、遺物は器面の劣化が著しく、時期の特定はできない。



第135図 D区道状遺構実測図 (S=1/60)



第136図 D区表採遺物実測図 (S=1/4)



番号	器種	法 量(cm)			器 面 調 整 の 方 法	色 調	胎 土	備 考
		口径	底径	器高				
1	甕				内面ミガキ 外面ハケ目の上からミガキ	黄橙色	角閃石 斜長石	
2	甕				内面ミガキ 外面ハケ目 口縁部に刻目突帯を巡らす	淡茶色	角閃石 石英	
3	甕				内面不明 外面ハケ目	暗茶色	角閃石 石英	
4	甕		8.1	4.4	内面ミガキ 外面ハケ目	浅黄色	角閃石	
5	坏	14.1	8.8	4.8	内外面回転指ナデ	灰黄色	角閃石	須恵器
6	坏	11.1		4.3	内外面回転指ナデ	灰黄色	角閃石	須恵器
8	蓋			1.8	内外面回転指ナデ	灰黄色	角閃石	須恵器
9	蓋	14.5		3.4	内面回転指ナデ 外面回転ヘラ 削り	灰黄色	角閃石	須恵器
10	皿	12.4		1.7	回転指ナデ	灰黄色	角閃石	須恵器

第4表 D区表採遺物観察表

第5節 E区の調査

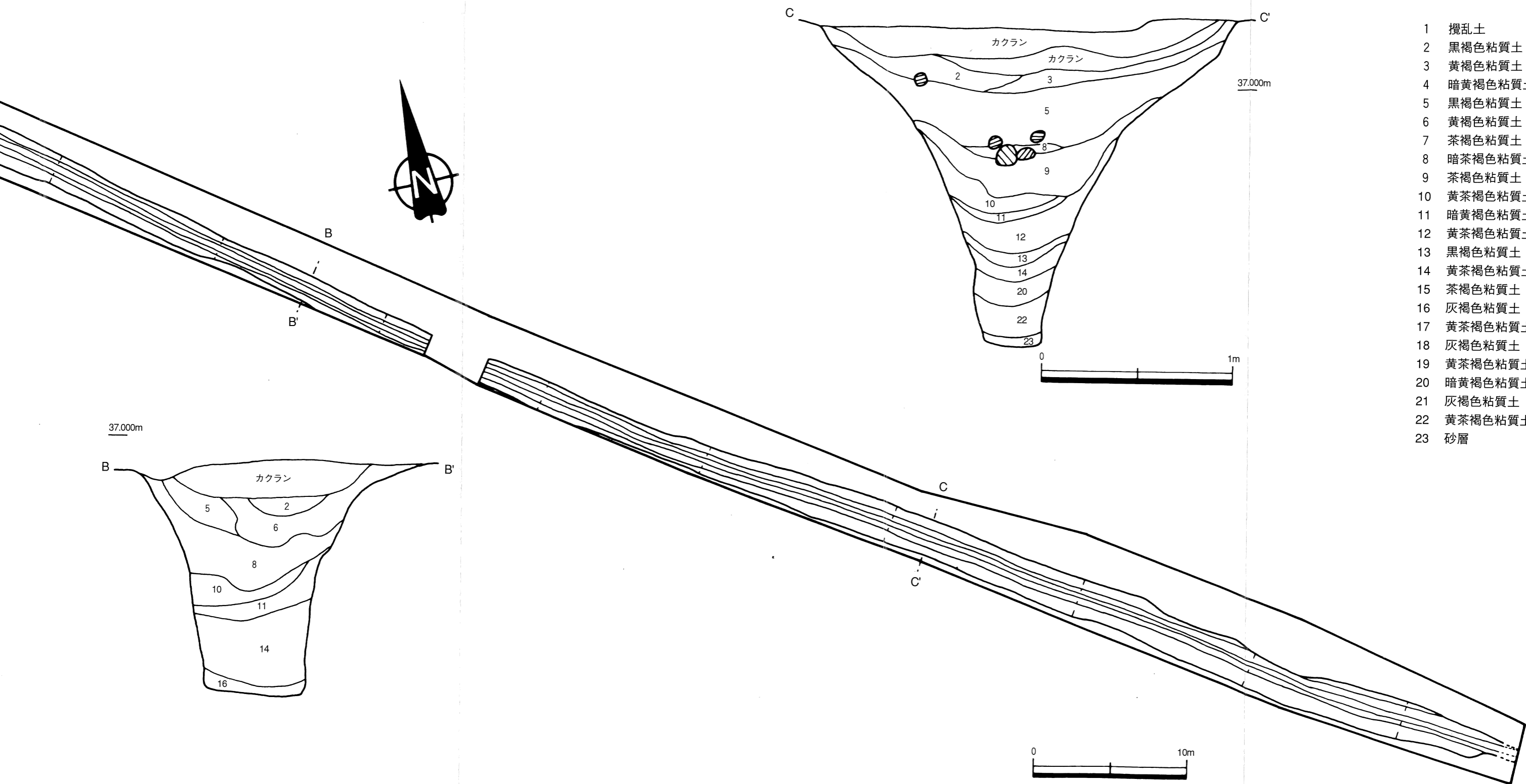
1. 調査の概要

調査区は道路の拡幅に伴って調査が行われたもので、調査面積は約1260m²である。幅員約6m、長さ約210mの細長い調査区であった。しかし、平成7年度に行った上ノ原平原遺跡A区の調査で確認された1号溝の続きを確認することが出来た。(平田)

2. 遺構と遺物

1号溝(第137図)

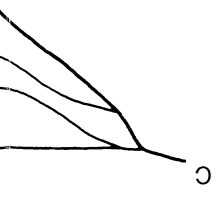
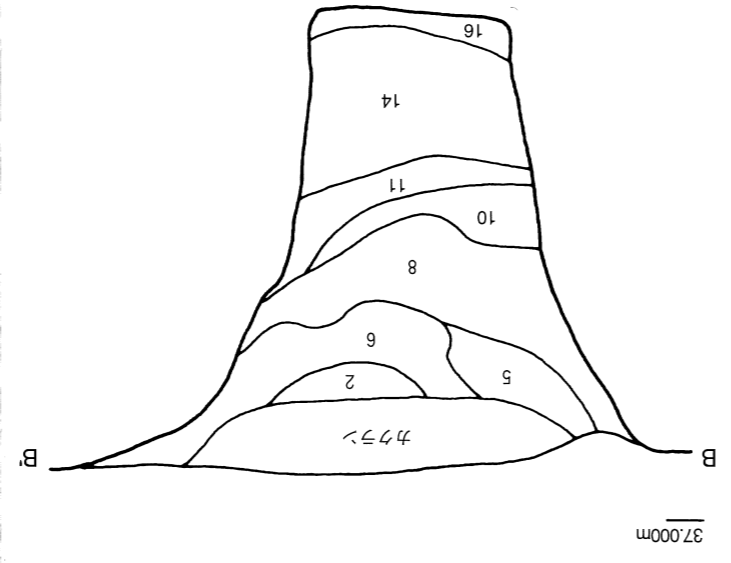
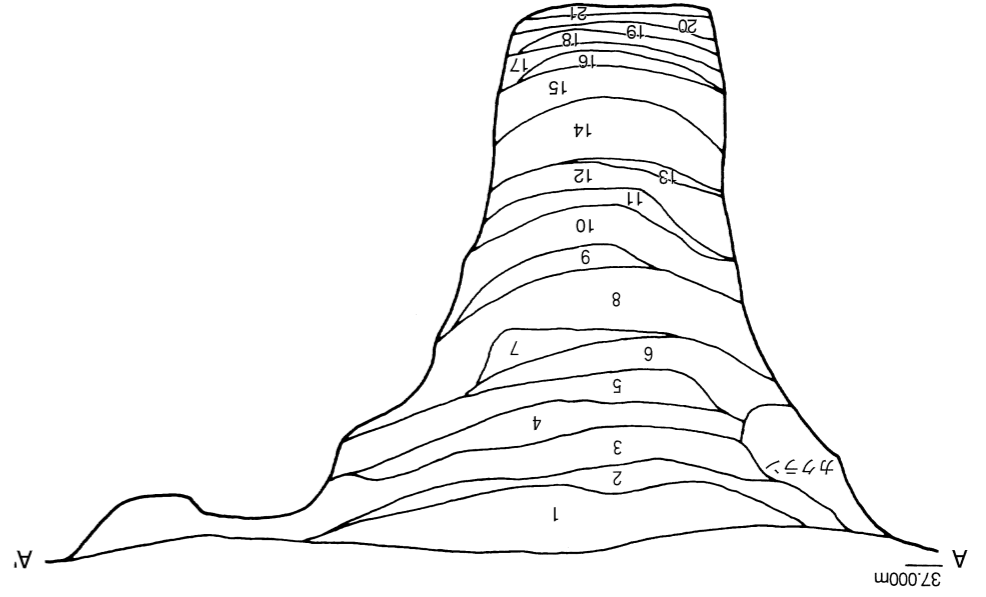
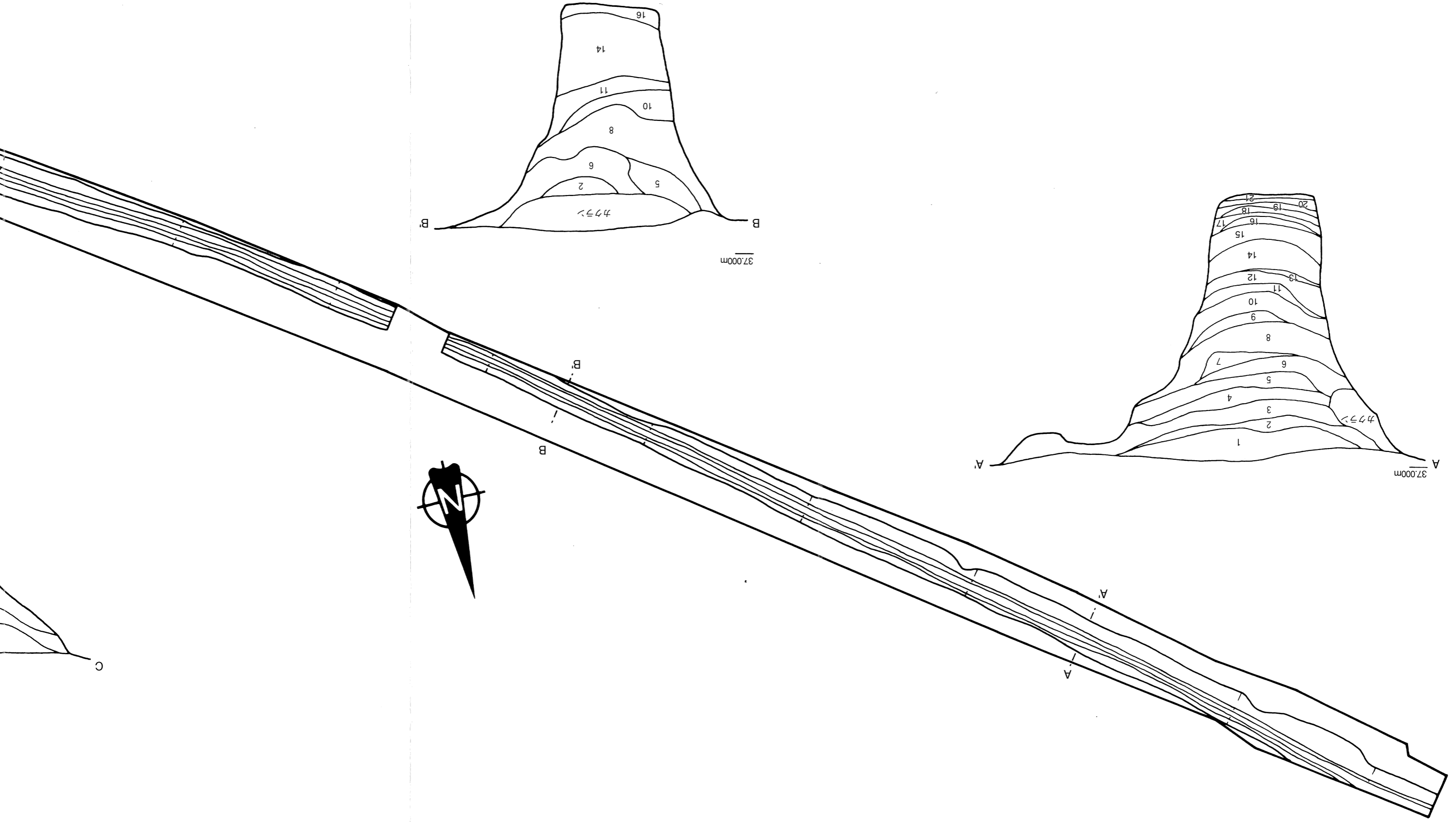
遺構は細長い調査区に沿って約160m確認された。溝の規模は幅2.2m、深さ1.45m、溝床面の幅は約0.5mである。遺構断面はY字状を呈している。遺構内土砂堆積状況を見ると検出面から15cm程下までは後世の攪乱をかなり受けていた。その下層は一度に遺構が埋まったのではなく少しずつ埋まっている状態を観察することができる。また15層から下部では砂層と粘土層の互層を観察することができる。A区調査時に検出された1号溝でも、土層の観察から水が流れていたことを確認したが、今回の調査でも確認された。



- 1 攪乱土
- 2 黒褐色粘質土
- 3 黄褐色粘質土
- 4 暗黄褐色粘質土
- 5 黒褐色粘質土
- 6 黄褐色粘質土
- 7 茶褐色粘質土
- 8 暗茶褐色粘質土
- 9 茶褐色粘質土
- 10 黄茶褐色粘質土
- 11 暗黄褐色粘質土
- 12 黄茶褐色粘質土
- 13 黒褐色粘質土
- 14 黄茶褐色粘質土
- 15 茶褐色粘質土
- 16 灰褐色粘質土
- 17 黄茶褐色粘質土
- 18 灰褐色粘質土
- 19 黄茶褐色粘質土
- 20 暗黄褐色粘質土
- 21 灰褐色粘質土
- 22 黄茶褐色粘質土
- 23 砂層

第137図 E区1号溝実測図 (溝S=1/250、土層S=1/20)

第137图 E区1号溝実測図 (溝S=1/250、土層S=1/20)



第Ⅳ章 ま と め

遺跡の周辺には、佐知遺跡を好例として多くの遺跡が所在している。しかしながら、弥生時代前期に限ってみると、その確認例は多くない。平成4年と10年に調査が実施された三光村佐知久保畑遺跡でも、その遺構・遺物の多くが弥生時代中期のもので、いわゆる、須玖Ⅱ式併行期と呼ばれる時期である。しかし、近年の発掘調査の進展から弥生時代前期の遺跡も徐々にではあるが発見されはじめている。

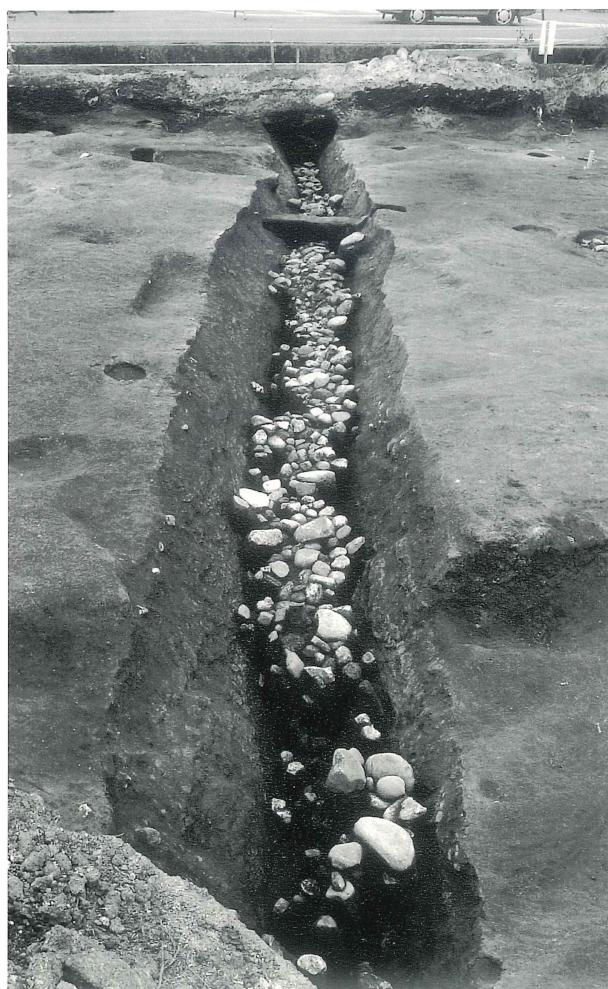
今回の調査からC区を中心に遺跡の広がりを推定できることから、弥生時代前期には山国川を見下ろす丘陵上に集落を営みつつ、河川を軸に水田を営んでいた構図が想定され、補完されることになる。さらに、A区及びE区で確認された溝をみると、上ノ原遺跡（平成5年度に三光村が発掘調査を実施）の溝とほぼ同一線上にあることから、一連の遺構と考えられる。平成5年の三光村の調査では遺物の出土量が少なく、遺構の時期・性格に迫れなかったが、両区溝跡の出土遺物から9世紀後半から10世紀に遡る可能性がある。遺跡周辺には現在でも溜め池を随所にみることができ、当該溝も池に関係する施設と考えられる。

上ノ原平原遺跡は当地区では、確認例の少ない弥生時代前期から中期初頭の遺跡であることが判明したが、中津平野とそれに続く丘陵地帯では類例の少ない遺跡ともいえる。今後、同期の遺跡の発見・考究を待ち当遺跡の精妙なる位置付けに期待したい。

写 真 图 版



A区全景



1号沟全景



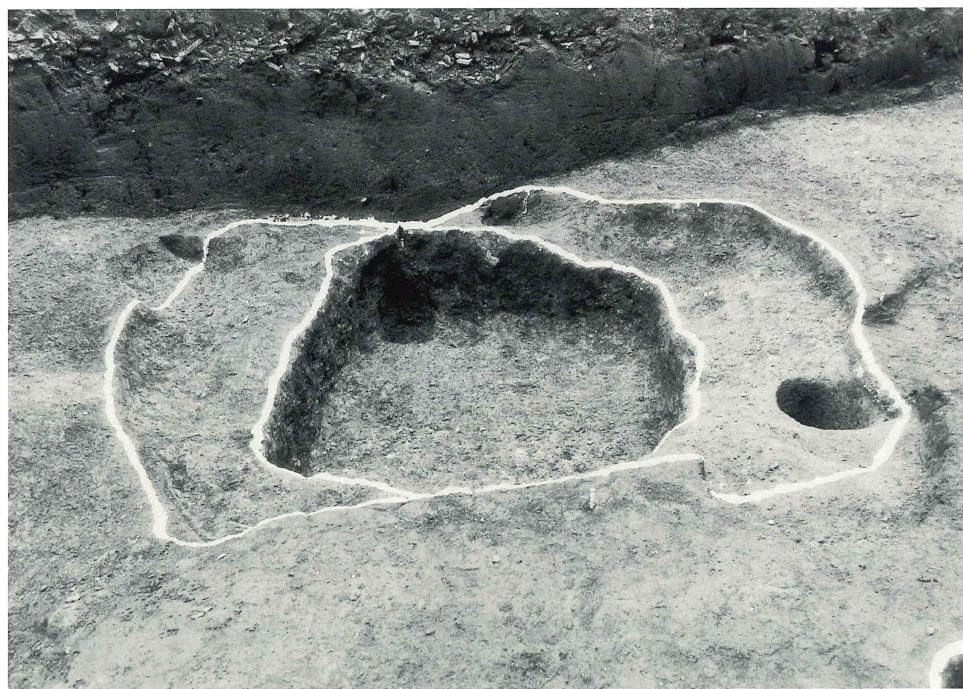
1号沟土层



上ノ原平原遺跡調査区C区・D区全景



B区 1号竖穴住居跡



B区 2号土坑

图版 4



B区1号沟状遺構



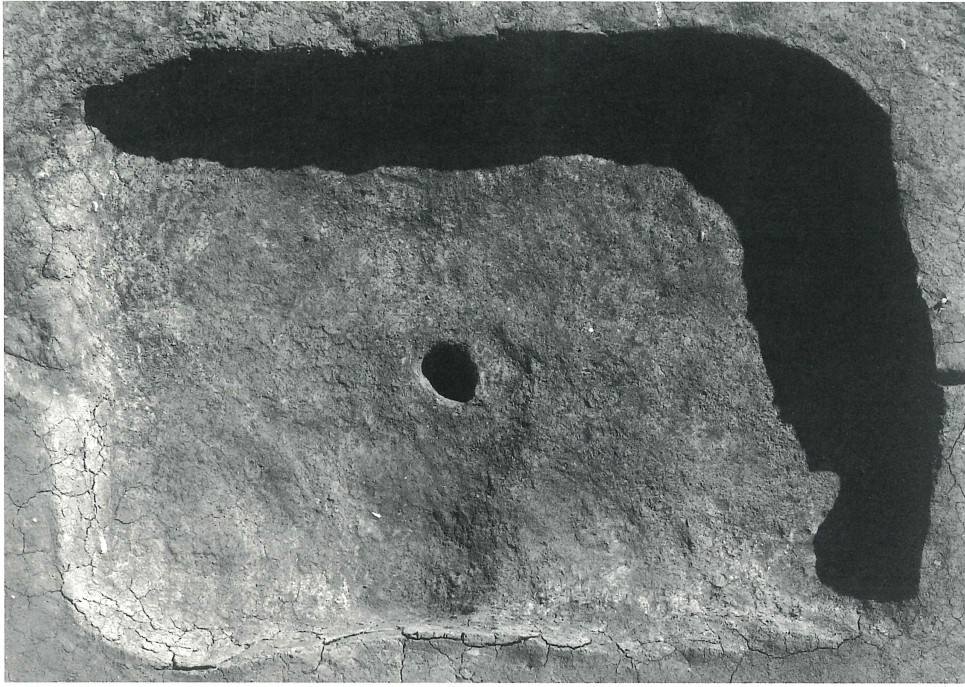
C区南西部端遠景



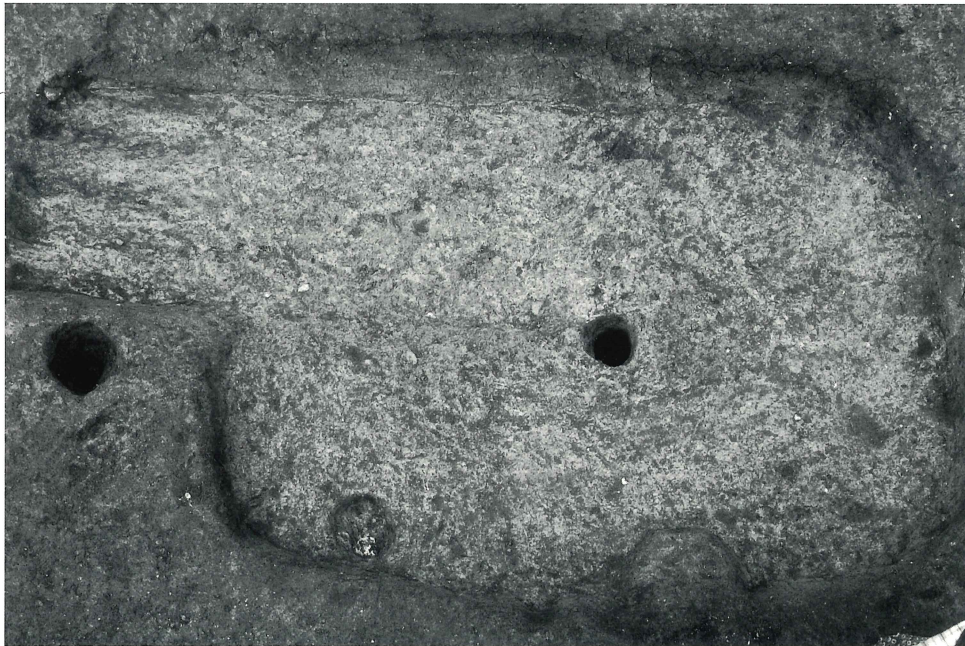
C区西北部端远景



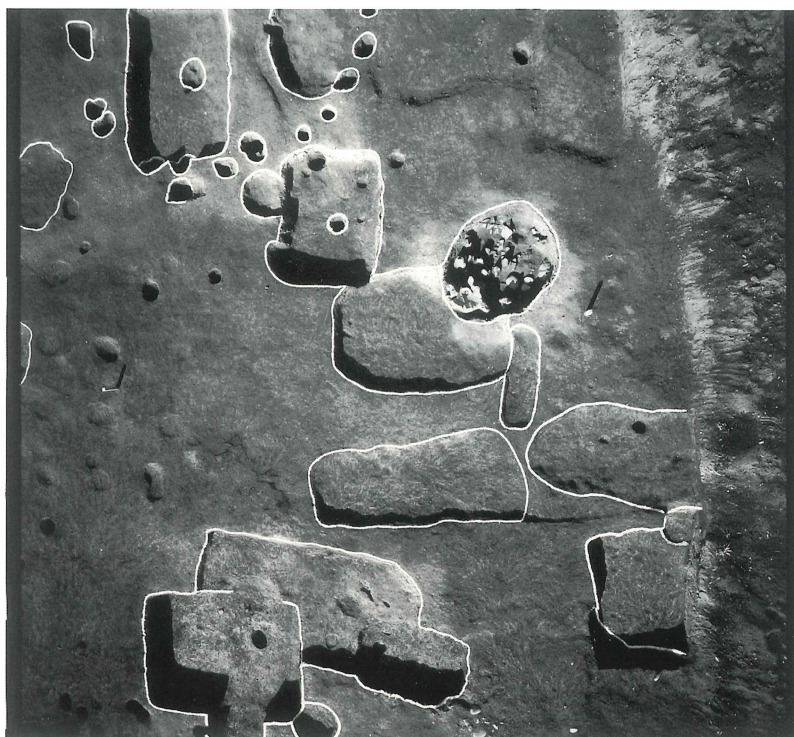
C区3号竖穴遺構



C区 4号竖穴遺構



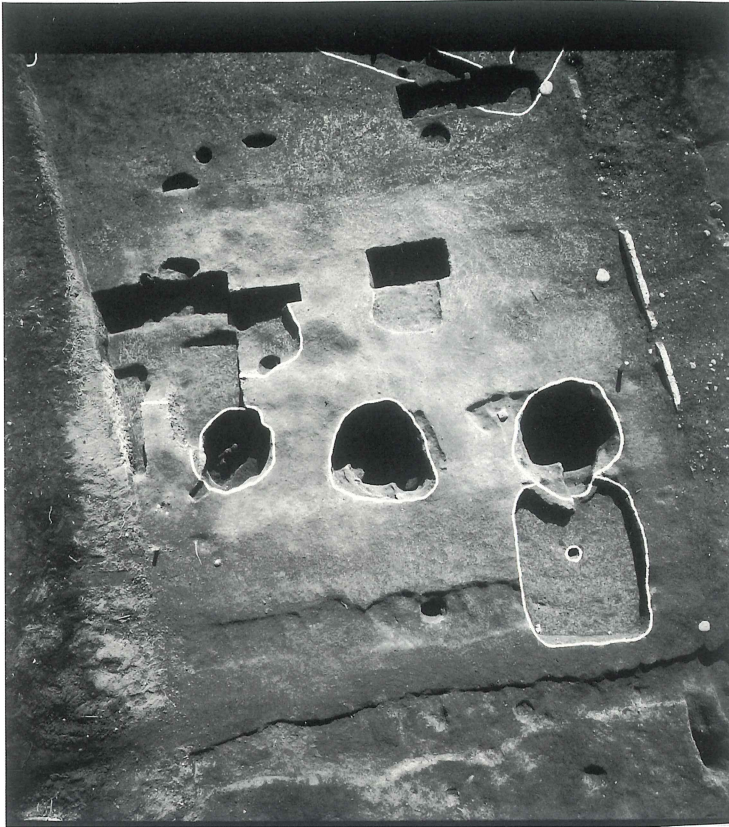
C区 5号竖穴遺構



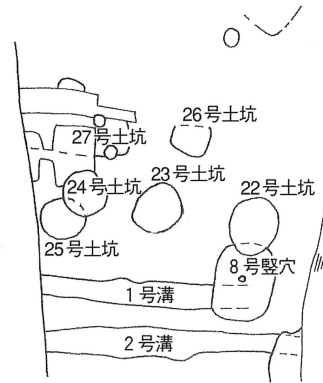
C区北西部远景



C区6号竖穴遺構



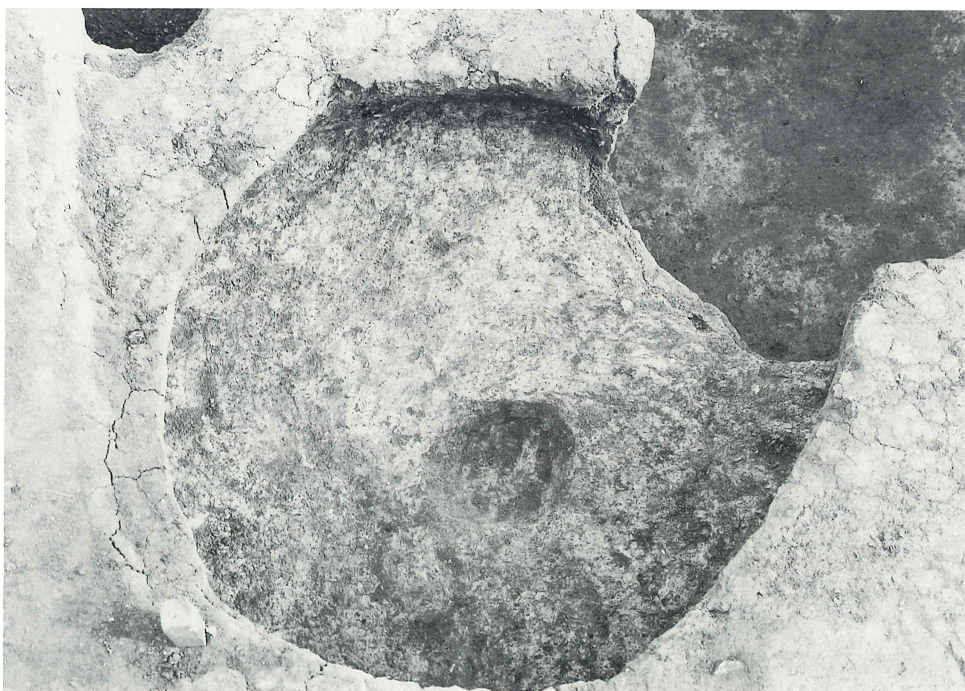
C区北东部远景



C区23号土坑



C区18号·19号土坑



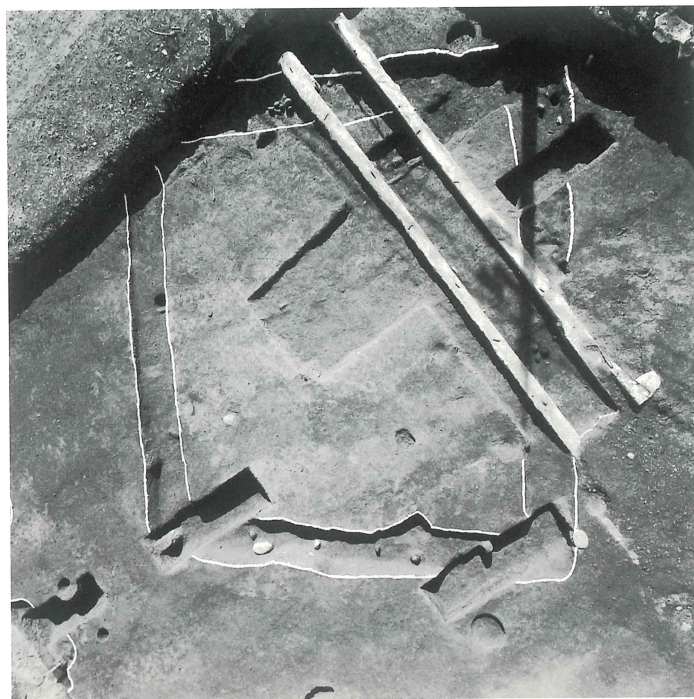
C区25号土坑



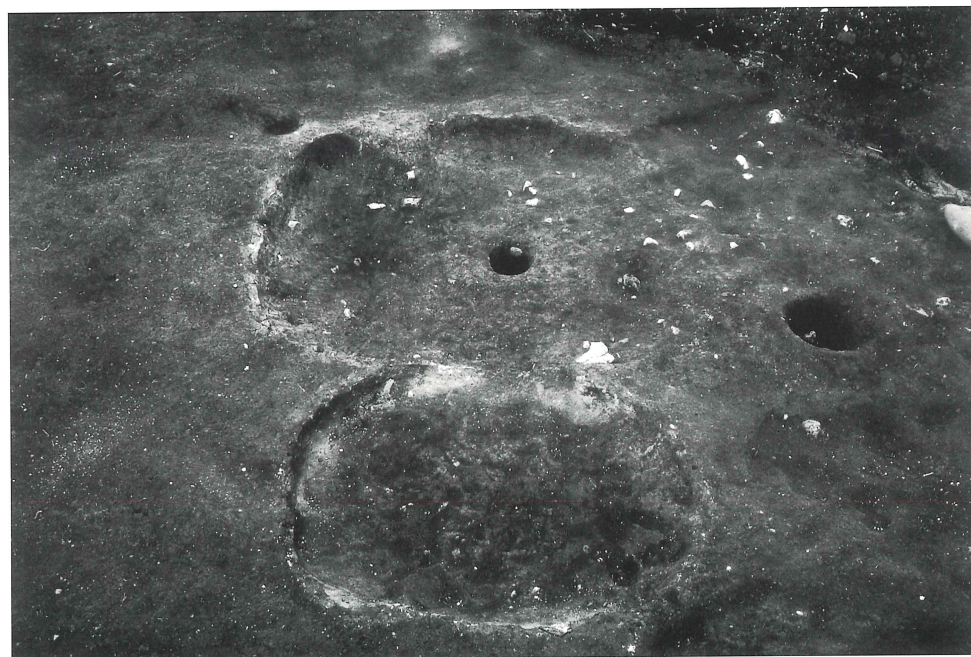
C区5号土坑



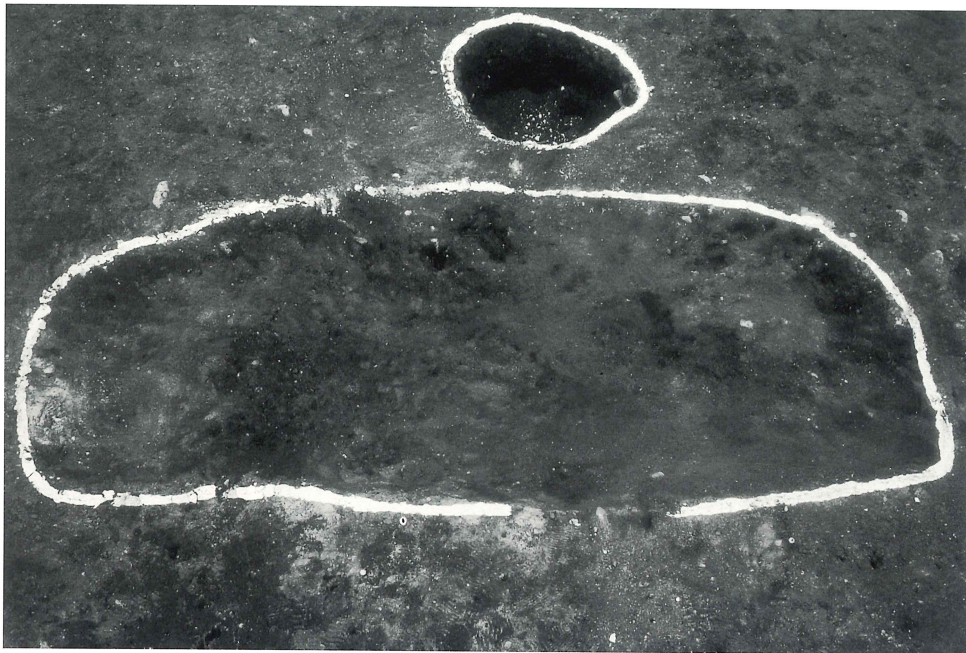
C区作業風景



C区方形周溝墓



D区1号·2号土坑



D区5号土坑

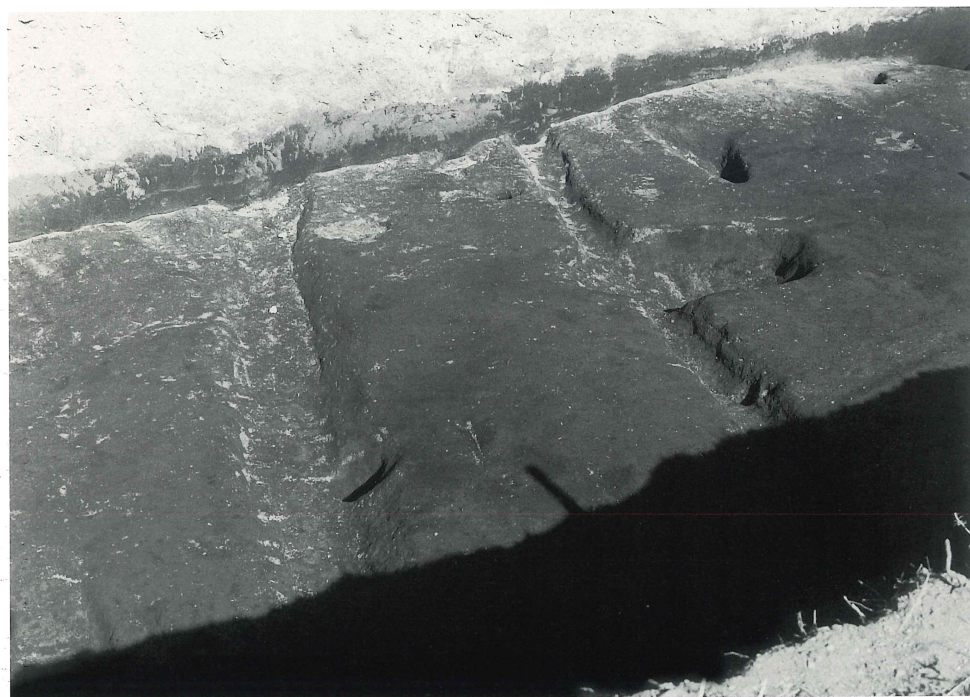


D区6号土坑



- 10号土坑 ○
- 9号土坑 ○
- 8号土坑 ○
- 7号土坑 ○

D区7号~10号土坑



D区道状遺構・11号土坑

図版14



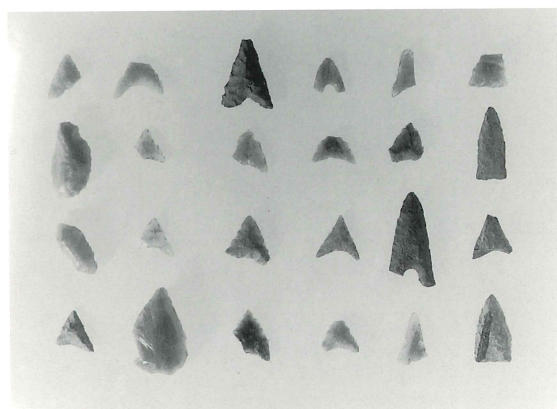
E区遠景



1号溝全景



1号溝土層



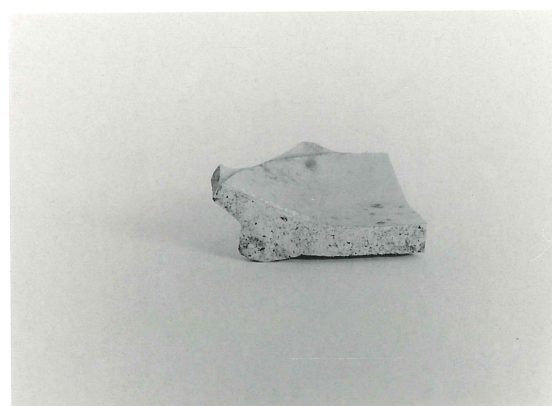
石鏃



石斧



13



24



32



33



42



44



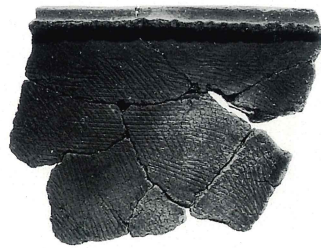
49



63



95



103



108



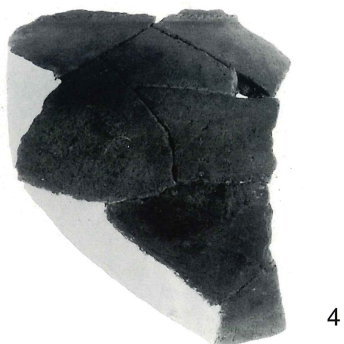
116



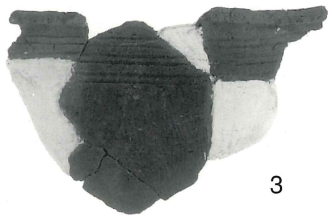
117



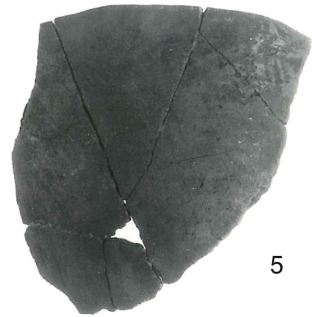
144



C区5号土坑出土遺物



C区19号土坑出土遺物



C区22号土坑出土遺物



1

C区23号土坑出土遺物



2

C区25号土坑出土遺物



2

C区23号土坑出土遺物



2

方形周溝墓出土遺物



1

C区25号土坑出土遺物



1

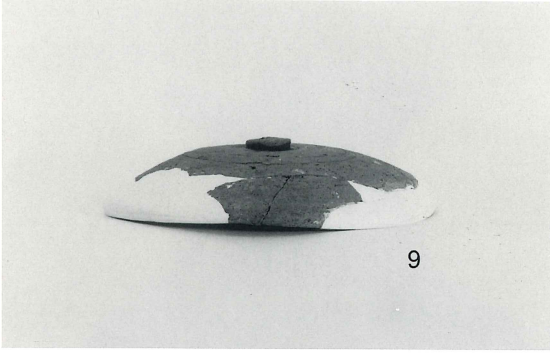
方形周溝墓出土遺物



6

D区表探遺物

图版20



9

D区表採遺物



101

C区6号土坑出土遺物



10

D区表採遺物



101

C区13号土坑出土遺物



101



102

C区1号竖穴遺構出土遺物



104

C区18号土坑出土遺物



101

C区2号竖穴遺構出土遺物



102



103

C区24号土坑出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	うえのはるひらばるいせき
書名	上ノ原平原遺跡
副書名	主要地方道円座中津線(相原工区)道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	—
シリーズ名	大分県文化財調査報告書
シリーズ番号	第113輯
編著者名	栗原 眞 平田由美
編集機関	大分県教育委員会
所在地	〒870-8503 大分市府内町3-10-1 〒870-1113 大分市大字中判田1977 大分県文化課文化財資料室
発行年月日	平成12年3月31日

ふりがな 所収遺跡	所在地	コード		北緯 ° , ' , ''	東経 ° , ' , ''	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うえのはるひらばるいせき 上ノ原平原遺跡	大分県 中津市 大字相原 三光村	44501	新発見	33°	131°	951002~960302	約2000m ²	主要地方道 円座中津線 道路改良 事業
				33′	11′	960902~970220	約2000m ²	
				21″	52″	980701~990331	1260m ²	

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
上ノ原平原遺跡		弥生時代	竪穴住居跡 竪穴遺構 土坑 方形周構墓 道状遺構	土器 石器	

上ノ原平原遺跡

主要地方道円座中津線(相原工区)道路改良事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

大分県文化財調査報告書第113輯

平成12年3月31日

編集 大分県教育庁文化課(文化財資料室)
〒870-1113 大分市大字中判田字ビワノ門1977番地
TEL (097)597-5675

発行 大分県教育委員会
〒870-8503 大分市府内町3丁目10番1号
TEL (097)536-1111

印刷 (有)勉強堂美術精版社
大分県佐伯市船頭町2番52号
